

(様式第10)

近大総発第1086号

令和 6年 10月 4日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 近畿大学  
理事長 世耕 弘成

近畿大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒577-8502
氏名	学校法人 近畿大学 理事長 世耕 弘成

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

近畿大学病院
--------

3 所在の場所

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2
電話(072) 366 - 0221

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科		有					
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							
アレルギー疾患内科またはアレルギー科の内容は呼吸器内科でリウマチ科の内容は血液内科で診ている。神経内科の診療内容は脳神経内科にて提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
呼吸器外科、乳腺外科、内分泌外科の内容は外科で診療している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	リハビリテーション科	3	病理診断科	4	腫瘍内科	5	心療内科
6	緩和ケア内科	7	漢方内科	8	脳神経内科	9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
0	0	0	0	919	919	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	544	116	563.9
歯科医師	18	11	19.6
薬剤師	92	6	94.9
保健師	0	0	0
助産師	32	0	32
看護師	1042	16	1051.4
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	7	2	8.8
管理栄養士	14	0	14

職種	員数
看護補助者	84
理学療法士	27
作業療法士	6
視能訓練士	17
義肢装具士	0
臨床工学士	43
栄養士	0
歯科技工士	2
診療放射線技師	52

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	95
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	8	
その他の技術員	46	
事務職員	376	
その他の職員	3	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	66	眼科専門医	12
外科専門医	58	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	7	放射線科専門医	21
小児科専門医	19	脳神経外科専門医	13
皮膚科専門医	6	整形外科専門医	16
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	16
産婦人科専門医	16	救急科専門医	7
		合計	276

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 東田 有智 ) 任命年月日 令和 28 年 10 月 1 日

平成21年より継続して、院内感染対策委員会の委員長を平成29年3月まで務めていた。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	669.9 人	4.6 人	674.5 人
1日当たり平均外来患者数	1392.1 人	69.7 人	1461.8 人
1日当たり平均調剤数	入院 1173.4 外来 3326.5 合計 4499.9		剤
必要医師数	152		人
必要歯科医師数	5		人
必要薬剤師数	57		人
必要(准)看護師数	387		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	10 床	心電計	有
集中治療室	215.67 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート造	人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	17.29 m <sup>2</sup>	病床数	1 床	
	[移動式の場合]	台数	17 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	32.03 m <sup>2</sup>			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	622.88 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	日立自動分析装置 他		
細菌検査室	134.12 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	PCR検査システム コバスTaqMan48 他		
病理検査室	155.87 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	密閉式自動固定包埋装置 他		
病理解剖室	101.56 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	解剖台 他		
研究室	4,104.70 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	透過電子顕微鏡、高速液体クロマトグラフ質量分析計 他		
講義室	2,042.22 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート造	室数	10 室	収容定員	1,692 人
図書室	1,557.83 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造	室数	5 室	蔵書数	137,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.8 %	逆紹介率	80 %
算出根拠	A: 紹介患者の数	19,087 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	18,966 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	2,674 人	
	D: 初診の患者の数	23,693 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
水本 一弘	和歌山県立医科大学 医療安全推進部 病院 教授・麻酔科准教授	○	同医科大学において医療安全部門に就いており、医療安全に精通していることから適任と判断したものの	無	1
山口 育子	NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長		医療事故調査支援センターの運営委員等の職にも就かれ医療安全に精通していることから適任と判断したものの	無	2
小島 崇宏	大阪A&M法律事務所・ 弁護士		医師として医療機関での職歴もあり、法律学に関する専門知識を有することから適任と判断したものの	無	1
川村 純一郎	近畿大学病院 外科主 任教授		当院の医療機器安全管理委員会委員長の経験もあり、医療安全に関する情報共有も行っていることから、適任と判断したものの	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページにて掲載	





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	直腸癌に対するロボット支援下手術	取扱患者数	44
当該医療技術の概要 直腸癌に対して、Da Vinciシステムを用いたロボット支援下の直腸切除術を行っている			
医療技術名	結腸癌に対するロボット支援下手術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 結腸癌に対して、Da Vinciシステムを用いたロボット支援下の結腸切除術を行っている			
医療技術名	直腸癌に対する経肛門的内視鏡手術(TaTME)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 通常の経腹的アプローチでは視野の確保が困難が予測されるサイズの大きな直腸癌に対して、経肛門的・会陰的にアプローチするTaTMEを行っている。			
医療技術名	局所直腸癌に対する術前治療(Total Neoadjuvant Therapy)	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 局所進行直腸癌に対して術前放射線化学療法及び術前化学療法の両者を導入し、その後に根治切除術を行うことにより、そのまま手術を行う場合やどちらか一方のみの前治療後に手術を行う場合よりも高い根治性が得られる可能性がある。			
医療技術名	ICG蛍光イメージングを用いた大腸癌に対するナビゲーション手術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 大腸癌に対する標準手術であるD3郭清は、癌の栄養血管に沿うリンパ流・リンパ節を切除することである。症例毎にリンパ流を可視化することができれば、個々の症例毎に最適な郭清範囲を特定することができる可能性がある。			
医療技術名	慢性膵炎に対するフライ手術	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 慢性膵炎に対して除痛・膵機能保持目的で膵管空腸側々吻合と膵頭部くりぬきを行う手術療法であり、関西ではほぼ当院のみで施行している			
医療技術名	腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 腹腔鏡下に膵頭十二指腸切除術を行う。低侵襲手術である。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	41
当該医療技術の概要 腹腔鏡下に肝切除術を行う。低侵襲手術である。			
医療技術名	ロボット支援下膵体尾部切除術	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 ダヴィンチ支援下による膵体尾部切除術を行う。低侵襲手術である。			

医療技術名	腹腔鏡下膵体尾部切除術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 腹腔鏡下に膵体尾部切除術を行う。低侵襲手術である。			
医療技術名	ロボット支援下膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 ダヴィンチ支援下による膵頭十二指腸切除術を行う。低侵襲手術である。			
医療技術名	膵癌に対するコンバージョン手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 初診時切除不能膵癌に対し化学(放射線)療法著効例に対する根治を目指した外科切除。血管合併切除再建、多臓器合併切除など高度の医療技術を要する。			
医療技術名	肺葉切除高リスク臨床病期IA 期非小細胞肺癌に対する区域切除と楔状切除のランダム化比較試験	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 肺葉切除高リスク臨床病期IA 期非小細胞肺癌に対する区域切除と楔状切除のランダム化比較試験			
医療技術名	病理学的N2非小細胞肺癌に対する術後放射線治療に関するランダム化比較第III相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 病理学的N2非小細胞肺癌に対する術後放射線治療に関するランダム化比較第III相試験			
医療技術名	胸部薄切CT所見に基づく早期肺癌に対する経過観察の単群検証的試験	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 胸部薄切CT所見に基づく早期肺癌に対する経過観察の単群検証的試験			
医療技術名	特発性肺線維症 (IPF) 合併臨床病期 I 期非小細胞肺癌に対する肺縮小手術に関するランダム化比較第 III 相試験	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 特発性肺線維症 (IPF) 合併臨床病期 I 期非小細胞肺癌に対する肺縮小手術に関するランダム化比較第 III 相試験			
医療技術名	80歳以上の高齢者肺野末梢小型非小細胞肺癌における区域切除vs.楔状切除のランダム化比較試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 80歳以上の高齢者肺野末梢小型非小細胞肺癌における区域切除vs.楔状切除のランダム化比較試験			
医療技術名	病理病期 II-III A 期非小細胞肺癌に対する術後サーベイランスに関するランダム化比較試験	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 病理病期 II-III A 期非小細胞肺癌に対する術後サーベイランスに関するランダム化比較試験			

医療技術名	EGFR変異陽性・切除可NSCLCの術前補助療法におけるオシメルチニブ単剤又は化学療法との併用を標準化学療法単独と比較する第Ⅲ相無作為化多施設国際共同3群比較試験	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
EGFR変異陽性・切除可NSCLCの術前補助療法におけるオシメルチニブ単剤又は化学療法との併用を標準化学療法単独と比較する第Ⅲ相無作為化多施設国際共同3群比較試験			
医療技術名	天然型マイクロRNA補充療法による悪性胸膜中皮腫を対象とした医師主導治験(第Ⅰ相)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
天然型マイクロRNA補充療法による悪性胸膜中皮腫を対象とした医師主導治験(第Ⅰ相)			
医療技術名	特発性肺線維症合併非小細胞肺癌根治切除後患者に対するニンテダニブ投与の忍容性に関する第二相単群介入試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
特発性肺線維症合併非小細胞肺癌根治切除後患者に対するニンテダニブ投与の忍容性に関する第二相単群介入試験			
医療技術名	胸部薄切CT上すりガラス成分を伴う充実成分優位な非小細胞肺癌(>2-3 cm)に対する肺葉切除と区域切除のランダム化比較試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
胸部薄切CT上すりガラス成分を伴う充実成分優位な非小細胞肺癌(>2-3 cm)に対する肺葉切除と区域切除のランダム化比較試験			
医療技術名	臨床病期IA3期の肺野末梢充実型非小細胞肺癌に対する肺葉切除と区域切除のランダム化比較第Ⅲ相試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
臨床病期IA3期の肺野末梢充実型非小細胞肺癌に対する肺葉切除と区域切除のランダム化比較第Ⅲ相試験			
医療技術名	非小細胞肺癌手術例における全ゲノム解析を用いたバイオマーカー研究	取扱患者数	14
当該医療技術の概要			
全ゲノム解析を用いて切除した肺腫瘍検体の解析をおこない、患者の治療方針へ反映させる試料解析研究			
医療技術名	切除後の非小細胞肺癌に対するアテゾリズマブ術後補助療法の多機関共同前向き観察研究	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
切除後の非小細胞肺癌に対するアテゾリズマブ術後補助療法の日本人における有効性や安全性を検証する多機関共同前向き観察研究			
医療技術名	高齢者完全切除Ⅱ/Ⅲ期非小細胞肺癌に対するAtezolizumab術後補助療法の臨床第Ⅱ相試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
高齢者完全切除Ⅱ/Ⅲ期非小細胞肺癌に対するAtezolizumab術後補助療法の治療完遂や有効性・安全性を検証する第Ⅱ相前向き観察研究			

医療技術名	StageII/III進行食道癌に対するDCF術前化学療法	取扱患者数	30
当該医療技術の概要			
JCOG1109試験の結果を受けて、2022年版「食道癌診療ガイドライン」ではStageII/III食道癌に対する術前DCF(DTX+CDDP+5FU)化学療法＋手術が標準治療となった。我々は以前より臨床試験として術前DCF化学療法に取り組んでおり、今後は標準治療として積極的に取り組むこととする。			
医療技術名	FDG-PETに基づいた進行食道癌治療戦略の個別化	取扱患者数	54
当該医療技術の概要			
我々はFDG-PETの集積値:SUVmaxが腫瘍量ならびに予後と強い相関があることを報告してきた。切除可能症例であっても、PETでLNにFDGの集積を認めるPET-N(+)やLNへの集積がなくても主腫瘍にSUCmax>6.02以上の集積があれば遠隔再発高危険群で、極めて予後不良で、術前化学療法の適応と考えられる。また、治療後のPETにおいて集積が消失した症例は組織学的効果も高く、予後も良いことも報告してきた。このようにPETにより治療前および治療後の予後予測を基に術前治療の個別化を行い、治療の質の向上を図っている。			
医療技術名	胃切後食道癌における食道切除後の有茎空腸による血行再建を伴う安全な食道再建術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
過去に胃切の既往のある患者さんは、その後に食道癌を維持制に発症する確率は比較的高い。しかし、その食道切除後の再建に関しては大腸や小腸を用いて再建せざるを得ず、その難易度は高い。近隣の施設からの依頼を多く受けるが、その術式の最大の問題点は挙上性とグラフトの血流確保である。挙上性を優先して血管丙を切離すれば血流が悪くなる。いずれをも満足するために、形成外科医と協力して積極的に血管吻合を付加して安全の向上に努めている。			
医療技術名	完全胸腔鏡下腹臥位食道切除術	取扱患者数	52
当該医療技術の概要			
高度な侵襲を伴う胸部食道癌手術に対して、これまでの高度進行食道癌に対する手術経験を活かし、縦隔徹底郭清を伴う、6ポートによる完全胸腔鏡下の腹臥位食道切除術を行い、低侵襲性と根治性の両立に取り組んでいる。			
医療技術名	頸部食道癌に対する切除後の遊離空腸再建術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
低肺機能または右開胸の既往で高度の癒着が予想される症例に対して進行度が許せば縦隔鏡を併用して用手補助下に腹部から気管分岐部レベルまでの縦隔郭清を行い、頸部からの郭清と連続させて、縦隔郭清を伴う食道切除を非開胸に行っている。			
医療技術名	食道胃接合部癌または早期上部胃癌に対する腹腔鏡下噴門側胃切除、偽穹窿部食道裂孔挿入・食道残胃吻合法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
食道胃接合部癌または早期上部胃癌に対して噴門側胃切除術、食道残胃吻合が行われるが、逆流性食道炎の後遺症が問題となっている。腹腔鏡下に食道と残胃前壁を吻合し残胃を食道裂孔内に挿入することにより確実に食道への逆流を防止する術式を開発し、術後のquality of lifeの低下をきたしにくい手術法を行っている。			
医療技術名	食道胃接合部癌または早期上部胃癌に対する腹腔鏡下噴門側胃切除、ダブルトラクト再建法	取扱患者数	7
当該医療技術の概要			
食道胃接合部癌または早期上部胃癌に対して噴門側胃切除術が行われた後、残胃が小さい、食道浸潤で胸部下部食道を長く切除したので再建距離が長い、元々逆流性食道炎が酷い、というような場合、空腸を持ち上げて食道、次に残胃と吻合するRoux-en Y再建法を行い、良好な成績を得ている。			
医療技術名	胃癌に対するロボット支援手術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
T2までの根治切除可能症例に対して臨床倫理委員会の承認の下、同意が得られた患者に対してDa Vinciシステムを用いたロボット支援下の胃切除術を行っている。現在、保険診療として実施している。			

医療技術名	腹膜転移陽性進行胃癌に対するS-1+ivPTX+ipPTX術前化学療法の有効性	取扱患者数	8
当該医療技術の概要			
<p>予後不良である腹膜播種、もしくは腹腔内遊離癌細胞陽性胃癌に対して、経口投与並びに経静脈投与でも腹腔への良好な移行性を示すTS-1+Paclitaxel療法に、更にPaclitaxelの腹腔内投与を加えることにより腹膜転移巣の抗腫瘍効果を期待し、期待通りの奏効が得られた症例には手術を追加して根治を目指す治療である。</p>			
医療技術名	未熟児網膜症に対する網膜硝子体手術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
未熟児網膜症に対するVEGFを用いた治療			
医療技術名	両眼解放視野計による視野検査	取扱患者数	600
当該医療技術の概要			
<p>社会的失明の1位である緑内障の早期診断を目指し、当教室が中心となって開発した医療機器で、検査場所を選ばず精度の高い視野検査を可能とする</p>			
医療技術名	多血小板血漿 (PRP) を用いた難治性皮膚潰瘍の再生医療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
<p>血液の中には、傷を治す働きを持つ「血小板」という成分があり、この血小板を高濃度に濃縮させてものをPRP (Platelet-Rich Plasam:多血小板血漿)という。PRPにはたくさんの成長因子が含まれており、細胞の成長や組織の修復・再生を促進する力がある。これを難治性皮膚潰瘍、褥瘡に局所投与する。</p>			
医療技術名	横隔膜エコーを活用した効果的な呼吸筋トレーニング方法の最適化	取扱患者数	20
当該医療技術の概要			
<p>慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者に対する呼吸筋トレーニングの効果的な実施方法については確立されていない。当科ではCOPDを対象として、個別化された最適な呼吸筋トレーニングを実施するため、超音波診断装置を使用している。横隔膜移動距離を指標として最適な負荷圧を設定することに取り組んでいる。</p>			
医療技術名	進行性フェノタイプを示す慢性線維化性間質性肺疾患患者を対象としたTAS-115第2相用量反応臨床試験	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
進行性フェノタイプを示す慢性線維化性間質性肺疾患に対して、TAS-115の有効性・安全性を検討する第IIb試験			
医療技術名	間質性肺疾患に伴う肺高血圧症に対するMD-711第II/III相試験 (MD711201)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
間質性肺疾患に伴う肺高血圧症に対するMD-711(吸入トレプロスチニル)を16週間投与したときの有効性及び安全性を検討する第II/III相試験			
医療技術名	特発性肺線維症 (IPF) 患者を対象に、BI 1015550を52週間以上投与したときの有効性及び安全性を検討する二重盲検、ランダム化、プラセボ対照試験 (1305-0014)	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
特発性肺線維症 (IPF) 患者を対象に、BI 1015550を52週間以上投与したときの有効性及び安全性を検討する二重盲検、ランダム化、プラセボ対照試験			
医療技術名	進行性線維化を伴う間質性肺疾患 (PF-ILD) 患者を対象に、BI 1015550を52週間以上投与したときの有効性及び安全性を検討する二重盲検、ランダム化、プラセボ対照試験 (1305-0023)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
進行性線維化を伴う間質性肺疾患 (PF-ILD) 患者を対象に、BI 1015550を52週間以上投与したときの有効性及び安全性を検討する二重盲検、ランダム化、プラセボ対照試験			

医療技術名	気管支熱形成術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
重症難治性喘息患者を対象とする非薬物的治療である。気管支鏡下に挿入したプローブから高周波エネルギーを気道壁に通電加熱することで、肥厚した気道平滑筋を減らし、喘息症状の改善、増悪減少をはかる。			
医療技術名	広範囲顎骨支持型装置埋入手術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
腫瘍、顎骨骨髓炎、外傷等により、広範囲な顎骨欠損若しくは歯槽骨欠損症例に対して、人工的構造物のインプラント体を埋入し、咀嚼機能を回復する手術			
医療技術名	頭頸部ロボット支援手術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
手術用ロボットである「ダヴィンチ」を使った早期中咽頭癌，声門上癌，下咽頭癌の経口的切除術			
医療技術名	EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対するオンメルチニブ単剤療法継続中の残存病変への地固め放射線療法のランダム化第II相試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対する、オンメルチニブ単剤療法継続中の残存病変への地固め放射線療法の有効性及び安全性を評価する。			
医療技術名	進行非小細胞肺癌における初回複合免疫療法後のOligo-Progressive diseaseに対する局所療法と免疫チェックポイント阻害剤による集学的治療の有効性を検討する第II相試験 (Reverse OLIGO study)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
ドライバー遺伝子陰性・不明の未治療進行非小細胞肺癌において、1次治療としてプラチナ製剤併用療法＋免疫チェックポイント阻害薬を受けた後にOligo-Progressive disease (Oligo-PD)となった症例に対する、局所治療および免疫チェックポイント阻害薬の集学的治療の有効性及び安全性を評価すること。			
医療技術名	JCOG2103: 画像上診断困難な胸膜播種を有する臨床病期IVA期 (cT1-2bN0-1M1a) 非小細胞肺癌に対する原発巣切除追加の治療的意義を検証するランダム化比較第III相試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
画像上診断困難 (radiologically undetermined) な胸膜播種を有する臨床病期IVA期 (cT1-2bN0-1M1a) 非小細胞肺癌に対し、標準的薬物療法に原発巣切除を加えることの有用性を、標準治療である標準的薬物療法単独とのランダム化比較にて検証する。			
医療技術名	ALK遺伝子転座陽性非扁平上皮非小細胞肺癌に対する、初回治療としてのBrigatinib + Carboplatin + PemetrexedとBrigatinibの非盲検化ランダム化第II相試験 (WJOG14720L)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
ALK 遺伝子転座陽性非小細胞肺癌に対する初回治療としてのBrigatinib 単剤療法に化学療法を併用することの有効性、安全性を検討する。また、探索的に血液検体を用いた遺伝子変異解析を行い、各治療の耐性機序を検討する。			
医療技術名	進展型小細胞肺癌に対する胸部放射線治療の追加を検討するランダム化第III相試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
進展型小細胞肺癌 (ED-SCLC) に対するアテゾリズマブ＋カルボプラチン＋エトポシド (ACE) 療法またはデュルバルマブ＋プラチナ＋エトポシド (DPE) 療法に胸部放射線治療を追加することの有効性と安全性を、標準治療であるACE療法単独またはDPE療法単独とのランダム化比較にて検証する。			

医療技術名	腎機能低下進行非扁平上皮非小細胞肺癌を対象としたカルボプラチン+nab-パクリタキセル+アテゾリズマブ併用療法の第II相試験 (LOGIK2002)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 腎機能低下進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン nab パクリタキセル アテゾリズマブ併用療法の有効性と安全性を評価すること。			
医療技術名	EGFR遺伝子L858R変異陽性進行再発非扁平上皮非小細胞肺癌に対するエルロチニブ+ラムシルマブとオシメルチニブを比較する第III相臨床試験 (WJOG14420L)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 化学療法未治療EGFR 遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌のうち、EGFR 遺伝子のexon 21 L858R 変異陽性例を対象に、1 次治療の標準治療であるオシメルチニブ単剤療法と比較してエルロチニブ+ラムシルマブ併用療法の臨床的有用性・安全性を検証する。			
医療技術名	免疫チェックポイント阻害剤とプラチナを含む化学療法の併用療法による初回治療が無効もしくは治療後に再燃した切除不能な進行・再発の肺扁平上皮癌患者を対象としたシスプラチン、ゲムシタビン、ネシツムマブの3剤併用療法の多施設共同第II相試験 (WJOG14120L)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 免疫チェックポイント阻害剤と白金製剤を含む複合免疫療法による初回治療が無効もしくは治療後に再燃した進行・再発の肺扁平上皮癌におけるシスプラチン+ゲムシタビン+ネシツムマブ併用療法の有効性と安全性を検討する。			
医療技術名	JCOG1914: 高齢者切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する低用量カルボプラチンを用いた化学放射線療法とカルボプラチン+アルブミン結合パクリタキセルを用いた化学放射線療法を比較するランダム化第III相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 75歳以上の切除不能局所進行非小細胞肺癌を対象とし、カルボプラチン+アルブミン結合パクリタキセル (CBDCA+nab-PTX)を用いた同時化学放射線療法が、標準治療である低用量カルボプラチン (CBDCA)を用いた同時化学放射線療法と比較して、全生存期間において劣らないかを検証する。			
医療技術名	Sensitizing EGFR uncommon mutation陽性未治療非扁平上皮非小細胞肺癌に対するAfatinibとChemotherapyを比較する第III相試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 Sensitizing Uncommon EGFR 遺伝子変異陽性未治療 進行期非扁平上皮非小細胞肺癌 患者に対し、アファチニブの有用性を、標準治療であるプラチナ併用化学療法 (シスプラチンまたはカルボプラチン+ペメトレキセド併用療法)との無作為化比較において評価し、Sensitizing Uncommon EGFR 遺伝子変異陽性患者に対する標準治療を確立する。			
医療技術名	JCOG1901: 消化管・膵原発の切除不能進行・再発神経内分泌腫瘍に対するエベロリムス単剤療法とエベロリムス+ランレオチド併用療法のランダム化第III 相試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 予後不良である切除不能進行・再発の非機能性膵・消化管神経内分泌腫瘍 (Ki-67 Labeling index (LI) 5-20%、またはKi-67 LI<5%かつ肝両葉にびまん性に広がる肝転移を有する)を対象として、標準治療であるエベロリムス単剤療法に対する、エベロリムス+ランレオチド併用療法の無増悪生存期間における優越性をランダム化比較にて検証する。			
医療技術名	切除不能大腸癌に対するトリフルリジン・チピラシル+ベバシズマブの従来法と隔週法の実用的ランダム化第III相試験 (PRABITAS)	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 切除不能大腸癌患者を対象に、後方治療としての従来法トリフルリジン・チピラシル (FTD/TPI)+ベバシズマブ (BEV)と比較した隔週法FTD/TPI+BEV の有効性と安全性を検証すること。			

医療技術名	局所進行直腸癌に対する術前治療としての短期放射線療法とCAPOX及び短期放射線療法とCAPOXIRIの多施設共同ランダム化第Ⅲ相試験 (ENSEMBLE)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
局所進行直腸癌を対象とした術前治療として、SCRTとCAPOXに対してSCRTとCAPOXIRIの優越性を検証する。			
医療技術名	WJOG16322G 高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対するmFOLFOX6+ニボルマブ療法の第Ⅱ相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対する1次治療としてのmFOLFOX6+ニボルマブ療法の有効性と安全性を評価すること。			
医療技術名	切除不能進行再発胃腺癌もしくは食道胃接合部腺癌に対する3次治療以降のTrifluridine/tipiracil (FTD/TPI) + Ramucirumab (RAM) 併用療法とFTD/TPI 単剤療法のランダム化第Ⅱ相比較試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
フッ化ピリミジン、タキサンもしくはイリノテカン (IRI)、ラムシルマブ (RAM) を含む治療に不応・不耐 (RAM は不応のみ) となった3次治療以降の切除不能進行再発胃腺癌もしくは食道胃接合部腺癌を対象として、試験治療であるFTD/TPI+RAM 併用療法の有効性と安全性を、標準治療であるFTD/TPI 単剤と比較して評価する。			
医療技術名	切除不能大腸癌患者を対象とした後方治療としてのBiweekly Trifluridine/Tipiracil+Bevacizumab療法の患者内用量漸増試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
切除不能進行再発大腸癌患者を対象として、計画的に患者内でFTD/TPI (トリフルリジン・チピラシル) の用量を増量するBiweekly FTD/TPI+BEV (ベバシズマブ) 併用療法において有効性と安全性を単群第Ⅱ相試験で探索すること。			
医療技術名	StageⅡ/Ⅲ 大腸癌根治切除後の補助化学療法中または治療後に早期再発したRAS野生型かつ BRAF V600E 変異再発大腸癌患者に対するエンコラフェニブ ビニメチニブ セツキシマブ療法の有効性と安全性を探索する第Ⅱ相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
Stage Ⅱ/Ⅲ 大腸癌根治切除後の補助化学療法中または治療後に早期再発したRAS野生型かつBRAF V600E 変異陽性の再発大腸癌患者に対するエンコラフェニブ+ビニメチニブ+セツキシマブ療法の有効性と安全性を評価することを目的とする。			
医療技術名	大腸癌に対するオキサリプラチン併用化学療法後に残存する末梢神経障害に対するプラセボを対照としたL.E.M.の有効性及び用量探索的多施設共同並行群間二重盲検Randomized試験:LEMON trial	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
オキサリプラチン誘発性末梢神経障害に対するL.E.M.の有効性と用量を探索的に検討する。有効性の主たる解析の対象は最大の解析対象集団としてFAS (Full analysis set)にて評価を行い、有効性の主要評価項目について主たる解析の安定性を確認することを目的に実施計画書に適合した対象集団のPPS(Per protocol set)を対象とした解析も実施する。			
医療技術名	胃癌StageⅢの術後 Docetaxel+S1(DS) 療法後早期再発症例に対するRamucirumab+Irinotecan併用療法 第Ⅱ相多施設共同臨床試験 (OGSG1901)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
胃癌Stage Ⅲ の術後 Docetaxel + S1 (療法 後早期再発 した 患者を対象に RAM+IRI療 法の有効性と安全性を探索する。			

医療技術名	JCOG2110: オリゴ転移を有する進行乳癌に対する根治的局所療法追加の意義を検証するランダム化比較試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
3個以下のオリゴ転移を有する進行乳癌(遠隔転移再発乳癌または初発時IV期)を対象に、全身薬物療法および全病巣への根治的局所療法を行う試験治療が、標準治療である全身薬物療法に対して全生存期間において優れていることを第III相試験で検証する			
医療技術名	HER2陽性乳癌のT-DXd治療に対するオランザピン併用制吐療法の有効性を検討するプラセボコントロール二重盲検ランダム化第II相比較試験(ERICA)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
トラスツズマブ デルクステカン(trastuzumab deruxtecan、T DXdDXd)で治療を行う乳癌患者における悪心・嘔吐について5-HT <sub>3</sub> 受容体拮抗薬、デキサメタゾン、オランザピン3剤併用療法の5-HT <sub>3</sub> 受容体拮抗薬、デキサメタゾン、プラセボ併用療法に対する遅発期120hの完全奏効割合(Complete response rate、CR率)の優越性を検討する			
医療技術名	アベマシクリブ投与後のHR陽性HER2陰性転移再発乳癌に対するアベマシクリブのre-challenge試験/ctDNAの継時的評価による薬剤耐性メカニズムの評価	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
アベマシクリブ投与後のホルモン受容体陽性HER2陰性転移再発乳癌に対する内分泌療法の変更とアベマシクリブのre-challengeによる有効性および安全性を検討し、探索的にアベマシクリブの効果予測因子となるバイオマーカー解析を行う。			
医療技術名	JCOG1806: 薬物療法により臨床的完全奏効が得られたHR陰性HER2陽性原発乳癌に対する非切除療法の有用性に関する単群検証的試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
抗HER2療法および化学療法による薬物療法により臨床的完全奏効が得られたcT1-2N0M0 HER2陽性乳癌に対する非切除療法の有用性を検証する。			
医療技術名	頭頸部癌化学放射線療法における予防領域照射の線量低減に関するランダム化比較試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
局所進行頭頸部扁平上皮癌患者に対して、予防照射領域の線量を低減した放射線治療により、治療効果は維持し、晩期有害事象を軽減できるかどうかを明らかにする。			
医療技術名	悪性腫瘍関連静脈血栓塞栓症に対する減量Apixaban療法の第II相臨床試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
日本人の悪性腫瘍関連静脈血栓塞栓症(Cancer-associated venous thromboembolism; CA-VTE【pulmonary embolism; PE + deep vein thrombosis; DVT】)におけるapixaban(エリキュース®)の減量投与の安全性と有効性を評価する。また、出血やVTE再発またはVTE関連死の発現に関与するリスク因子の探索・評価も合わせて行う。			
医療技術名	WJOG15021M EGFR遺伝子増幅陽性切除不能固形がんに対するネシツムマブの第II相バスケット試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
EGFR遺伝子増幅陽性食道・胃・小腸・尿路上皮・乳がんに対するネシツムマブの有効性・安全性・POCを評価すること。			

医療技術名	化学療法未治療のステージIV又は再発非小細胞肺癌患者を対象とした、ニボルマブ単独療法又はニボルマブとイピリムマブの併用療法又はニボルマブとプラチナ製剤を含む2剤併用化学療法との併用療法を、プラチナ製剤を含む2剤併用化学療法と比較するランダム化オープンラベル第III相臨床試験	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 化学療法未治療のステージIV又は再発非小細胞肺癌患者を対象とした、ニボルマブ単独療法又はニボルマブとイピリムマブの併用療法又はニボルマブとプラチナ製剤を含む2剤併用化学療法との併用療法を、プラチナ製剤を含む2剤併用化学療法と比較するランダム化オープンラベル第III相臨床試験			
医療技術名	進行性固形がん患者を対象にバイオマーカーを評価することを目的としたMK-3475の臨床試験 (KEYNOTE-158)	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 進行性固形がん患者を対象にバイオマーカーを評価することを目的としたMK-3475の臨床試験 (KEYNOTE-158)			
医療技術名	MSI-High又はMMR欠損の結腸・直腸癌 (IV期)を対象としたMK3475と標準化学療法を比較する第III相試験 (KEYNOTE-177)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 MSI-High又はMMR欠損の結腸・直腸癌 (IV期)を対象としたMK3475と標準化学療法を比較する第III相試験 (KEYNOTE-177)			
医療技術名	固形癌患者を対象としたDS-8201aを複数用量用いる多施設共同非無作為非盲検2パート第I相first in human試験	取扱患者数	37
当該医療技術の概要 固形癌患者を対象としたDS-8201aを複数用量用いる多施設共同非無作為非盲検2パート第I相first in human試験			
医療技術名	切除不能の局所再発又は転移性トリプルネガティブ乳癌の化学療法未治療患者を対象としたMK-3475及び化学療法併用投与とプラセボ及び化学療法併用投与を比較する二重盲検、無作為化、第III相試験 (KEYNOTE-355)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 切除不能の局所再発又は転移性トリプルネガティブ乳癌の化学療法未治療患者を対象としたMK-3475及び化学療法併用投与とプラセボ及び化学療法併用投与を比較する二重盲検、無作為化、第III相試験 (KEYNOTE-355)			
医療技術名	NTRK1/2/3, ROS1, or ALK Gene Rearrangements NTRK1/2/3, ROS1 又はALK 遺伝子再構成陽性の局所進行又は遠隔転移を有する固形癌患者を対象としたentrectinib の非盲検、多施設共同、第2相国際共同バスケット試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 NTRK1/2/3, ROS1, or ALK Gene Rearrangements NTRK1/2/3, ROS1 又はALK 遺伝子再構成陽性の局所進行又は遠隔転移を有する固形癌患者を対象としたentrectinib の非盲検、多施設共同、第2相国際共同バスケット試験			
医療技術名	切除不能な胸膜中皮腫患者を対象に、一次治療としてのニボルマブとイピリムマブの併用療法をペメトレキセドとシスプラチン又はカルボプラチンの併用療法と比較するランダム化オープンラベル第III相試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 切除不能な胸膜中皮腫患者を対象に、一次治療としてのニボルマブとイピリムマブの併用療法をペメトレキセドとシスプラチン又はカルボプラチンの併用療法と比較するランダム化オープンラベル第III相試験			

医療技術名	ALK 陽性進行非小細胞肺癌患者を対象に、1次治療としてLORLATINIB (PF-06463922)単剤療法とクリゾチニブ単剤療法を比較する第3相、無作為化、非盲検試験	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
ALK 陽性進行非小細胞肺癌患者を対象に、1次治療としてLORLATINIB (PF-06463922)単剤療法とクリゾチニブ単剤療法を比較する第3相、無作為化、非盲検試験			
医療技術名	ONO-4538第Ⅲ相試験 非扁平上皮非小細胞肺癌に対する多施設共同二重盲検無作為化試験	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
ONO-4538第Ⅲ相試験 非扁平上皮非小細胞肺癌に対する多施設共同二重盲検無作為化試験			
医療技術名	治療歴のない切除不能進行性、再発又は転移性の食道扁平上皮がん患者を対象に、ニボルマブとイピリムマブの併用療法又はニボルマブとフルオロウラシル及びシスプラチンの併用療法をフルオロウラシル及びシスプラチンの併用療法と比較する無作為化第Ⅲ相試験	取扱患者数	15
当該医療技術の概要			
治療歴のない切除不能進行性、再発又は転移性の食道扁平上皮がん患者を対象に、ニボルマブとイピリムマブの併用療法又はニボルマブとフルオロウラシル及びシスプラチンの併用療法をフルオロウラシル及びシスプラチンの併用療法と比較する無作為化第Ⅲ相試験			
医療技術名	進行性/転移性食道癌患者を対象とした1次治療としてのMK-3475、シスプラチン及び5-フルオロウラシルの併用療法とプラセボ、シスプラチン及び5-フルオロウラシルの併用療法を比較する二重盲検無作為化プラセボ対照第Ⅲ相試験 (KEYNOTE-590)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
進行性/転移性食道癌患者を対象とした1次治療としてのMK-3475、シスプラチン及び5-フルオロウラシルの併用療法とプラセボ、シスプラチン及び5-フルオロウラシルの併用療法を比較する二重盲検無作為化プラセボ対照第Ⅲ相試験 (KEYNOTE-590)			
医療技術名	DM1治療歴があるHER2陽性切除不能及び/又は転移性乳癌患者を対象とした抗HER2抗体薬物複合体(ADC)であるDS-8201aを用いた多施設共同非盲検第Ⅱ相試験	取扱患者数	7
当該医療技術の概要			
DM1治療歴があるHER2陽性切除不能及び/又は転移性乳癌患者を対象とした抗HER2抗体薬物複合体(ADC)であるDS-8201aを用いた多施設共同非盲検第Ⅱ相試験			
医療技術名	局所進行切除不能非小細胞肺癌(ステージⅢ)の患者を対象として、デュルバルマブと白金製剤を含む化学放射線療法とを同時併用する第3相無作為化プラセボ対照二重盲検国際多施設共同試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
局所進行切除不能非小細胞肺癌(ステージⅢ)の患者を対象として、デュルバルマブと白金製剤を含む化学放射線療法とを同時併用する第3相無作為化プラセボ対照二重盲検国際多施設共同試験			
医療技術名	ステージⅣの非小細胞肺癌(NSCLC)を対象とした、一次治療としてのニボルマブ+イピリムマブと化学療法との併用療法を、化学療法単独と比較する第Ⅲ相ランダム化試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
ステージⅣの非小細胞肺癌(NSCLC)を対象とした、一次治療としてのニボルマブ+イピリムマブと化学療法との併用療法を、化学療法単独と比較する第Ⅲ相ランダム化試験			

医療技術名	HER2 過剰発現／遺伝子変異を認める切除不能／転移性非小細胞肺癌 (NSCLC) に対する、抗HER2 抗体薬物複合体 (ADC) である TRASTUZUMAB DERUXTECAN (DS-8201a) の第Ⅱ相多施設共同非盲検2コホート試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 HER2 過剰発現／遺伝子変異を認める切除不能／転移性非小細胞肺癌 (NSCLC) に対する、抗HER2 抗体薬物複合体 (ADC) である TRASTUZUMAB DERUXTECAN (DS-8201a) の第Ⅱ相多施設共同非盲検2コホート試験			
医療技術名	A PHASE 2, MULTICENTER, OPEN-LABEL, 2-COHORT STUDY OF TRASTUZUMAB DERUXTECAN (DS-8201a), AN ANTI-HER2 ANTIBODY DRUG CONJUGATE (ADC), FOR HER2-OVER-EXPRESSING OR -MUTATED, UNRESECTABLE AND/OR METASTATIC NON-SMALL CELL LUNG CANCER (NSCLC)	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 A PHASE 2, MULTICENTER, OPEN-LABEL, 2-COHORT STUDY OF TRASTUZUMAB DERUXTECAN (DS-8201a), AN ANTI-HER2 ANTIBODY DRUG CONJUGATE (ADC), FOR HER2-OVER-EXPRESSING OR -MUTATED, UNRESECTABLE AND/OR METASTATIC NON-SMALL CELL LUNG CANCER (NSCLC)			
医療技術名	同時化学放射線療法の施行後に進行が認められていない限局型小細胞肺癌の患者を対象として、デュルバルマブ単剤療法又はデュルバルマブとトレメリムマブの併用療法を実施する第3相無作為化プラセボ対照二重盲検国際多施設共同試験 (ADRIATIC)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 同時化学放射線療法の施行後に進行が認められていない限局型小細胞肺癌の患者を対象として、デュルバルマブ単剤療法又はデュルバルマブとトレメリムマブの併用療法を実施する第3相無作為化プラセボ対照二重盲検国際多施設共同試験 (ADRIATIC)			
医療技術名	HER2陽性進行性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした1次治療としてのトラスツズマブ＋化学療法＋MK-3475療法をトラスツズマブ＋化学療法＋プラセボ療法と比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験 (KEYNOTE-811)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 HER2陽性進行性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした1次治療としてのトラスツズマブ＋化学療法＋MK-3475療法をトラスツズマブ＋化学療法＋プラセボ療法と比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験 (KEYNOTE-811)			
医療技術名	白金製剤を含む根治的的化学放射線療法後に病勢進行が認められていない局所進行切除不能EGFR 変異陽性非小細胞肺癌 (ステージⅢ) 患者を対象とした、維持療法としてのオシメルチニブの第Ⅲ相無作為化二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験 (LAURA)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 白金製剤を含む根治的的化学放射線療法後に病勢進行が認められていない局所進行切除不能EGFR 変異陽性非小細胞肺癌 (ステージⅢ) 患者を対象とした、維持療法としてのオシメルチニブの第Ⅲ相無作為化二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験 (LAURA)			
医療技術名	PD-L1陽性 [Tumor Proportion Score (TPS) >= 1%] の転移性非小細胞肺癌の未治療患者を対象にレンバチニブ (E7080/MK-7902) の併用又は非併用下でペムブロリズマブ (MK-3475) を投与する無作為化二重盲検第Ⅲ相試験 (LEAP-007試験)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 PD-L1陽性 [Tumor Proportion Score (TPS) >= 1%] の転移性非小細胞肺癌の未治療患者を対象にレンバチニブ (E7080/MK-7902) の併用又は非併用下でペムブロリズマブ (MK-3475) を投与する無作為化二重盲検第Ⅲ相試験 (LEAP-007試験)			

医療技術名	T-DM1治療歴のあるHER2陽性切除不能及び／又は転移性乳癌患者を対象として抗HER2抗体薬物複合体であるトラスツズマブ・デルクステカン(DS-8201a)を医師選択治療と比較検討する多施設共同無作為化非盲検実薬対照第III相試験(DESTINY-Breast02)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 T-DM1治療歴のあるHER2陽性切除不能及び／又は転移性乳癌患者を対象として抗HER2抗体薬物複合体であるトラスツズマブ・デルクステカン(DS-8201a)を医師選択治療と比較検討する多施設共同無作為化非盲検実薬対照第III相試験(DESTINY-Breast02)			
医療技術名	RET融合遺伝子陽性の非小細胞肺癌、甲状腺髄様癌、及びRET活性が亢進したその他の癌を含む進行固形癌患者を対象としたLOXO-292経口剤の第I/II相試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 RET融合遺伝子陽性の非小細胞肺癌、甲状腺髄様癌、及びRET活性が亢進したその他の癌を含む進行固形癌患者を対象としたLOXO-292経口剤の第I/II相試験			
医療技術名	A Multicenter, Double Blind, Randomized, Controlled Study of M7824 with Concurrent Chemoradiation Followed by M7824 versus Concurrent Chemoradiation Plus Placebo Followed by Durvalumab in Participants with Unresectable Stage III Non-small Cell Lung Cancer	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 A Multicenter, Double Blind, Randomized, Controlled Study of M7824 with Concurrent Chemoradiation Followed by M7824 versus Concurrent Chemoradiation Plus Placebo Followed by Durvalumab in Participants with Unresectable Stage III Non-small Cell Lung Cancer			
医療技術名	A PHASE 3, MULTICENTER, RANDOMIZED, OPEN-LABEL, ACTIVE-CONTROLLED TRIAL OF TRASTUZUMAB DERUXTECAN (T-DXd), AN ANTI-HER2-ANTIBODY DRUG CONJUGATE (ADC), VERSUS TREATMENT OF PHYSICIAN'S CHOICE FOR HER2-LOW, UNRESECTABLE AND/OR METASTATIC BREAST CANCER SUBJECTS (DESTINY-Breast04) HER2 低発現の切除不能及び／又は転移性乳癌患者を対象として抗HER2抗体薬物複合体(ADC)トラスツズマブ デルクステカン(DS-8201a)を医師選択治療と比較検討する多施設共同無作為化非盲検実薬対照第III相試験(DESTINY-Breast04)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 A PHASE 3, MULTICENTER, RANDOMIZED, OPEN-LABEL, ACTIVE-CONTROLLED TRIAL OF TRASTUZUMAB DERUXTECAN (T-DXd), AN ANTI-HER2-ANTIBODY DRUG CONJUGATE (ADC), VERSUS TREATMENT OF PHYSICIAN'S CHOICE FOR HER2-LOW, UNRESECTABLE AND/OR METASTATIC BREAST CANCER SUBJECTS (DESTINY-Breast04) HER2 低発現の切除不能及び／又は転移性乳癌患者を対象として抗HER2抗体薬物複合体(ADC)トラスツズマブ デルクステカン(DS-8201a)を医師選択治療と比較検討する多施設共同無作為化非盲検実薬対照第III相試験(DESTINY-Breast04)			
医療技術名	非小細胞肺癌患者を対象とした経口EGFR/HER2阻害薬TAK-788 (AP32788)の安全性、薬物動態及び抗腫瘍活性を検討する第1/2相試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 非小細胞肺癌患者を対象とした経口EGFR/HER2阻害薬TAK-788 (AP32788)の安全性、薬物動態及び抗腫瘍活性を検討する第1/2相試験			

医療技術名	転移性又は切除不能な非小細胞肺癌患者を対象としたU3-1402の多施設共同非盲検第I相試験	取扱患者数	21
当該医療技術の概要			
転移性又は切除不能な非小細胞肺癌患者を対象としたU3-1402の多施設共同非盲検第I相試験			
医療技術名	オシメルチニブ前治療に耐性となった活性型EGFR変異、MET増幅を有する進行性又は転移性非小細胞肺癌 (NSCLC) を対象にテポチニブとオシメルチニブ併用療法を検討する、2群、第II相試験 (INSIGHT 2)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
オシメルチニブ前治療に耐性となった活性型EGFR変異、MET増幅を有する進行性又は転移性非小細胞肺癌 (NSCLC) を対象にテポチニブとオシメルチニブ併用療法を検討する、2群、第II相試験 (INSIGHT 2)			
医療技術名	オシメルチニブ投与後病勢進行したEGFRm+及びMET+局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にオシメルチニブとAZD6094を併用した際の有効性を検討する第II相試験 (SAVANNAH 試験)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
オシメルチニブ投与後病勢進行したEGFRm+及びMET+局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にオシメルチニブとAZD6094を併用した際の有効性を検討する第II相試験 (SAVANNAH 試験)			
医療技術名	進展型小細胞肺癌の未治療患者を対象にベバシズマブ+アテゾリズマブ+カルボプラチン又はシスプラチン+エトポシドの併用とプラセボ+アテゾリズマブ+カルボプラチン又はシスプラチン+エトポシドの併用を比較する第III相二重盲検ランダム化試験	取扱患者数	7
当該医療技術の概要			
進展型小細胞肺癌の未治療患者を対象にベバシズマブ+アテゾリズマブ+カルボプラチン又はシスプラチン+エトポシドの併用とプラセボ+アテゾリズマブ+カルボプラチン又はシスプラチン+エトポシドの併用を比較する第III相二重盲検ランダム化試験			
医療技術名	前治療歴がありCEACAM5陽性腫瘍を有する転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象にSAR408701をドセタキセルと比較する、ランダム化、非盲検、第III相試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
前治療歴がありCEACAM5陽性腫瘍を有する転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象にSAR408701をドセタキセルと比較する、ランダム化、非盲検、第III相試験			
医療技術名	MK-3475を用いた治験で治療中又はフォローアップ中の患者を対象に、長期の安全性及び有効性を評価する多施設共同非盲検第III相試験	取扱患者数	8
当該医療技術の概要			
MK-3475を用いた治験で治療中又はフォローアップ中の患者を対象に、長期の安全性及び有効性を評価する多施設共同非盲検第III相試験			

医療技術名	PD-L1で選択した、未治療の局所進行切除不能又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にTiragolumab (抗TIGIT 抗体)+アテゾリズマブを、プラセボ+アテゾリズマブと比較する、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照第Ⅲ相臨床試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
PD-L1で選択した、未治療の局所進行切除不能又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にTiragolumab (抗TIGIT 抗体)+アテゾリズマブを、プラセボ+アテゾリズマブと比較する、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照第Ⅲ相臨床試験			
医療技術名	日本人非小細胞肺癌患者を対象とした経口EGFR/HER2阻害薬TAK-788の第1/2相試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
日本人非小細胞肺癌患者を対象とした経口EGFR/HER2阻害薬TAK-788の第1/2相試験			
医療技術名	PD-L1陽性の再発又は転移性頭頸部扁平上皮癌 (R/M HNSCC) 患者を対象に1次治療としてペムブロリズマブ (MK-3475) とレンバチニブ (E7080/MK-7902) 併用療法の有効性及び安全性をペムブロリズマブ単独療法と比較する無作為化プラセボ対照二重盲検第Ⅲ相試験 (LEAP-010試験)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
PD-L1陽性の再発又は転移性頭頸部扁平上皮癌 (R/M HNSCC) 患者を対象に1次治療としてペムブロリズマブ (MK-3475) とレンバチニブ (E7080/MK-7902) 併用療法の有効性及び安全性をペムブロリズマブ単独療法と比較する無作為化プラセボ対照二重盲検第Ⅲ相試験 (LEAP-010試験)			
医療技術名	HER2陰性の切除不能又は転移性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした一次治療としてのMK-3475と化学療法の併用療法とプラセボと化学療法を比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験 (KEYNOTE-859)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
HER2陰性の切除不能又は転移性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした一次治療としてのMK-3475と化学療法の併用療法とプラセボと化学療法を比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験 (KEYNOTE-859)			
医療技術名	進行又は転移性RET 融合遺伝子陽性非小細胞肺癌の初回治療としてselpercatinib をペムブロリズマブ併用あり/なしの白金製剤及びペメトレキセド療法と比較する多施設共同・無作為化・非盲検第Ⅲ相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
進行又は転移性RET 融合遺伝子陽性非小細胞肺癌の初回治療としてselpercatinib をペムブロリズマブ併用あり/なしの白金製剤及びペメトレキセド療法と比較する多施設共同・無作為化・非盲検第Ⅲ相試験			
医療技術名	KRAS p.G12C変異を有する既治療の局所進行切除不能又は転移性NSCLC患者を対象としてAMG 510をドセタキセルと比較する第Ⅲ相、多施設共同、ランダム化、非盲検、実薬対照試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
KRAS p.G12C変異を有する既治療の局所進行切除不能又は転移性NSCLC患者を対象としてAMG 510をドセタキセルと比較する第Ⅲ相、多施設共同、ランダム化、非盲検、実薬対照試験			

医療技術名	EGFR 変異局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象として一次治療としてのアミバンタマブとラゼルチニブの併用, オシメルチニブ, 及びラゼルチニブを比較する第3 相ランダム化試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 EGFR 変異局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象として一次治療としてのアミバンタマブとラゼルチニブの併用, オシメルチニブ, 及びラゼルチニブを比較する第3 相ランダム化試験			
医療技術名	固形がん患者を対象としたE7389リポソーム製剤及びニボルマブ併用の非盲検第1b/2相試験	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 固形がん患者を対象としたE7389リポソーム製剤及びニボルマブ併用の非盲検第1b/2相試験			
医療技術名	BMS 主導によるニボルマブ及びその他のがん治療薬の臨床試験に参加したがん患者のがん種横断的長期投与試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 BMS 主導によるニボルマブ及びその他のがん治療薬の臨床試験に参加したがん患者のがん種横断的長期投与試験			
医療技術名	既治療の転移又は局所進行EGFR 変異陽性非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者を対象としたpatritumab deruxtecan (U3-1402) の第Ⅱ相ランダム化非盲検試験	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 既治療の転移又は局所進行EGFR 変異陽性非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者を対象としたpatritumab deruxtecan (U3-1402) の第Ⅱ相ランダム化非盲検試験			
医療技術名	全身療法歴のない再発/転移性頭頸部扁平上皮癌を対象とした GSK3359609 又はプラセボとペムブロリズマブ及び5FU+プラチナ製剤との併用投与の第Ⅱ/Ⅲ相、無作為化、二重盲検、アダプティブ試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 全身療法歴のない再発/転移性頭頸部扁平上皮癌を対象としたGSK3359609 又はプラセボとペムブロリズマブ及び5FU+プラチナ製剤との併用投与の第Ⅱ/Ⅲ相、無作為化、二重盲検、アダプティブ試験			
医療技術名	局所進行又は転移性EGFR変異陽性非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者を対象としたHER3-DXd(パトリツマブデルクステカン;U3-1402)とオシメルチニブの併用療法の第Ⅰ相非盲検	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 局所進行又は転移性EGFR変異陽性非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者を対象としたHER3-DXd(パトリツマブデルクステカン;U3-1402)とオシメルチニブの併用療法の第Ⅰ相非盲検			
医療技術名	A Phase 1 Open-Label Study of HER3-DXd(Patritumab Deruxtecan;U3-1402) in Combination with Osimertinib in Subjects with Locally Advanced or Metastatic EGFR-mutated Non-Small Cell Lung Cancer (NSCLC)	取扱患者数	22
当該医療技術の概要 A Phase 1 Open-Label Study of HER3-DXd(Patritumab Deruxtecan;U3-1402) in Combination with Osimertinib in Subjects with Locally Advanced or Metastatic EGFR-mutated Non-Small Cell Lung Cancer (NSCLC)			

医療技術名	EGFR エクソン20 挿入変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としてアミバンタマブとカルボプラチン及びペメトレキセドの併用療法とカルボプラチン及びペメトレキセドを比較するランダム化、非盲検、第3相試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
EGFR エクソン20 挿入変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としてアミバンタマブとカルボプラチン及びペメトレキセドの併用療法とカルボプラチン及びペメトレキセドを比較するランダム化、非盲検、第3相試験			
医療技術名	未治療の局所進行非小細胞肺癌 (LA NSCLC) 患者を対象とした、ニボルマブと同時化学放射線療法 (CCRT) 後のニボルマブとイピリムマブの併用投与、又はニボルマブとCCRT 後のニボルマブの単独投与を、CCRT 後のデュルバルマブの投与と比較するランダム化オープンラベル第III相臨床試験	取扱患者数	13
当該医療技術の概要			
未治療の局所進行非小細胞肺癌 (LA NSCLC) 患者を対象とした、ニボルマブと同時化学放射線療法 (CCRT) 後のニボルマブとイピリムマブの併用投与、又はニボルマブとCCRT 後のニボルマブの単独投与を、CCRT 後のデュルバルマブの投与と比較するランダム化オープンラベル第III相臨床試験			
医療技術名	進行又は転移性胃食道腺癌患者を対象に、一次治療としてレンバチニブ (E7080/MK-7902) + ペムブロリズマブ (MK-3475) + 化学療法の有効性及び安全性を標準治療と比較する無作為化第III相試験 (LEAP-015)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
進行又は転移性胃食道腺癌患者を対象に、一次治療としてレンバチニブ (E7080/MK-7902) + ペムブロリズマブ (MK-3475) + 化学療法の有効性及び安全性を標準治療と比較する無作為化第III相試験 (LEAP-015)			
医療技術名	固形癌患者を対象とした安全性、忍容性及び有効性を評価するTAS-120 (Futibatinib) /MK-3475 (ペムブロリズマブ) 併用療法の臨床第1b相試験	取扱患者数	8
当該医療技術の概要			
固形癌患者を対象とした安全性、忍容性及び有効性を評価するTAS-120 (Futibatinib) /MK-3475 (ペムブロリズマブ) 併用療法の臨床第1b相試験			
医療技術名	術前療法後に乳房あるいは腋窩リンパ節に浸潤性残存病変を有する高リスクHER2陽性乳癌患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカン (T-DXd) とトラスツズマブ エムタンシン (T-DM1) を比較する多施設共同無作為化非盲検第III相試験	取扱患者数	8
当該医療技術の概要			
術前療法後に乳房あるいは腋窩リンパ節に浸潤性残存病変を有する高リスクHER2陽性乳癌患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカン (T-DXd) とトラスツズマブ エムタンシン (T-DM1) を比較する多施設共同無作為化非盲検第III相試験			
医療技術名	A Phase 3, Multicenter, Randomized, Open-Label, Active-Controlled Study of Trastuzumab Deruxtecan (T-DXd) Versus Trastuzumab Emtansine (T-DM1) in Subjects with High-Risk HER2-Positive Primary Breast Cancer Who Have Residual Invasive Disease in Breast or Axillary Lymph Nodes Following Neoadjuvant Therapy	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
A Phase 3, Multicenter, Randomized, Open-Label, Active-Controlled Study of Trastuzumab Deruxtecan (T-DXd) Versus Trastuzumab Emtansine (T-DM1) in Subjects with High-Risk HER2-Positive Primary Breast Cancer Who Have Residual Invasive Disease in Breast or Axillary Lymph Nodes Following Neoadjuvant Therapy			

医療技術名	プラチナ製剤併用同時化学放射線療法後に病勢進行が認められない切除不能局所進行III期非小細胞肺癌患者を対象に、アテゾリズマブ + Tiragolumabをデュルバルマブと比較する、非盲検、ランダム化第III相臨床試験 (SKYSCRAPER-03)	取扱患者数	7
当該医療技術の概要  プラチナ製剤併用同時化学放射線療法後に病勢進行が認められない切除不能局所進行III期非小細胞肺癌患者を対象に、アテゾリズマブ + Tiragolumabをデュルバルマブと比較する、非盲検、ランダム化第III相臨床試験 (SKYSCRAPER-03)			
医療技術名	切除不能な進行・再発大腸癌患者を対象としてベストサポータティブケアの併用下でfruquintinibの有効性及び安全性をプラセボと比較検討する第III相、国際多施設共同、無作為化、プラセボ対照試験 (FRESCO-2)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要  切除不能な進行・再発大腸癌患者を対象としてベストサポータティブケアの併用下でfruquintinibの有効性及び安全性をプラセボと比較検討する第III相、国際多施設共同、無作為化、プラセボ対照試験 (FRESCO-2)			
医療技術名	HER2過剰発現の切除不能進行再発大腸癌の患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの多施設共同、ランダム化、第II相試験 (DESTINY-CRC02)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要  HER2過剰発現の切除不能進行再発大腸癌の患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの多施設共同、ランダム化、第II相試験 (DESTINY-CRC02)			
医療技術名	HER2遺伝子変異を認める転移性非小細胞肺癌 (NON-SMALL CELL LUNG CANCER: NSCLC) 患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの第II相多施設共同無作為化試験 [DESTINY-LUNG02]	取扱患者数	5
当該医療技術の概要  HER2遺伝子変異を認める転移性非小細胞肺癌 (NON-SMALL CELL LUNG CANCER: NSCLC) 患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの第II相多施設共同無作為化試験 [DESTINY-LUNG02]			
医療技術名	遺伝子変異の有無を問わず、治療歴のある進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としたDS-1062aとドセタキセルを比較する無作為化第III相試験 (TROPION-Lung01)	取扱患者数	12
当該医療技術の概要  遺伝子変異の有無を問わず、治療歴のある進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としたDS-1062aとドセタキセルを比較する無作為化第III相試験 (TROPION-Lung01)			

医療技術名	遺伝子変異があり、標的療法及びプラチナ製剤ベースの化学療法による治療中あるいは治療後に疾患進行が認められた進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としたDS-1062a の非盲検、単一用量第II相試験 (TROPION-Lung05)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 遺伝子変異があり、標的療法及びプラチナ製剤ベースの化学療法による治療中あるいは治療後に疾患進行が認められた進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としたDS-1062a の非盲検、単一用量第II相試験 (TROPION-Lung05)			
医療技術名	トラスツズマブを含むレジメンの治療中又は治療後に増悪が認められたHER2陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃腺癌又は胃食道接合部腺癌患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの多施設共同2群無作為化非盲検第III相試験 (DESTINY-Gastric04)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 トラスツズマブを含むレジメンの治療中又は治療後に増悪が認められたHER2陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃腺癌又は胃食道接合部腺癌患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの多施設共同2群無作為化非盲検第III相試験 (DESTINY-Gastric04)			
医療技術名	前治療中若しくは前治療後に進行した又は前治療に不耐容となった転移性結腸・直腸癌患者を対象にレンバチニブとペムプロリズマブの併用療法を標準治療と比較する無作為化第III相試験 (LEAP-017試験)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 前治療中若しくは前治療後に進行した又は前治療に不耐容となった転移性結腸・直腸癌患者を対象にレンバチニブとペムプロリズマブの併用療法を標準治療と比較する無作為化第III相試験 (LEAP-017試験)			
医療技術名	HER2異常による固形癌で、局所進行性、切除不能又は転移性であり、治療歴を有する被験者を対象とした、Tucatinib及びトラスツズマブの併用療法第2相バスケット試験	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 HER2異常による固形癌で、局所進行性、切除不能又は転移性であり、治療歴を有する被験者を対象とした、Tucatinib及びトラスツズマブの併用療法第2相バスケット試験			
医療技術名	未治療のPD-L1陽性の転移性非小細胞肺癌患者を対象に、MK-7684及びMK-3475の配合剤 (MK-7684A) をMK-3475単独療法と比較する多施設共同無作為化二重盲検第III相試験 (KEYVIBE-003)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 未治療のPD-L1陽性の転移性非小細胞肺癌患者を対象に、MK-7684及びMK-3475の配合剤 (MK-7684A) をMK-3475単独療法と比較する多施設共同無作為化二重盲検第III相試験 (KEYVIBE-003)			
医療技術名	HER2低発現ホルモン受容体陽性の転移性乳癌に対する内分泌療法で病勢進行が認められた乳癌患者を対象としてトラスツズマブ デルクステカン (T-DXd) と医師選択化学療法を比較検討する多施設共同無作為化非盲検第III相試験 (DESTINY-Breast06)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 HER2低発現ホルモン受容体陽性の転移性乳癌に対する内分泌療法で病勢進行が認められた乳癌患者を対象としてトラスツズマブ デルクステカン (T-DXd) と医師選択化学療法を比較検討する多施設共同無作為化非盲検第III相試験 (DESTINY-Breast06)			

医療技術名	局所進行性又は転移性の悪性固形癌患者を対象としたEnfortumab Vedotinを評価する非盲検、多施設共同、複数コホート第2相試験(EV-202)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 局所進行性又は転移性の悪性固形癌患者を対象としたEnfortumab Vedotinを評価する非盲検、多施設共同、複数コホート第2相試験(EV-202)			
医療技術名	BRAF V600E 遺伝子変異を有する転移性結腸・直腸癌患者を対象に、安全性導入期として化学療法、エンコラフェニブおよびセツキシマブの併用療法を評価し、その後、一次治療として化学療法の併用または非併用下で、エンコラフェニブおよびセツキシマブの併用療法と標準治療を比較する非盲検、多施設共同、無作為化第3相試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 BRAF V600E 遺伝子変異を有する転移性結腸・直腸癌患者を対象に、安全性導入期として化学療法、エンコラフェニブおよびセツキシマブの併用療法を評価し、その後、一次治療として化学療法の併用または非併用下で、エンコラフェニブおよびセツキシマブの併用療法と標準治療を比較する非盲検、多施設共同、無作為化第3相試験			
医療技術名	ROS1融合遺伝子陽性の進行または転移性非小細胞肺癌およびその他の固形腫瘍患者を対象にTalectrectinibの有効性及び安全性を評価する単群、非盲検、多施設共同、第2相試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 ROS1融合遺伝子陽性の進行または転移性非小細胞肺癌およびその他の固形腫瘍患者を対象にTalectrectinibの有効性及び安全性を評価する単群、非盲検、多施設共同、第2相試験			
医療技術名	進展型小細胞肺癌の一次治療としてBMS-986012とカルボプラチン、エトポシド及びニボルマブとの併用療法を用いるランダム化オープンラベル第2相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 進展型小細胞肺癌の一次治療としてBMS-986012とカルボプラチン、エトポシド及びニボルマブとの併用療法を用いるランダム化オープンラベル第2相試験			
医療技術名	治療歴を有するPD-L1陽性の転移性結腸・直腸癌患者を対象にMK-4280A (MK-4280とMK-3475の配合剤)を標準療法と比較する第Ⅲ相試験	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 治療歴を有するPD-L1陽性の転移性結腸・直腸癌患者を対象にMK-4280A (MK-4280とMK-3475の配合剤)を標準療法と比較する第Ⅲ相試験			
医療技術名	PD-L1発現で選定された、未治療の局所進行、切除不能、又は遠隔転移を伴う非小細胞肺癌患者を対象に抗TIGIT抗体BGB-A1217とtisilelizumabの併用をペムブロリズマブと比較する第3相無作為化二重盲検試験	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 PD-L1発現で選定された、未治療の局所進行、切除不能、又は遠隔転移を伴う非小細胞肺癌患者を対象に抗TIGIT抗体BGB-A1217とtisilelizumabの併用をペムブロリズマブと比較する第3相無作為化二重盲検試験			

医療技術名	A Phase 3, Randomized, Double-Blind Study of BGB-A1217, an Anti-TIGIT Antibody, in Combination With Tislelizumab Compared to Pembrolizumab in Patients With Previously Untreated, PD-L1-Selected, and Locally Advanced, Unresectable, or Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 A Phase 3, Randomized, Double-Blind Study of BGB-A1217, an Anti-TIGIT Antibody, in Combination With Tislelizumab Compared to Pembrolizumab in Patients With Previously Untreated, PD-L1-Selected, and Locally Advanced, Unresectable, or Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer			
医療技術名	再発性または転移性頭頸部扁平上皮癌患者を対象としてbuparlisib (AN2025)とパクリタキセルの併用投与とパクリタキセル単独投与を比較評価する試験(BURAN試験)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 再発性または転移性頭頸部扁平上皮癌患者を対象としてbuparlisib (AN2025)とパクリタキセルの併用投与とパクリタキセル単独投与を比較評価する試験(BURAN試験)			
医療技術名	2ライン以上の前治療を受けた再発又は難治性小細胞肺癌患者を対象としたTarlatamabの有効性、安全性、忍容性及び薬物動態を評価する第II相試験(DeLLphi-301)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 2ライン以上の前治療を受けた再発又は難治性小細胞肺癌患者を対象としたTarlatamabの有効性、安全性、忍容性及び薬物動態を評価する第II相試験(DeLLphi-301)			
医療技術名	未治療のFGFR2b過剰発現進行性胃癌又は食道胃接合部癌患者を対象としたBemarituzumabと化学療法の併用投与とプラセボと化学療法の併用投与を比較するランダム化、多施設共同、二重盲検、プラセボ対照、第III相試験(FORTITUDE 101)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 未治療のFGFR2b過剰発現進行性胃癌又は食道胃接合部癌患者を対象としたBemarituzumabと化学療法の併用投与とプラセボと化学療法の併用投与を比較するランダム化、多施設共同、二重盲検、プラセボ対照、第III相試験(FORTITUDE 101)			
医療技術名	HER2エクソン19又は20変異を有する切除不能、局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象とした一次治療としてのトラスツズマブ デルクステカンの有効性及び安全性を評価する第III相多施設共同無作為化非盲検試験(DESTINY-Lung04)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 HER2エクソン19又は20変異を有する切除不能、局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象とした一次治療としてのトラスツズマブ デルクステカンの有効性及び安全性を評価する第III相多施設共同無作為化非盲検試験(DESTINY-Lung04)			
医療技術名	根治的治療後の血中循環腫瘍由来DNAの存在に基づく分子的疾患を有する、HER2陰性BRCA変異陽性乳癌患者又はトリプルネガティブ乳癌患者を対象とした、ニラバリブの有効性及び安全性をプラセボと比較するランダム化第3相二重盲検試験(ZEST)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 根治的治療後の血中循環腫瘍由来DNAの存在に基づく分子的疾患を有する、HER2陰性BRCA変異陽性乳癌患者又はトリプルネガティブ乳癌患者を対象とした、ニラバリブの有効性及び安全性をプラセボと比較するランダム化第3相二重盲検試験(ZEST)			

医療技術名	日本人進行固形がん患者を対象としたSacituzumab Govitecan の第1/2 相非盲検臨床試験 (ASCENT-J02)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 日本人進行固形がん患者を対象としたSacituzumab Govitecan の第1/2 相非盲検臨床試験 (ASCENT-J02)			
医療技術名	転移性食道癌患者を対象に1次治療としてのペムプロリズマブ (MK-3475) +レンバチニブ (E7080/MK-7902)+化学療法の有効性及び安全性を標準治療と比較する無作為化第Ⅲ相試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 転移性食道癌患者を対象に1次治療としてのペムプロリズマブ (MK-3475)+レンバチニブ (E7080/MK-7902)+化学療法の有効性及び安全性を標準治療と比較する無作為化第Ⅲ相試験			
医療技術名	体細胞遺伝子変異に基づいた個別化療法 (癌免疫療法及び分子標的療法) のがん種横断的プラットフォーム型第Ⅱ相試験 (TAPISTRY)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 体細胞遺伝子変異に基づいた個別化療法 (癌免疫療法及び分子標的療法) のがん種横断的プラットフォーム型第Ⅱ相試験 (TAPISTRY)			
医療技術名	前治療歴を有するRET融合遺伝子陽性の非小細胞肺癌患者を対象としたPralsetinibの第Ⅱ相臨床試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 前治療歴を有するRET融合遺伝子陽性の非小細胞肺癌患者を対象としたPralsetinibの第Ⅱ相臨床試験			
医療技術名	1～2ラインの全身化学療法歴のある手術不能又は転移性ホルモン受容体陽性、HER2陰性乳癌患者を対象としてDatopotamab Deruxtecan (Dato-DXd)と医師選択化学療法を比較検討する第Ⅲ相非盲検無作為化試験 (TROPION Breast01試験)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 1～2ラインの全身化学療法歴のある手術不能又は転移性ホルモン受容体陽性、HER2陰性乳癌患者を対象としてDatopotamab Deruxtecan (Dato-DXd)と医師選択化学療法を比較検討する第Ⅲ相非盲検無作為化試験 (TROPION Breast01試験)			
医療技術名	同時放射線化学療法後に進行しなかった、局所進行、切除不能の PD-L1 発現で選定された非小細胞肺癌患者を対象に、ociperlimab (BGB-A1217) + tislelizumab (BGB-A317) の併用投与とデュルバルマブの投与とを比較する第 3 相無作為化非盲検試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 同時放射線化学療法後に進行しなかった、局所進行、切除不能の PD-L1 発現で選定された非小細胞肺癌患者を対象に、ociperlimab (BGB-A1217) + tislelizumab (BGB-A317) の併用投与とデュルバルマブの投与とを比較する第 3 相無作為化非盲検試験			

医療技術名	治療歴を有するc-Met過剰発現, EGFR野生型, 局所進行性 / 転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象として, Telisotuzumab Vedotin (ABBV-399)とドセタキセルを比較する第III相, 非盲検, 無作為化, 比較対照, 国際共同試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
治療歴を有するc-Met過剰発現, EGFR野生型, 局所進行性 / 転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象として, Telisotuzumab Vedotin (ABBV-399)とドセタキセルを比較する第III相, 非盲検, 無作為化, 比較対照, 国際共同試験			
医療技術名	HER2 陽性消化器癌患者を対象としたtucatinib+トラスツズマブ+オキサリプラチンを含む化学療法の併用療法、及びtucatinib+トラスツズマブ+ペムブロリズマブを含む併用療法を検討する第1b/2相用量漸増及び拡大試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
HER2 陽性消化器癌患者を対象としたtucatinib+トラスツズマブ+オキサリプラチンを含む化学療法の併用療法、及びtucatinib+トラスツズマブ+ペムブロリズマブを含む併用療法を検討する第1b/2相用量漸増及び拡大試験			
医療技術名	前治療歴のある進展型小細胞肺癌 (ES-SCLC) 患者を対象とした、イフィナタマブ デルクステカン (I-DXd) の多施設共同、ランダム化、非盲検、第2相試験 (IDEATE-Lung01)	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
前治療歴のある進展型小細胞肺癌 (ES-SCLC) 患者を対象とした、イフィナタマブ デルクステカン (I-DXd) の多施設共同、ランダム化、非盲検、第2相試験 (IDEATE-Lung01)			
医療技術名	HER2過剰発現の進行胃腺癌 / 食道胃接合部腺癌患者を対象とした ALX148 の第2/3相試験 (ASPEN-06)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
HER2過剰発現の進行胃腺癌 / 食道胃接合部腺癌患者を対象としたALX148の第2/3相試験 (ASPEN-06)			
医療技術名	FGFR2bを過剰発現している固形癌患者を対象としたBemarituzumab単剤療法の安全性及び有効性を評価する第Ib/II相多施設共同非盲検バスケット試験 (FORTITUDE-301)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
FGFR2bを過剰発現している固形癌患者を対象としたBemarituzumab単剤療法の安全性及び有効性を評価する第Ib/II相多施設共同非盲検バスケット試験 (FORTITUDE-301)			
医療技術名	悪性腫瘍患者を対象にバイオマーカーの状態及び試験参加の適格性を判定するマスタースクリーニング試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
悪性腫瘍患者を対象にバイオマーカーの状態及び試験参加の適格性を判定するマスタースクリーニング試験			

医療技術名	局所進行切除不能III 期非小細胞肺癌患者を対象としたバイオマーカーのステータスに応じて選択されたコホートにおける複数の治療の有効性及び安全性を評価する第I-III 相多施設共同試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 局所進行切除不能III 期非小細胞肺癌患者を対象としたバイオマーカーのステータスに応じて選択されたコホートにおける複数の治療の有効性及び安全性を評価する第I-III 相多施設共同試験			
医療技術名	HER2+ breast cancer (HER2CLIMB-転移性HER2陽性乳癌の維持療法としてtucatinib又はプラセボをトラスツズマブ及びペルツズマブと併用する無作為化、二重盲検、第3相試験 (HER2CLIMB-05)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 HER2+ breast cancer (HER2CLIMB-転移性HER2陽性乳癌の維持療法としてtucatinib又はプラセボをトラスツズマブ及びペルツズマブと併用する無作為化、二重盲検、第3相試験 (HER2CLIMB-05)			
医療技術名	チロシンキナーゼ阻害剤 (TKI) 療法が奏効しなかった転移又は局所進行の上皮成長因子受容体変異陽性 (EGFRm) 非小細胞肺癌 (NSCLC) を対象としたパトリツマブ デルクステカンとプラチナ製剤併用化学療法を比較する第III 相無作為化非盲検試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 チロシンキナーゼ阻害剤 (TKI) 療法が奏効しなかった転移又は局所進行の上皮成長因子受容体変異陽性 (EGFRm) 非小細胞肺癌 (NSCLC) を対象としたパトリツマブ デルクステカンとプラチナ製剤併用化学療法を比較する第III 相無作為化非盲検試験			
医療技術名	A Phase III, Randomised, Open Label Study of Savolitinib in Combination With Osimertinib Versus Platinum Based Doublet Chemotherapy in Participants With EGFR Mutated MET Overexpressed and/or Amplified, Locally Advanced or Metastatic Non Small Cell Lung Cancer Who Have Progressed on Treatment With Osimertinib (SAFFRON)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 A Phase III, Randomised, Open Label Study of Savolitinib in Combination With Osimertinib Versus Platinum Based Doublet Chemotherapy in Participants With EGFR Mutated MET Overexpressed and/or Amplified, Locally Advanced or Metastatic Non Small Cell Lung Cancer Who Have Progressed on Treatment With Osimertinib (SAFFRON)			
医療技術名	高用量シスプラチン不適の頭頸部扁平上皮癌術後再発高リスク患者を対象に無病生存期間の改善を実証するため、プラセボ及び放射線療法の併用療法と比較したXevinapant及び放射線療法の併用療法の有効性及び安全性を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、2治療群、第III相試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 高用量シスプラチン不適の頭頸部扁平上皮癌術後再発高リスク患者を対象に無病生存期間の改善を実証するため、プラセボ及び放射線療法の併用療法と比較したXevinapant及び放射線療法の併用療法の有効性及び安全性を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、2治療群、第III相試験			
医療技術名	FGFR2bを過剰発現している未治療の進行性胃癌及び食道胃接合部癌患者を対象としたbemarituzumabと化学療法及びニボルマブとの併用療法と、化学療法及びニボルマブ併用療法とを比較する第Ib/III相試験 (FORTITUDE-102)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 FGFR2bを過剰発現している未治療の進行性胃癌及び食道胃接合部癌患者を対象としたbemarituzumabと化学療法及びニボルマブとの併用療法と、化学療法及びニボルマブ併用療法とを比較する第Ib/III相試験 (FORTITUDE-102)			

医療技術名	プラチナ製剤を用いた化学療法が不適格な高齢の局所進行頭頸部扁平上皮癌患者を対象とした、治験担当医師が選択する放射線単独療法又は放射線とセツキシマブの併用療法のいずれかにNBTXR3 の併用を評価する第3相(ピボタル)試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 プラチナ製剤を用いた化学療法が不適格な高齢の局所進行頭頸部扁平上皮癌患者を対象とした、治験担当医師が選択する放射線単独療法又は放射線とセツキシマブの併用療法のいずれかにNBTXR3 の併用を評価する第3相(ピボタル)試験			
医療技術名	プラチナ製剤を含む化学療法及び抗PD-1/PD-L1 免疫療法の投与中又は投与後に進行がみられた進行又は転移を有する非小細胞肺癌(NSCLC)患者を対象としてSacituzumab Govitecan をドセタキセルと比較する非盲検、国際多施設共同、無作為化、第3相試験	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 プラチナ製剤を含む化学療法及び抗PD-1/PD-L1 免疫療法の投与中又は投与後に進行がみられた進行又は転移を有する非小細胞肺癌(NSCLC)患者を対象としてSacituzumab Govitecan をドセタキセルと比較する非盲検、国際多施設共同、無作為化、第3相試験			
医療技術名	未治療の進行性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に、チラゴルマブ + アテゾリズマブ + ペムトレキセド + カルボプラチン/シスプラチンの併用を、ペムプロリズマブ + ペムトレキセド + カルボプラチン/シスプラチンの併用と比較するランダム化、二重盲検、プラセボ対照第II/III 相臨床試験	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 未治療の進行性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に、チラゴルマブ + アテゾリズマブ + ペムトレキセド + カルボプラチン/シスプラチンの併用を、ペムプロリズマブ + ペムトレキセド + カルボプラチン/シスプラチンの併用と比較するランダム化、二重盲検、プラセボ対照第II/III 相臨床試験			
医療技術名	プログラム細胞死リガンド1 で選択した未治療の局所進行/転移性非小細胞肺癌患者を対象とした新規複合免疫療法を評価する、マスタープロトコルを用いた第II相、無作為化、非盲検、プラットフォーム試験	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 プログラム細胞死リガンド1 で選択した未治療の局所進行/転移性非小細胞肺癌患者を対象とした新規複合免疫療法を評価する、マスタープロトコルを用いた第II相、無作為化、非盲検、プラットフォーム試験			
医療技術名	アクシオナブルゲノム変化のない局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象に一次治療としてのDatopotamab Deruxtecán (Dato-DXd)とデュルバルマブ及びカルボプラチンの併用療法をペムプロリズマブと白金製剤を含む化学療法の併用療法と比較する第III相、ランダム化、非盲検、多施設国際共同試験(D926NC00001、AVANZAR)	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 アクシオナブルゲノム変化のない局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象に一次治療としてのDatopotamab Deruxtecán (Dato-DXd)とデュルバルマブ及びカルボプラチンの併用療法をペムプロリズマブと白金製剤を含む化学療法の併用療法と比較する第III相、ランダム化、非盲検、多施設国際共同試験(D926NC00001、AVANZAR)			
医療技術名	進行固形がん患者を対象としたAB122プラットフォーム試験	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 進行固形がん患者を対象としたAB122プラットフォーム試験			

医療技術名	HER2遺伝子変異を認める転移性/局所進行非小細胞肺癌の患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの多施設共同非盲検拡大治験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 HER2遺伝子変異を認める転移性/局所進行非小細胞肺癌の患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの多施設共同非盲検拡大治験			
医療技術名	HER2陽性転移性結腸直腸癌被験者を対象に、一次治療としてのトラスツズマブ及びmFOLFOX6併用tucatinibをセツキシマブ若しくはペバシズマブ併用又は非併用mFOLFOX6と比較する非盲検、無作為化、第3相試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 HER2陽性転移性結腸直腸癌被験者を対象に、一次治療としてのトラスツズマブ及びmFOLFOX6併用tucatinibをセツキシマブ若しくはペバシズマブ併用又は非併用mFOLFOX6と比較する非盲検、無作為化、第3相試験			
医療技術名	An Open-label Randomized Phase 3 Study of Tucatinib in Combination with Trastuzumab and mFOLFOX6 versus mFOLFOX6 given with or without either Cetuximab or Bevacizumab as First-line Treatment for Subjects with HER2+ Metastatic Colorectal Cancer	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 An Open-label Randomized Phase 3 Study of Tucatinib in Combination with Trastuzumab and mFOLFOX6 versus mFOLFOX6 given with or without either Cetuximab or Bevacizumab as First-line Treatment for Subjects with HER2+ Metastatic Colorectal Cancer			
医療技術名	白金製剤を含む根治的同時化学放射線療法の施行後に病勢進行が認められていない局所進行切除不能非小細胞肺癌(Ⅲ期)患者を対象として、デュルバルマブ+Domvanalimab (AB154)を投与する第Ⅲ相ランダム化二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験 (PACIFIC-8)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 白金製剤を含む根治的同時化学放射線療法の施行後に病勢進行が認められていない局所進行切除不能非小細胞肺癌(Ⅲ期)患者を対象として、デュルバルマブ+Domvanalimab (AB154)を投与する第Ⅲ相ランダム化二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験 (PACIFIC-8)			
医療技術名	EGFR又はHER2活性化変異を伴う進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としてfurmonertinibの安全性、薬物動態及び抗腫瘍効果を評価する第1b相用量漸増及び用量展開試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 EGFR又はHER2活性化変異を伴う進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としてfurmonertinibの安全性、薬物動態及び抗腫瘍効果を評価する第1b相用量漸増及び用量展開試験			
医療技術名	未治療の局所進行切除不能又は転移性の胃腺癌、食道胃接合部腺癌及び食道腺癌患者を対象とした、Domvanalimab、Zimberelimab及び化学療法の併用とニボルマブ及び化学療法の併用とを比較検討するランダム化、非盲検、多施設共同、第3相試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 未治療の局所進行切除不能又は転移性の胃腺癌、食道胃接合部腺癌及び食道腺癌患者を対象とした、Domvanalimab、Zimberelimab及び化学療法の併用とニボルマブ及び化学療法の併用とを比較検討するランダム化、非盲検、多施設共同、第3相試験			

医療技術名	PD-L1陽性[Tumor Proportion Score (TPS)≥50%]の転移性非小細胞肺癌患者を対象に、1次治療としてペムプロリズマブ (MK-3475)+ sacituzumab govitecan の併用療法をMK-3475単独療法と比較する非盲検多施設共同無作為化実薬対照第Ⅲ相試験 (KEYNOTE D46/EVOKE-03)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 PD-L1陽性[Tumor Proportion Score (TPS)≥50%]の転移性非小細胞肺癌患者を対象に、1次治療としてペムプロリズマブ (MK-3475)+ sacituzumab govitecan の併用療法をMK-3475単独療法と比較する非盲検多施設共同無作為化実薬対照第Ⅲ相試験 (KEYNOTE D46/EVOKE-03)			
医療技術名	ERY974の単剤投与によるGPC3陽性の進行固形癌患者を対象とした第I相臨床試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 ERY974の単剤投与によるGPC3陽性の進行固形癌患者を対象とした第I相臨床試験			
医療技術名	上皮成長因子受容体エクソン20挿入変異を伴う局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者に対する一次療法としての Furmonertinibの有効性及び安全性をプラチナ製剤併用化学療法と比較検討する第Ⅲ相国際多施設共同無作為化非盲検試験 (FURVENT)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 上皮成長因子受容体エクソン20挿入変異を伴う局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者に対する一次療法としての Furmonertinibの有効性及び安全性をプラチナ製剤併用化学療法と比較検討する第Ⅲ相国際多施設共同無作為化非盲検試験 (FURVENT)			
医療技術名	プラチナ製剤をベースとした一次化学療法後の再発小細胞肺癌患者を対象としてタルラタマブと標準治療を比較するランダム化、非盲検、第Ⅲ相試験 (DeLLphi-304)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 プラチナ製剤をベースとした一次化学療法後の再発小細胞肺癌患者を対象としてタルラタマブと標準治療を比較するランダム化、非盲検、第Ⅲ相試験 (DeLLphi-304)			
医療技術名	HER2陽性の切除不能な局所進行性または転移性胃食道腺癌 (GEA) 患者を対象としたチスレリズマブ併用又は非併用下で化学療法と組み合わせたzanidatamabの無作為化、多施設共同、第Ⅲ相試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 HER2陽性の切除不能な局所進行性または転移性胃食道腺癌 (GEA) 患者を対象としたチスレリズマブ併用又は非併用下で化学療法と組み合わせたzanidatamabの無作為化、多施設共同、第Ⅲ相試験			
医療技術名	A Randomized, Multicenter, Phase 3 Study of Zanidatamab in Combination with Chemotherapy with or without Tislelizumab in Subjects with HER2-positive Unresectable Locally Advanced or Metastatic Gastroesophageal Adenocarcinoma (GEA)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 A Randomized, Multicenter, Phase 3 Study of Zanidatamab in Combination with Chemotherapy with or without Tislelizumab in Subjects with HER2-positive Unresectable Locally Advanced or Metastatic Gastroesophageal Adenocarcinoma (GEA)			

医療技術名	抗PD-(L)1療法及びプラチナ製剤ベースの前治療で進行した非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に、セミプリマブ併用下のATR阻害剤Tuvusertib (M1774)の有効性、安全性、忍容性及び薬物動態を評価する非盲検多施設共同第1b/2a相試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 抗PD-(L)1療法及びプラチナ製剤ベースの前治療で進行した非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に、セミプリマブ併用下のATR阻害剤Tuvusertib (M1774)の有効性、安全性、忍容性及び薬物動態を評価する非盲検多施設共同第1b/2a相試験			
医療技術名	DAREON <sup>®</sup> -5:再発/難治性進展型小細胞肺癌患者及びその他の再発/難治性神経内分泌癌患者を対象にDLL3を標的とするT細胞誘導抗体であるBI 764532を静脈内投与する非盲検, 多施設共同, 第II相, 用量選択試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 DAREON <sup>®</sup> -5:再発/難治性進展型小細胞肺癌患者及びその他の再発/難治性神経内分泌癌患者を対象にDLL3を標的とするT細胞誘導抗体であるBI 764532を静脈内投与する非盲検, 多施設共同, 第II相, 用量選択試験			
医療技術名	上皮成長因子受容体及び未分化リンパ腫キナーゼ遺伝子変異のない転移性非小細胞肺癌患者を対象とした一次治療としてのzimberelimab, domvanalimab及び化学療法併用とペムブロリズマブ及び化学療法併用とを比較評価するランダム化, 非盲検, 第3相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 上皮成長因子受容体及び未分化リンパ腫キナーゼ遺伝子変異のない転移性非小細胞肺癌患者を対象とした一次治療としてのzimberelimab, domvanalimab及び化学療法併用とペムブロリズマブ及び化学療法併用とを比較評価するランダム化, 非盲検, 第3相試験			
医療技術名	KRAS p.G12C変異陽性かつPD-L1陰性の臨床病期IIIB/C又はIVの非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に一次治療としてのソトラシブとプラチナダブレット併用療法の有効性をペムブロリズマブとプラチナダブレット併用療法と比較評価する第III相、多施設共同、ランダム化、非盲検試験 (CodeBreak 202)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 KRAS p.G12C変異陽性かつPD-L1陰性の臨床病期IIIB/C又はIVの非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に一次治療としてのソトラシブとプラチナダブレット併用療法の有効性をペムブロリズマブとプラチナダブレット併用療法と比較評価する第III相、多施設共同、ランダム化、非盲検試験 (CodeBreak 202)			
医療技術名	切除不能な胸膜中皮腫患者を対象に volrustomig (MEDI5752)とカルボプラチン+ペメトレキセドとの併用療法をプラチナ製剤+ペメトレキセド又はニボルマブ+イピリムマブと比較する第 III 相ランダム化非盲検国際多施設共同試験 (eVOLVE-Meso)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 切除不能な胸膜中皮腫患者を対象に volrustomig (MEDI5752)とカルボプラチン+ペメトレキセドとの併用療法をプラチナ製剤+ペメトレキセド又はニボルマブ+イピリムマブと比較する第 III 相ランダム化非盲検国際多施設共同試験 (eVOLVE-Meso)			
医療技術名	同時化学放射線療法後に進行が認められない限局型小細胞肺癌 (LS-SCLC) 患者を対象としたタルラタマブ療法の第III 相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同試験 (DeLLphi-306)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 同時化学放射線療法後に進行が認められない限局型小細胞肺癌 (LS-SCLC) 患者を対象としたタルラタマブ療法の第III 相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同試験 (DeLLphi-306)			

医療技術名	HER2 陰性で化学療法未治療の治癒切除不能な進行又は再発胃がん(食道胃接合部がんを含む)を有する被験者を対象としたONO-4578、ニボルマブ、並びにフッ化ピリミジン系薬剤及びプラチナ系薬剤の化学療法(以下、化学療法)の併用療法の有効性及び安全性を、プラセボ、ニボルマブ及び化学療法の併用療法と比較する多施設共同第II相無作為化二重盲検比較試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
HER2 陰性で化学療法未治療の治癒切除不能な進行又は再発胃がん(食道胃接合部がんを含む)を有する被験者を対象としたONO-4578、ニボルマブ、並びにフッ化ピリミジン系薬剤及びプラチナ系薬剤の化学療法(以下、化学療法)の併用療法の有効性及び安全性を、プラセボ、ニボルマブ及び化学療法の併用療法と比較する多施設共同第II相無作為化二重盲検比較試験			
医療技術名	上皮成長因子受容体のエクソン20挿入変異及びUncommon/Single又はCompound 変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としたZipalertinibの安全性及び有効性を評価する非盲検, 国際多施設共同, 第2b相試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
上皮成長因子受容体のエクソン20挿入変異及びUncommon/Single又はCompound 変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としたZipalertinibの安全性及び有効性を評価する非盲検, 国際多施設共同, 第2b相試験			
医療技術名	根治的同時化学放射線療法後に進行が認められなかった未切除の局所進行頭頸部扁平上皮癌患者を対象に、逐次療法としてのvolrustomig (MEDI5752)と観察群を比較する第III 相ランダム化非盲検国際多施設共同試験 (eVOLVE-HNSCC)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
根治的同時化学放射線療法後に進行が認められなかった未切除の局所進行頭頸部扁平上皮癌患者を対象に、逐次療法としてのvolrustomig (MEDI5752)と観察群を比較する第III 相ランダム化非盲検国際多施設共同試験 (eVOLVE-HNSCC)			
医療技術名	クローディン (CLDN) 18.2を発現した転移性又は局所進行性の切除不能な胃腺癌/食道胃接合部 (GEJ) 腺癌患者を対象とするASP2138の単剤療法及びペムブロリズマブ+mFOLFOX6並びにラムシルマブ+パクリタキセルとの併用療法, 及び転移性又は局所進行性の切除不能な膵腺癌患者を対象とするASP2138の単剤療法及びmFOLFIRINOXとの併用療法の第1/1b相試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
クローディン (CLDN) 18.2を発現した転移性又は局所進行性の切除不能な胃腺癌/食道胃接合部 (GEJ) 腺癌患者を対象とするASP2138の単剤療法及びペムブロリズマブ+mFOLFOX6並びにラムシルマブ+パクリタキセルとの併用療法, 及び転移性又は局所進行性の切除不能な膵腺癌患者を対象とするASP2138の単剤療法及びmFOLFIRINOXとの併用療法の第1/1b相試験			
医療技術名	転移性非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者の一次治療としてのVolrustomig (MEDI5752) + 化学療法とペムブロリズマブ + 化学療法の有効性を比較する第III相2群並行群間比較ランダム化国際多施設共同非盲検試験 (eVOLVE-Lung02)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
転移性非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者の一次治療としてのVolrustomig (MEDI5752) + 化学療法とペムブロリズマブ + 化学療法の有効性を比較する第III相2群並行群間比較ランダム化国際多施設共同非盲検試験 (eVOLVE-Lung02)			
医療技術名	局所進行又は転移性固形癌患者を対象としたpatritumab deruxtecan (HER3-DXd; U3-1402) の第II相多施設共同複数コホート非盲検proof of concept試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
局所進行又は転移性固形癌患者を対象としたpatritumab deruxtecan (HER3-DXd; U3-1402) の第II相多施設共同複数コホート非盲検proof of concept試験			

医療技術名	(PD-L1)陽性の局所再発手術不能又は転移性トリプルネガティブ乳癌患者を対象としてダトポタマブ デルクステカン (Dato-DXd)の単剤療法又はデュルバルマブとの併用療法と医師選択化学療法 (パクリタキセル、nab-パクリタキセル、又はゲムシタビン + カルボプラチン)とペムプロリズマブの併用療法を比較検討する第III相非盲検無作為化試験 (TROPION-Breast05)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要  (PD-L1)陽性の局所再発手術不能又は転移性トリプルネガティブ乳癌患者を対象としてダトポタマブ デルクステカン (Dato-DXd)の単剤療法又はデュルバルマブとの併用療法と医師選択化学療法 (パクリタキセル、nab-パクリタキセル、又はゲムシタビン + カルボプラチン)とペムプロリズマブの併用療法を比較検討する第III相非盲検無作為化試験 (TROPION-Breast05)			
医療技術名	進行固形癌患者を対象としたイフィナタマブ デルクステカン (DS-7300a、I-DXd)の多施設共同2パート第 I/II相 First-in-Human 試験 (IDEATE-Pantumor01)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要  進行固形癌患者を対象としたイフィナタマブ デルクステカン (DS-7300a、I-DXd)の多施設共同2パート第 I/II相 First-in-Human 試験 (IDEATE-Pantumor01)			
医療技術名	進行NSCLC患者及びその他の固形がん患者を対象とした高選択性ROS1阻害薬NVL-520の第I/II相試験 (ARROS-1)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要  進行NSCLC患者及びその他の固形がん患者を対象とした高選択性ROS1阻害薬NVL-520の第I/II相試験 (ARROS-1)			
医療技術名	既治療進行/再発非小細胞肺癌におけるNivolumabの効果予測因子探索のための第II相試験	取扱患者数	50
当該医療技術の概要  既治療進行/再発非小細胞肺癌におけるNivolumabの効果予測因子探索のための第II相試験			
医療技術名	HR陽性/HER2陰性の進行または転移性乳癌女性患者を対象に、パルボシクリブ + タモキシフェン (&plusmn;ゴセリン)併用投与とプラセボ + タモキシフェン (&plusmn;ゴセリン)併用投与を比較する、アジア共同、国際、多施設、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較第III相試験	取扱患者数	7
当該医療技術の概要  HR陽性/HER2陰性の進行または転移性乳癌女性患者を対象に、パルボシクリブ + タモキシフェン (&plusmn;ゴセリン)併用投与とプラセボ + タモキシフェン (&plusmn;ゴセリン)併用投与を比較する、アジア共同、国際、多施設、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較第III相試験			
医療技術名	進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン + ペメトレキセド + アテゾリズマブ療法とカルボプラチン + ペメトレキセド + アテゾリズマブ + ベバシズマブ療法の多施設共同オープンラベル無作為化第III相比較試験	取扱患者数	11
当該医療技術の概要  進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン + ペメトレキセド + アテゾリズマブ療法とカルボプラチン + ペメトレキセド + アテゾリズマブ + ベバシズマブ療法の多施設共同オープンラベル無作為化第III相比較試験			

医療技術名	第1・2世代EGFR-TKI治療後、脳転移単独増悪(T790M変異陰性/不明)もしくは第1・2世代EGFR-TKI治療およびプラチナ治療後Systemic PD (T790M変異陰性)を示したEGFR変異陽性非小細胞肺癌患者に対するオシメルチニブを用いた第Ⅱ相試験	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 第1・2世代EGFR-TKI治療後、脳転移単独増悪(T790M変異陰性/不明)もしくは第1・2世代EGFR-TKI治療およびプラチナ治療後Systemic PD (T790M変異陰性)を示したEGFR変異陽性非小細胞肺癌患者に対するオシメルチニブを用いた第Ⅱ相試験			
医療技術名	MSI-H tumorMSI-Hを有する進行胃癌又は食道胃接合部癌患者を対象とした1次治療としてのニボルマブと低用量イピリムマブ併用の第Ⅱ相試験(NO LIMIT試験)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 MSI-H tumorMSI-Hを有する進行胃癌又は食道胃接合部癌患者を対象とした1次治療としてのニボルマブと低用量イピリムマブ併用の第Ⅱ相試験(NO LIMIT試験)			
医療技術名	KRAS G12C変異陽性の化学療法未治療進行再発の非扁平上皮・非小細胞肺癌患者を対象としたsotorasib+カルボプラチン+ペメトレキセドの第Ⅱ相試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 KRAS G12C変異陽性の化学療法未治療進行再発の非扁平上皮・非小細胞肺癌患者を対象としたsotorasib+カルボプラチン+ペメトレキセドの第Ⅱ相試験			
医療技術名	ALK融合遺伝子陽性の進行・再発固形腫瘍を対象としたブリグチニブの多施設共同第Ⅱ相バスケット試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 ALK融合遺伝子陽性の進行・再発固形腫瘍を対象としたブリグチニブの多施設共同第Ⅱ相バスケット試験			
医療技術名	進行・再発胸腺癌に対するカルボプラチン+パクリタキセル+アテゾリズマブ(MPDL3280A)の第Ⅱ相試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 進行・再発胸腺癌に対するカルボプラチン+パクリタキセル+アテゾリズマブ(MPDL3280A)の第Ⅱ相試験			
医療技術名	HER2遺伝子変異を有する固形癌に対するMobocertinib+T-DM1併用療法の安全性と有効性を検討する多施設共同第Ⅰa/Ⅰb相バスケット試験	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 HER2遺伝子変異を有する固形癌に対するMobocertinib+T-DM1併用療法の安全性と有効性を検討する多施設共同第Ⅰa/Ⅰb相バスケット試験			
医療技術名	経皮的僧帽弁接合不全修復術	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 手術高リスクの重症僧帽弁逆流症を有する患者に対し、カテーテルを用いて開心術を行わないで僧帽弁逆流を改善させる治療である。			

医療技術名	経皮的左耳閉鎖術	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
心房細動による血栓は左心耳で発生する。左心耳を経皮的にデバイスで閉じることによって塞栓症を予防する。			
医療技術名	FFR-CT	取扱患者数	291
当該医療技術の概要			
FFR-CTは冠動脈疾患が疑われる患者の解剖学的・機能的評価を非侵襲的に行うことができる。これにより侵襲的冠動脈造影検査に進む前のゲートキーパーとして期待される最新の非侵襲的診断方法である。			
医療技術名	心臓サルコイドーシスにおけるPET診断	取扱患者数	15
当該医療技術の概要			
FDG-PETを用いて心臓サルコイドーシスの炎症部位診断を行う。			
医療技術名	OCT(Optical Coherence Tomography:光干渉断層法)による冠動脈病変の描出	取扱患者数	27
当該医療技術の概要			
OCTは血管内超音波検査(IVUS)と比べて解像度が約10-15 $\mu$ mとIVUSの約10倍の高い分解能を有し、IVUSの弱点である石灰化や血栓などの評価に優れている。冠動脈疾患発生のメカニズムの解明や薬剤溶出性ステント治療後の評価に役立つ事が期待されている。			
医療技術名	冠動脈石灰化病変に対するRotablator治療	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
微小のダイヤモンド粒子でコーティングされた先端チップ(Burr)とそのBurrを回転させる駆動シャフトから構成され、Burrを15~19万回転/分で高速回転することにより、アテローム性プラークを切削する Deviceである。			
医療技術名	心房細動アブレーション	取扱患者数	325
当該医療技術の概要			
心房細動を発症する原因となる不整脈源性を有する肺静脈の同定、カルトシステムによる3次元マッピングシステムとスマートタッチシステムによる安全なアブレーション、さらには多点同時マッピングシステムによる心房細動の機序解明などを行い、心房細動の根治治療を行っている。また、新規に導入された冷凍バルーンによる肺静脈隔離術も積極的に行っている。			
医療技術名	植え込み型除細動器ならびに心臓再同期療法	取扱患者数	21
当該医療技術の概要			
致死的不整脈のリスクを有する患者や薬物抵抗性の心不全と心室の非同期的収縮を有する患者に対する植え込み型の治療機器。			
医療技術名	リードレスペースメーカー	取扱患者数	17
当該医療技術の概要			
鎖骨下静脈の血管アクセスが困難な透析症例、徐脈性心房細動症例などでペースメーカーが必要な場合、大腿静脈からアプローチし、右室にリードレスペースメーカーの留置を行っている。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁留置術	取扱患者数	126
当該医療技術の概要			
手術高リスクの重症大動脈弁狭窄症を有する患者に対し、カテーテルを用いて開心術を行わないで大動脈を留置する。			

医療技術名	ASD閉鎖術	取扱患者数	17
当該医療技術の概要			
心房中隔欠損症を有する患者に対し、開心術を行わずにカテーテルで欠損孔を閉鎖する。			
医療技術名	胎児心エコー検査	取扱患者数	153
当該医療技術の概要			
高機能を有する胎児心エコー装置を使用し、胎児心臓病を正確に診断する。 さらに、心臓病を有する胎児の予後予測と出生時に必要な予後を改善する治療を準備する。			
医療技術名	胎児心臓遠隔診断	取扱患者数	275
当該医療技術の概要			
専門的知識と技術が必要な胎児心臓病の診断を最新の遠隔装置を使用し、地域医療に専門的スキルを提供する。			
医療技術名	先天性疾患のカテーテル治療	取扱患者数	28
当該医療技術の概要			
従来外科手術を行っていた動脈管開存t心房中隔欠損に対して専用のデバイスで閉鎖する治療。外科治療と異なり侵襲が少なく、胸部に傷を残さない治療			
医療技術名	頻回再発型ネフローゼ症候群に対するミゾリビン治療	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
年齢や体重に応じ、投与量を調節し、小児頻回再発型ネフローゼ症候群に対するミゾリビン経口投与を行っている。			
医療技術名	難治性IgA血管炎に対するジアフェニルスルホン治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
既存の治療でも腹痛や紫斑が再燃する難治性IgA血管炎に対してジアフェニルスルホン経口投与を行っている。			
医療技術名	小児難治性頻回再発型ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	16
当該医療技術の概要			
小児難治性頻回再発型ネフローゼ症候群に対し、CD20によるモニタリングのうえ、リツキシマブ投与日を調整している。			
医療技術名	組織学的、臨床学的重症IgA腎症に対するミゾリビン治療	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
組織学的、臨床学的重症IgA腎症に対し、年齢や体重に応じ、投与量を調節したミゾリビン治療を行っている。			
医療技術名	小児期IgA腎症に対する扁桃摘出療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
内科的治療による改善が不十分な症例に対して扁桃摘出療法を行なう。			

医療技術名	肝細胞癌に対する新規の分子標的療法の臨床試験	取扱患者数	53
当該医療技術の概要			
切除不能進行肝癌に対して、ファーストライン・セカンドラインとして分子標的療法の有効性を立証するの臨床試験を積極的に行っている。			
医療技術名	肝細胞癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の臨床試験	取扱患者数	153
当該医療技術の概要			
切除不能進行肝癌に対して、ファーストライン・セカンドラインとして免疫チェックポイント阻害剤の有効性を立証するの臨床試験を積極的に行っている。			
医療技術名	肝癌に対するUS-US fusionガイドを用いたラジオ波焼灼術	取扱患者数	86
当該医療技術の概要			
ラジオ波焼灼術に際して、焼灼前後の複数の超音波画像を重ね合わせることで、リアルタイムにablative marginを3次的に評価し、単回の治療で高い根治性が得られる手法を開発し、臨床応用している。			
医療技術名	肝細胞癌根治後における免疫チェックポイント阻害薬の再発抑制効果の臨床試験	取扱患者数	38
当該医療技術の概要			
肝細胞癌治療で免疫チェックポイント阻害薬をアジュバント、ネオアジュバントで活用した際の、その後の抗腫瘍効果や再発抑制効果を検討している。			
医療技術名	肝細胞癌に対する肝動脈側線術と免疫チェック阻害薬の併用療法の臨床試験	取扱患者数	33
当該医療技術の概要			
外科切除不能の進行肝細胞癌について肝動脈塞栓術単独と免疫チェック阻害薬との併用療法と比較検討することで、その有効性を立証する臨床試験を積極的に行っている。			
医療技術名	肝細胞癌に対する肝動脈塞栓術と分子標的薬の併用療法の臨床試験	取扱患者数	27
当該医療技術の概要			
外科切除不能の多発する肝細胞癌について肝動脈塞栓療法単独と分子標的薬(レンバチニブ)との併用療法と比較することで有効性を検証する臨床試験を積極的に行っている。			
医療技術名	肝細胞癌に対する分子標的薬の効果判定としての造影超音波	取扱患者数	63
当該医療技術の概要			
造影超音波は造影CT/MRIと比べて微細な血流シグナルを検出できることから、肝細胞癌への分子標的治療薬の効果判定としてより精度の高い判断ができるように造影超音波を活用している。			
医療技術名	神経症状を伴わない進行肝癌患者における脳転移の疫学調査	取扱患者数	17
当該医療技術の概要			
「肝癌の脳転移は少ない」と従来から認識されているが、治療法の進歩から脳転移の症例が増えることが予想される。神経症状を伴っていない脳転移早期の症例の疫学を他施設に先駆けて調査している。			

医療技術名	肝細胞癌に対する免疫チェック阻害剤の効果予測におけるMRI画像所見の役割	取扱患者数	40
当該医療技術の概要			
肝細胞癌のゲノム解析から予測されるMRI画像所見と癌組織の免疫微小環境の知見をもとに、MRI画像から肝細胞癌に対する免疫チェック阻害薬の効果进行推定する臨床研究を積極的に行っている。			
医療技術名	既存の腫瘍マーカーを用いた肝発癌予測の臨床研究	取扱患者数	581
当該医療技術の概要			
既存の腫瘍マーカーを用い、統計学的に肝発癌の発生時期を推定する臨床研究を行っている。			
医療技術名	肝細胞癌画像からの分子標的薬の効果と関連する画像の特徴量の抽出	取扱患者数	330
当該医療技術の概要			
肝細胞癌のCT画像からの分子標的薬の効果と関連する画像の特徴量を抽出する臨床研究を行っている。			
医療技術名	超音波エラストグラフィーでの肝硬度測定と非アルコール性脂肪性肝炎リスク群の抽出	取扱患者数	76
当該医療技術の概要			
超音波エラストグラフィーを用いて、積極的に肝硬度測定を行い、それを基に非アルコール性脂肪性肝炎リスク群を抽出し、肝生検による診断効率を上げる工夫をしている。			
医療技術名	超音波エラストグラフィーでの食道・胃静脈瘤の高リスク群抽出と安全な静脈瘤治療	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
超音波エラストグラフィーによる肝硬度、脾硬度より、食道・胃静脈瘤の高リスク群を抽出し、積極的に内視鏡で確認し治療を実施している。また、胃静脈瘤にはCANDISシステムを用いて安全なB-RTOを行っている。			
医療技術名	難治性腹水に対するトルバプタンの治療効果と効果予測因子の探求	取扱患者数	52
当該医療技術の概要			
薬物療法に不応な難治性腹水例に対して積極的にトルバプタンを投与し腹水コントロールを行っている。また、その効果予測因子を統計学的手法で探索している。			
医療技術名	食道表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	60
当該医療技術の概要			
食道表在癌に対して、術前にNBI診断で深達度を評価し、一括切除できる内視鏡的粘膜下層剥離術を施行している。全周性の病変に対しても施行可能であり、術後狭窄予防のため、ステロイドの粘膜下層局注を行っている。			
医療技術名	早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	121
当該医療技術の概要			
早期胃癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術を行っており、術前に超音波内視鏡による深達度診断、NBIによる切除範囲の確定を行っている。			

医療技術名	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	92
当該医療技術の概要			
大腸腫瘍に対して内視鏡的粘膜下層剥離術を行っている。術前に色素内視鏡やNBIにより、質的診断、深達度診断を行ない、これらの工夫により、一括完全切除が行えている。			
医療技術名	造影超音波内視鏡検査(造影EUS)	取扱患者数	623
当該医療技術の概要			
胆膵領域における超音波内視鏡検査(EUS)はその有用性が報告されているが、造影下での検査を行うことで早期膵腫瘍の診断率向上が可能となる			
医療技術名	超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)	取扱患者数	266
当該医療技術の概要			
EUSで膵腫瘍や腹腔内リンパ節を評価し、そのまま穿刺吸引をして組織を撮取することで癌やリンパ腫の早期診断が可能となる。			
医療技術名	超音波内視鏡下胆道ドレナージ(EUS-BD)	取扱患者数	47
当該医療技術の概要			
EUSで拡張胆管や胆嚢を描出し、そのまま経胃、経十二指腸的にドレナージを行う。これまで外科的手術を要した内視鏡的処置困難症例に適応がある。			
医療技術名	超音波内視鏡下嚢胞ドレナージ(EUS-CD)	取扱患者数	52
当該医療技術の概要			
急性膵炎の合併症である感染性嚢胞に、EUS下にドレナージを行う。これまでは外科的手術を要していた病態も、手術を回避してQOLを確保することができる。			
医療技術名	超音波内視鏡下膵管ドレナージ(EUS-PD)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
EUSで拡張膵管を描出し、そのまま経胃、経十二指腸的にドレナージを行う。術後症例などの内視鏡的処置困難症例に適応がある。			
医療技術名	EUSガイド下腹腔神経叢ブロック術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
膵癌などの悪性腫瘍の腹腔神経叢浸潤に伴う難治性の癌性疼痛に対し、EUSガイド下腹腔神経叢ブロック術を行ない、高い除痛効果を得ている。			
医療技術名	内視鏡的経乳頭の胆道ドレナージ(金属ステントを含む)	取扱患者数	388
当該医療技術の概要			
膵臓癌や胆管癌などによる胆管狭窄に対し、内視鏡を用いて経乳頭的にドレナージチューブを留置する。症例によっては金属ステントを留置する。			
医療技術名	内視鏡的乳頭腫瘍切除術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
十二指腸乳頭部にできた腫瘍を内視鏡を用いて切除する。適応症例に施行することで外科的侵襲を防ぐことが可能になる			

医療技術名	大動脈ステントグラフト治療	取扱患者数	89
当該医療技術の概要			
胸部および腹部大動脈瘤に対して、開胸や開腹を行うことなく血管内治療ができる。			
医療技術名	MICS (Minimally Invasive Cardiac Surgery : 低侵襲心臓手術)	取扱患者数	42
当該医療技術の概要			
①僧帽弁疾患 ②大動脈弁疾患 ③先天性心疾患 ④不整脈 に対し、小切開により直視下またはVideo Assist下で低侵襲に心臓手術を行う。			
医療技術名	経カテーテル的大動脈弁移植術 (TAVI)	取扱患者数	126
当該医療技術の概要			
超高齢者や人工心肺を用いた手術に耐術困難なハイリスク大動脈弁狭窄症に対して、開胸や人工心肺を用いず、カテーテル的に大動脈弁位に人工弁を移植できる。			
医療技術名	ロボット支援下僧帽弁形成術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要			
ダビンチ支援下による僧帽弁形成を行う低侵襲手術。			
医療技術名	難治性性ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ投与	取扱患者数	30
当該医療技術の概要			
小児発症のステロイド依存性・頻回再発型ネフローゼ症候群の成人移行例やステロイド治療困難例などに対してリツキシマブでの治療を取り入れている。また、成人発症のステロイド依存性・頻回再発型ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ投与の医師主導治験(多施設共同)にも参加した。			
医療技術名	体外循環を用いたアフエーシス治療	取扱患者数	72
当該医療技術の概要			
当該医療技術の概要: 血漿の中から疾患の原因物質を取り除くアフエーシス治療をANCA血管炎、クリオグロブリン血症、巣状分節性糸球体硬化症などの腎疾患、神経・消化器系免疫疾患などに実施している(腹水濾過濃縮再静注20名、二重膜濾過血漿交換3名、単純血漿交換26名、選択的血漿交換5名、顆粒球除去療法10名、血液吸着療法2名、血漿吸着療法6名)。			
医療技術名	糖脂質抗体(抗ガングリオンド抗体)および糖脂質複合体抗体の測定	取扱患者数	2690
当該医療技術の概要			
ギラン・バレー症候群をはじめとする免疫性末梢神経障害の原因抗体である抗糖脂質抗体を測定している。糖脂質複合体抗体は、当院当科オリジナルの抗体であり、独自の手段で測定を行っている。全国の医療機関から依頼を受けており、件数は年間2500件以上である。			
医療技術名	神経変性疾患の遺伝子検査	取扱患者数	50
当該医療技術の概要			
脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症(ALS)などの神経変性疾患の原因遺伝子の検査を行っている。特に、近年ALSの発症関連遺伝子が次々と明らかになり、特に若年発症ALSとの関連が示唆されている。また、臨床遺伝専門医による診療も行っている。			

医療技術名	パーキンソン病の酸化DJ-1測定	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
DJ-1はパーキンソン病の原因遺伝子のひとつであり、パーキンソン病発症と関連が示唆されている。赤血球膜の酸化DJ-1が未治療のパーキンソン病で上昇するとの報告があり、補助診断としての応用を検討している。			
医療技術名	脊髄小脳変性症に対する新規治療薬の開発	取扱患者数	8
当該医療技術の概要			
家族性脊髄小脳変性症における蛋白質凝集阻害効果を持つ新規治療薬の開発を行っている。2021～2023年にはアルギニンの医師主導治験を行った。			
医療技術名	PET/CT simulation	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
PET/CTの画像を用いて放射線治療計画を行う高精度治療計画法			
医療技術名	神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体核医学内用療法	取扱患者数	17
当該医療技術の概要			
ソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍に対し、ルテチウムオキソドトロオチド(177Lu)を用いて、体内からがん細胞を直接放射線治療を行う			
医療技術名	認知症における脳FDG-PET	取扱患者数	33
当該医療技術の概要			
脳の糖代謝異常をみることによりアルツハイマー病と他の認知症疾患を鑑別することができる。			
医療技術名	脳アミロイドPET	取扱患者数	36
当該医療技術の概要			
アルツハイマー病の原因とされるアミロイドタンパクの脳への沈着をPETにより生体で画像化できる検査			
医療技術名	脳タウPET	取扱患者数	41
当該医療技術の概要			
アルツハイマー病他タウが原因とされる疾患においてタウタンパクの脳への沈着をPETにより生体で画像化できる検査			
医療技術名	腎細胞癌患者を対象とし、腎摘除術後の術後補助療法としてMK-3475を単剤投与する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、第Ⅲ相試験	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
腎細胞癌患者を対象とし、腎摘除術後の術後補助療法としてMK-3475を評価する。			

医療技術名	未治療の切除不能又は転移性尿路上皮がん患者を対象にニボルマブとイピリムマブ又は標準化学療法との併用療法と標準化学療法を比較する無作為化非盲検第Ⅲ相試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 未治療の切除不能又は転移性尿路上皮がん患者を対象にニボルマブとイピリムマブを評価する。			
医療技術名	切除不能な局所進行又は転移性尿路上皮癌患者を対象に、一次治療としてのデュルバルマブ+標準化学療法及びデュルバルマブ+tremelimumab+標準化学療法と標準化学療法単独とを比較する第Ⅲ相国際多施設共同無作為化非盲検比較対照試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 切除不能な局所進行又は転移性尿路上皮癌患者を対象に、一次治療としてのデュルバルマブ+標準化学療法及びデュルバルマブ+tremelimumab+標準化学療法と標準化学療法単独とを比較検討する。			
医療技術名	筋層浸潤性膀胱癌患者においてネオアジュバント療法としてデュルバルマブをゲムシタビン+シスプラチンと併用し、その後アジュバント療法としてデュルバルマブを単独投与したときの有効性及び安全性を評価する第Ⅲ相無作為化非盲検多施設国際共同試験	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 筋層浸潤性膀胱癌患者においてネオアジュバント療法としてデュルバルマブをゲムシタビン+シスプラチンと併用し、その後アジュバント療法としてデュルバルマブを単独投与したときの有効性及び安全性を評価する			
医療技術名	根治的前立腺全摘出術の候補である高リスクかつ限局性又は局所進行性前立腺癌患者を対象としたApalutamideのランダム化、二重盲検、プラセボ対照第3相試験	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 根治的前立腺全摘出術の候補である高リスクかつ限局性又は局所進行性前立腺癌患者を対象としたApalutamideの効果の検討			
医療技術名	転移を有する去勢抵抗性前立腺癌患者を対象とした カボザンチニブ (XL184)とアテゾリズマブの併用投与を 2剤目の新規ホルモン療法 (NHT) と比較検討する第 3相ランダム化非盲検比較対照試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 転移を有する去勢抵抗性前立腺癌患者を対象とした カボザンチニブ (XL184)とアテゾリズマブの併用投与を 2剤目の新規ホルモン療法 (NHT) と比較検討する			
医療技術名	ウシ型弱毒結核菌 (BCG) による前治療歴のない高リスク筋層非浸潤性膀胱癌患者を対象として抗PD-1 抗体PF-06801591 とBCG (導入・維持療法または導入療法) の併用投与とBCG (導入・維持療法) を比較する第3 相, 国際共同, 無作為化, 非盲検, 3 群並行試験	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 ウシ型弱毒結核菌 (BCG) による前治療歴のない高リスク筋層非浸潤性膀胱癌患者を対象として抗PD-1 抗体PF-06801591 とBCG (導入・維持療法または導入療法) の併用投与とBCG (導入・維持療法) を比較する			
医療技術名	DDR遺伝子変異を有する転移性去勢感受性前立腺癌を対象に、タラズパリブとエンザルタミドの併用投与とプラセボとエンザルタミドの併用投与を比較する無作為化、二重盲検、第3相試験	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 DDR遺伝子変異を有する転移性去勢感受性前立腺癌を対象に、タラズパリブとエンザルタミドの併用投与とプラセボとエンザルタミドの併用投与を比較する			

医療技術名	PTEN欠損を特徴とするDe Novo転移性ホルモン感受性前立腺癌(mHSPC)患者に対する治療として、カピバセルチブとアピラテロン投与の有効性及び安全性をプラセボとアピラテロン投与と比較して評価する第III相二重盲検無作為化プラセボ対照試験(CAPitello-281)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 PTEN欠損を特徴とするDe Novo転移性ホルモン感受性前立腺癌(mHSPC)患者に対する治療として、カピバセルチブとアピラテロン投与の有効性及び安全性をプラセボとアピラテロン投与と比較して評価する			
医療技術名	根治的膀胱全摘除術を施行予定のシスプラチン不適格もしくは拒否した筋層浸潤性膀胱癌患者において周術期治療としてデュルバルマブをトレメリムマブ+enfortumab vedotinと併用、若しくはenfortumab vedotinと併用にて投与したときの有効性及び安全性を評価する第III相無作為化非盲検多施設共同試験(VOLGA)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 根治的膀胱全摘除術を施行予定のシスプラチン不適格もしくは拒否した筋層浸潤性膀胱癌患者において周術期治療としてデュルバルマブをトレメリムマブ+enfortumab vedotinと併用、若しくはenfortumab vedotinと併用にて投与したときの有効性及び安全性を評価する			
医療技術名	転移性去勢抵抗性前立腺癌(mCRPC)患者の治療として、カピバセルチブとドセタキセル投与の有効性及び安全性をプラセボとドセタキセル投与と比較して評価する第III相二重盲検ランダム化プラセボ対照試験	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 転移性去勢抵抗性前立腺癌(mCRPC)患者の治療として、カピバセルチブとドセタキセル投与の有効性及び安全性をプラセボとドセタキセル投与と比較して評価する			
医療技術名	日本人進行固形がん患者を対象としたSacituzumab Govitecanの第1/2相非盲検臨床試験(ASCENT-J02)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 日本人進行固形がん患者を対象としたSacituzumab Govitecanの効果を検討する。			
医療技術名	HRR関連遺伝子変異陽性及びHRR関連遺伝子変異非陽性の転移性去勢感受性前立腺癌患者を対象とした、医師が選択した新規ホルモン剤との併用下におけるAZD5305のランダム化2コホート二重盲検プラセボ対照第III相試験(EvoPAR-Prostate01)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 HRR関連遺伝子変異陽性及びHRR関連遺伝子変異非陽性の転移性去勢感受性前立腺癌患者を対象とした、医師が選択した新規ホルモン剤との併用下におけるAZD5305の効果を検討する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	277
取扱い患者数の合計(人)	9712

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	10	56	ベーチェット病	68
2	筋萎縮性側索硬化症	36	57	特発性拡張型心筋症	53
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	12
4	原発性側索硬化症	2	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	19	60	再生不良性貧血	36
6	パーキンソン病	320	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	8	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	66
9	神経有棘赤血球症	1	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	5	65	原発性免疫不全症候群	10
11	重症筋無力症	148	66	IgA 腎症	66
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	50
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	124	68	黄色靱帯骨化症	6
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／	32	69	後縦靱帯骨化症	25
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クロー・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	31
17	多系統萎縮症	13	72	下垂体性ADH分泌異常症	20
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	85	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	3
20	副腎白質ジストロフィー	3	75	クッシング病	1
21	ミトコンドリア病	9	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	57	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	13
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	42
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	20	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	105
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	64
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	26
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	16
34	神経線維腫症	18	89	リンパ脈管腫症	2
35	天疱瘡	27	90	網膜色素変性症	84
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	27	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	4	93	原発性胆汁性胆管炎	31
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	28	95	自己免疫性肝炎	34
41	巨細胞性動脈炎	23	96	クローン病	150
42	結節性多発動脈炎	18	97	潰瘍性大腸炎	364
43	顕微鏡的多発血管炎	81	98	好酸球性消化管疾患	8
44	多発血管炎性肉芽腫症	30	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	35	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	15	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	5	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	367	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	128	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	118	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	38	107	若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	66	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人発症ステル病	24	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	11	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	2	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167	マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群	3
113	筋ジストロフィー	23	168	エーラス・ダンロス症候群	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	169	メンケス病	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	4
117	脊髄空洞症	0	172	低ホスファターゼ症	0
118	脊髄髄膜瘤	1	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	0	174	那須・ハコラ病	0
120	遺伝性ジストニア	0	175	ウィーバー症候群	0
121	脳内鉄沈着神経変性症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
122	脳表ヘモジリン沈着症	1	177	ジュベール症候群関連疾患	0
123	HTRA1関連脳小血管病	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	180	ATR-X症候群	0
126	ベリー病	0	181	クルーゾン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	182	アペール症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	183	ファイファー症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	1	185	コフィン・シリズ症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	2
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	1
135	アイカルディ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	0	191	ウェルナー症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198	4p欠失症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	1
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マギニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスムッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	208	修正大血管転位症	2
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	209	完全大血管転位症	2
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	4
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	212	三尖弁閉鎖症	0
158	結節性硬化症	12	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
159	色素性乾皮症	1	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2
160	先天性魚鱗癬	2	215	ファロー四徴症	5
161	家族性良性慢性天疱瘡	1	216	両大血管右室起始症	0
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	29	217	エプスタイン病	3
163	特発性後天性全身性無汗症	1	218	アルポート症候群	1
164	眼皮膚白皮症	0	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜炎	0	220	急速進行性糸球体腎炎	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	276	軟骨無形成症	0
222	一次性ネフローゼ症候群	90	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
224	紫斑病性腎炎	8	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
225	先天性腎性尿崩症	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
227	オスラー病	3	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
228	閉塞性細気管支炎	1	283	後天性赤芽球癆	4
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
230	肺胞低換気症候群	1	285	ファンコニ貧血	0
231	$\alpha$ 1-アンチトリプシン欠乏症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
232	カーニー複合	0	287	エプスタイン症候群	0
233	ウォルフラム症候群	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	2
235	副甲状腺機能低下症	1	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸型)	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	292	総排泄腔外反症	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	293	総排泄腔遺残	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
240	フェニルケトン尿症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
241	高チロシン血症1型	0	296	胆道閉鎖症	1
242	高チロシン血症2型	0	297	アラジール症候群	0
243	高チロシン血症3型	0	298	遺伝性肺炎	0
244	メープルシロップ尿症	0	299	嚢胞性線維症	0
245	プロピオン酸血症	0	300	IgG4関連疾患	30
246	メチルマロン酸血症	0	301	黄斑ジストロフィー	1
247	イソ吉草酸血症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
248	グルコーストランスporter-1欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
249	グルタル酸血症1型	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
250	グルタル酸血症2型	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
251	尿素サイクル異常症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	41
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	307	カナバン病	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	308	進行性白質脳症	0
254	ポルフィリン症	3	309	進行性ミオクローヌスてんかん	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	310	先天異常症候群	0
256	筋型糖原病	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
257	肝型糖原病	1	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
260	シトステロール血症	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0
261	タンジール病	0	316	カルニチン回路異常症	1
262	原発性高カイロミクロン血症	0	317	三頭酵素欠損症	0
263	脳腫黄色腫症	0	318	シトリン欠損症	0
264	無 $\beta$ リポタンパク血症	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
265	脂肪萎縮症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
266	家族性地中海熱	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
267	高IgD症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
268	中條・西村症候群	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
271	強直性脊椎炎	19	326	大理石骨病	0
272	進行性骨化性線維異形成症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	328	前眼部形成異常	0
274	骨形成不全症	0	329	無虹彩症	1
275	タナトフォリック骨異形成症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
331	特発性多中心性キャスルマン病	4			
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0			
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0			
334	脳クレアチン欠乏症候群	0			
335	ネフロン癆	0			
336	家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合)	0			
337	ホモシスチン尿症	0			
338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0			
339	MECP2重複症候群	0			
340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0			
341	TRPV4異常症	0			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	133
合計患者数(人)	3710

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
医療DX推進体制整備加算	感染対策向上加算1(指導強化加算)
地域歯科診療支援病院歯科初診料	患者サポート体制充実加算
歯科外来診療医療安全対策加算2	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
歯科外来診療感染対策加算3	ハイリスク妊娠管理加算
歯科診療特別対応連携加算	ハイリスク分娩管理加算
特定機能病院入院基本料(一般病棟:7対1入院基本料、入院栄養管理体制加算)	呼吸ケアチーム加算
救急医療管理加算	術後疼痛管理チーム加算
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算1
診療録管理体制加算1	病棟薬剤業務実施加算2
医師事務作業補助体制加算1(20対1)	データ提出加算(データ提出加算2)
急性期看護補助体制加算(25対1(看護補助者5割以上)、看護補助体制充実加算1、夜間100対1急性期看護補助体制加算、夜間看護体制加算)	入退院支援加算(加算1、地域連携診療計画加算、入院時支援加算、総合機能評価加算)
看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	認知症ケア加算(加算1)
療養環境加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
重症者等療養環境特別加算	地域医療体制確保加算
無菌治療室管理加算1	救命救急入院料3(「注2」精神疾患診断治療初回加算、救急体制充実加算1)
無菌治療室管理加算2	特定集中治療室管理料1(早期離床・リハビリテーション加算)
放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	新生児特定集中治療室管理料1
緩和ケア診療加算	新生児治療回復室入院医療管理料
摂食障害入院医療管理加算	小児入院医療管理料2(無菌治療管理加算1及び2、養育支援体制加算、注2に規定する加算(保育士2名以上の場合))
栄養サポートチーム加算	入院時食事療養/生活療養(I)
医療安全対策加算1	

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
歯科疾患管理料の「注11」に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
ウイルス疾患指導料	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	角結膜悪性腫瘍切除手術
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	角膜移植術(内皮移植加算)
心臓ペースメーカー指導管理料の「注5」に規定する遠隔モニタリング加算	羊膜移植術
糖尿病合併症管理料	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
がん性疼痛緩和指導管理料	緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))
がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
がん患者指導管理料イ	網膜再建術
がん患者指導管理料ロ	経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
がん患者指導管理料ハ	人工中耳植込術
がん患者指導管理料ニ	植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
外来緩和ケア管理料	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)、(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
糖尿病透析予防指導管理料	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科)
婦人科特定疾患治療管理料	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
腎代替療法指導管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
一般不妊治療管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
生殖補助医療管理料1	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
下肢創傷処置管理料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
慢性腎臓病透析予防指導管理料	乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
外来腫瘍化学療法診療料1	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
連携充実加算	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

ニコチン依存症管理料	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
がん治療連携計画策定料	胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ハイリスク妊産婦連携指導料1	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
ハイリスク妊産婦連携指導料2	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
肝炎インターフェロン治療計画料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
こころの連携指導料(Ⅱ)	肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
薬剤管理指導料	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
医療機器安全管理料1	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
医療機器安全管理料2	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
精神科退院時共同指導料2	胸腔鏡下弁形成術
歯科治療時医療管理料	胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
救急患者連携搬送料	胸腔鏡下弁置換術
在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	経皮的僧帽弁クリップ術
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	経皮的中隔心筋焼灼術
遺伝学的検査	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
遺伝学的検査の注1に規定する施設基準	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
染色体検査の注2に規定する基準	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
骨髄微小残存病変量測定	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術

BRCA1/2遺伝子検査	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
がんゲノムプロファイリング検査	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
先天性代謝異常症検査	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	補助人工心臓
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	経皮的下肢動脈形成術
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術
検体検査管理加算(IV)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
国際標準検査管理加算	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
遺伝カウンセリング加算	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
胎児心エコー法	腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
ヘッドアップティルト試験	腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
人工膵臓検査、人工膵臓療法	腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
長期継続頭蓋内脳波検査	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
長期脳波ビデオ同時記録検査1	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
光トポグラフィー	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)
脳波検査判断料1	体外衝撃波胆石破碎術
神経学的検査	腹腔鏡下肝切除術
補聴器適合検査	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術

黄斑局所網膜電図	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
全視野精密網膜電図	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ロービジョン検査判断料	腹腔鏡下腓中央切除術
コンタクトレンズ検査料1	腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
小児食物アレルギー負荷検査	腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内服・点滴誘発試験	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
経頸静脈的肝生検	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
CT透視下気管支鏡検査加算	内視鏡的小腸ポリープ切除術
経気管支凍結生検法	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
精密触覚機能検査	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
画像診断管理加算4	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
遠隔画像診断	腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	同種死体腎移植術
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	生体腎移植術
乳房用ポジトロン断層撮影	膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
CT撮影及びMRI撮影	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
冠動脈CT撮影加算	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
血流予備量比コンピューター断層撮影	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
外傷全身CT加算	人工尿道括約筋植込・置換術
心臓MRI撮影加算	精巣内精子採取術
乳房MRI撮影加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
小児鎮静下MRI撮影加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)

頭部MRI撮影加算	腹腔鏡下仙骨腔固定術
全身MRI撮影加算	腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
肝エラストグラフィ加算	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
外来化学療法加算1	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
無菌製剤処理料	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	体外式膜型人工肺管理料
運動器リハビリテーション料(I)	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術)
呼吸器リハビリテーション料(I)	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
摂食機能療法の「注3」に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2	輸血管管理料 I
がん患者リハビリテーション料	輸血適正使用加算
リンパ浮腫複合的治療料	コーディネート体制充実加算
歯科口腔リハビリテーション料2	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
通院・在宅精神療法の注4に規定する児童思春期精神科専門管理加算	同種クリオプレシピテート作製術
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
多血小板血漿処置	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
エタノールの局所注入(甲状腺)	レーザー機器加算
人工腎臓	麻酔管理料(I)
導入期加算2及び腎代替療法実績加算	麻酔管理料(II)
導入期加算3及び腎代替療法実績加算	歯科麻酔管理料
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	放射線治療専任加算

難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	外来放射線治療加算
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	高エネルギー放射線治療
ストーマ合併症加算	1回線量増加加算
歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	強度変調放射線治療(IMRT)
口腔粘膜処置	画像誘導放射線治療(IGRT)
歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	体外照射呼吸性移動対策加算
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	定位放射線治療
歯科技工加算1及び2	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検生検加算	画像誘導密封小線源治療加算
皮膚移植術(死体)	保険医療機関間の連携による病理診断
自家脂肪注入	デジタル病理画像による病理診断
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る)	病理診断管理加算2
四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の「注」に掲げる処理骨再建加算	悪性腫瘍病理組織標本加算
骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	口腔病理診断管理加算2
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	クラウン・ブリッジ維持管理料
椎間板内酵素注入療法	歯科矯正診断料
緊急穿頭血腫除去術	看護職員処遇改善評価料(62)
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	外来・在宅ベースアップ評価料(I)
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	歯科外来・在宅ベースアップ評価料(I)
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	入院ベースアップ評価料(84)



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
骨軟部腫瘍におけるゲノム異常に基づくTCR-T細胞治療と免疫制御法を併用した組織型横断的	垣見 和宏	医学部免疫学教室	22,307,693	補委 日本医療研究開発機構
患者血液検体を用いたミトコンドリア異常と免疫チェックポイント阻害薬の治療効果との関連について明らかにする後方視的研究	林 秀敏	医学部内科学教室(腫瘍内科部門)	10,000,000	補委 日本医療研究開発機構
脳腫瘍を標的とする抗体薬物複合体の開発	伊藤 彰彦	医学部病理学教室	1,550,000	補委 日本医療研究開発機構
肝腫瘍におけるAI支援超音波診断システムの実用化研究	工藤 正俊	医学部内科学教室(消化器内科部門)	30,000,000	補委 日本医療研究開発機構
尿中エクソソームによる尿路上皮癌診断自動測定装置の開発	藤田 和利	医学部泌尿器科教室	7,456,832	補委 日本医療研究開発機構
アルギニンによるアルツハイマー病の予防および進行抑制	永井 義隆	医学部内科学教室(脳神経内科部門)	2,000,000	補委 科学技術振興機構
放射線診療の発展に対応する放射線防護の基準策定のための研究	細野 眞	医学部放射線医学教室(放射線腫瘍学部門)	2,770,000	補委 厚生労働省
新規AUG非依存性RAN翻訳の分子機構とその神経変性病態における役割	永井 義隆	医学部内科学教室(脳神経内科部門)	24,100,000	補委 日本学術振興会
神経変性疾患における液-液相分離の制御破綻による蛋白質凝集メカニズムの解明	永井 義隆	医学部内科学教室(脳神経内科部門)	4,200,000	補委 日本学術振興会
エクソソームによるタンパク質クラアランス機構の解明と病的意義	武内 敏秀	ライフサイエンス研究所	5,000,000	補委 日本学術振興会
APOBEC3欠損によるBリンパ腫発生の分子機構	宮澤 正顯	医学部免疫学教室	2,200,000	補委 日本学術振興会
ガンマオシレーション誘導法の統合失調症患者への応用と海馬病態への効果	柳 雅也	医学部精神神経科学教室	4,100,000	補委 日本学術振興会
腎細胞がんに対する癌ワクチンを用いた複合免疫療法の有用性に関する検討	植村 天受	医学部泌尿器科学教室	4,100,000	補委 日本学術振興会
ネオアンチゲン特異的T細胞の分化と機能を制御する分子基盤の解明による治療法の開発	垣見 和宏	医学部免疫学教室	6,300,000	補委 日本学術振興会
循環腫瘍DNAのメチル化解析による原発不明がんの原発臓器推定モデルの検証的研究	西尾 和人	医学部ゲノム生物学教室	6,300,000	補委 日本学術振興会
TWIST1発現に基づく高組織寄与MSCを用いた新しい組織再生医療と新規MSCマーカーの開発	寺村 岳士	近畿大学高度先端総合医療センター(再生医療部)	4,000,000	補委 日本学術振興会
卵巣明細胞癌の根治を目指す新規免疫療法の開発	松村 謙臣	医学部産科婦人科学教室	3,100,000	補委 日本学術振興会
抗ウイルス遺伝子産物により誘導される細胞内ウイルスRNA分解の新機構	博多 義之	医学部教育センター	1,100,000	補委 日本学術振興会
うつ病発症機構におけるタンパクメチル化酵素によるリン酸化シグナル制御の重要性	宮田 信吾	東洋医学研究所	1,300,000	補委 日本学術振興会
GANPのヒストンアセチル化活性欠損に起因する乳癌サブタイプの臨床病理学的意義	栗原 一彦	近畿大学病院病理診断科	1,300,000	補委 日本学術振興会
ウイルス性心筋炎における血小板の役割の解明	佐藤 文孝	医学部微生物学教室	1,300,000	補委 日本学術振興会
末梢神経に高親和性の抗体による疼痛・搔痒の抑制	萩山 満	医学部病理学教室	1,200,000	補委 日本学術振興会
B細胞におけるAPOBEC3の発現誘導機構及びその分子機能の解明	河原 佐智代	医学部免疫学教室	1,800,000	補委 日本学術振興会
内在化する抗体による細胞内癌抗原標的創薬の基礎研究	和田 昭裕	医学部病理学教室	1,200,000	補委 日本学術振興会
次世代型低温可塑性ポーラスおよび患者固定具の開発	門前 一	近畿大学病院がんセンター放射線治療部医学物理室	1,300,000	補委 日本学術振興会

細菌叢プロファイルからみたIgG4関連疾患における多臓器病変形成メカニズムの解明	三長 孝輔	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
大規模疫学データベースを用いた加熱式タバコの心血管疾患発症リスクの解明	松村 光一郎	医学部内科学教室(循環器内科部門)	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
肺線維化における短鎖脂肪酸および受容体 FFAR2/3 の寄与と解明	西山 理	医学部内科学教室(呼吸器・アレルギー内科部門)	1,700,000	(補委)	日本学術振興会
変異受容体型チロシンキナーゼの細胞内輸送制御による白血病治療薬の開発研究	田中 宏和	医学部内科学教室(血液・膠原病内科部門)	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
インフラマソーム活性化による重症敗血症時の血球減少とmicroRNAによる制御の解明	中嶋 康文	医学部麻酔科学教室	1,800,000	(補委)	日本学術振興会
脳の可塑性と機能回復への新たなアプローチ:手術合併症を回避するための臨床研究	露口 尚弘	近畿大学病院脳神経外科	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
転移性脳腫瘍の制御を目的としたCAR-T細胞療法の開発に関する研究	奥田 武司	医学部脳神経外科学教室	1,800,000	(補委)	日本学術振興会
慢性腎臓病の骨・筋への影響とPAI-1の役割について	梶 博史	医学部再生機能医学教室	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
エクソソームmiRNAを介した筋-脂肪間応答の異常は加齢性筋減衰を誘発する	糸数 万紀	医学部リハビリテーション医学教室	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
前立腺癌マウスモデルを用いた腫瘍微小免疫環境の変化に関する基礎的研究	テベラスコマルコ アントニオ	医学部ゲノム生物学教室	1,700,000	(補委)	日本学術振興会
腸内細菌叢によるアンドロゲンシグナル経路を介した去勢抵抗性前立腺癌進展機序の解明	藤田 和利	医学部泌尿器科学教室	1,700,000	(補委)	日本学術振興会
卵巣類内腺癌のがん関連遺伝子変異に基づく腫瘍内不均一性の探索および発生機序の解明	貫戸 明子	医学部産科婦人科学教室	1,200,000	(補委)	日本学術振興会
マウス細胞株ライブラリーを用いた卵巣明細胞癌に対する新規バイオマーカーの探索	宮川 知保	医学部産科婦人科学教室	700,000	(補委)	日本学術振興会
HPVワクチンの「副反応」に関する仮説の科学的な検証	城 玲央奈	医学部産科婦人科学教室	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
多形腺腫由来癌の癌化予測因子の網羅的解析と診断、治療法の確立	安松 隆治	医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
法医学と行政機関の有機的連携による引きこもり等のセルフネグレクト孤独死研究	垣内 康宏	医学部法医学教室	700,000	(補委)	日本学術振興会
長期的大規模コホート調査による前がんおよび前神経変性疾患に関する臨床疫学的検討	井内田 科子	医学部予防医学・行動科学教室	2,400,000	(補委)	日本学術振興会
運動介入による再生、修復促進効果の新しい機序の解析研究	高橋 英夫	医学部薬理学教室	1,500,000	(補委)	日本学術振興会
皮膚終末糖化産物(AGE)をバイオマーカーとした幼児肥満の病態解明と予防策	杉本 圭相	医学部小児科学教室	800,000	(補委)	日本学術振興会
非荷重に伴う骨格筋萎縮における組織線溶系の役割の検討	大平 宇志	医学部再生機能医学教室	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
透視下内視鏡手技における被ばくの現状評価と低減対策(全国多施設研究)	竹中 完	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
病態バイオマーカーを新機軸とした心理社会的療法の共創	柳 雅也	医学部精神神経科学教室	2,100,000	(補委)	日本学術振興会
定性画像のその先へ、定量性を兼ね備えた発症率が低い認知症患者群のPET画像生成手法	山田 誉大	近畿大学高度先端総合医療センターPET分子イメージング部	2,100,000	(補委)	日本学術振興会
CT・MRI検査をまたぐシームレスな肝脂肪定量モデルの開発	石川 大介	近畿大学高度先端総合医療センターPET分子イメージング部	3,100,000	(補委)	日本学術振興会
疾患感受性遺伝子と生活習慣の相互作用からみたクローン病の病態解明	本庶 元	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,800,000	(補委)	日本学術振興会
1型糖尿病における膵β細胞破壊の新規バイオマーカーと保護因子の解明	庭野 史丸	医学部内科学教室(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	1,800,000	(補委)	日本学術振興会
EGFR/HER2 exon 20 挿入変異モデルに対する新規 TKI の獲得耐性機序の解明	濱田 顕	医学部外科学教室(呼吸器外科部門)	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
胎盤局所の概日リズムは胎盤機能を介して母体の健康や胎児発育に関与するか?	近藤 愛(武下愛)	医学部解剖学教室	1,800,000	(補委)	日本学術振興会

原発性眼内悪性リンパ腫三次リンパ構造内B細胞解析による新規治療標的の解明	坂本 万寿夫	医学部眼科学教室	1,500,000	(補委)	日本学術振興会
血中抗酸化ビタミン濃度と循環器疾患発症リスクに関する大規模長期疫学研究	松村 拓実	医学部公衆衛生学教室	1,700,000	(補委)	日本学術振興会
地域高齢者への7日間心電図測定による発作性心房細動スクリーニングの有用性の検討	田中 麻理	医学部公衆衛生学教室	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
NAD分解酵素SARM1の炎症下における役割の解明	杉澤 良一	医学部生化学教室	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
遺伝子変異数及び癌関連遺伝子発現量による原発性肺癌の層別化方法の開発	伊藤 正興	医学部外科学教室(呼吸器外科部門)	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
心停止蘇生後の呼吸商と転機および活性酸素との関連の研究	篠崎 広一郎	医学部救急医学教室	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
早期肺腺がん進行の機序解明と克服を目指した基礎的研究	宗 淳一	医学部外科学教室(呼吸器外科部門)	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
未熟児網膜症における増殖膜線維化の病態解明	日下 俊次	医学部眼科学教室	600,000	(補委)	日本学術振興会
タブレット端末を用いた新しい視野自己チェックツールの開発	松本 長太	医学部眼科学教室	300,000	(補委)	日本学術振興会
血清CTRP3低値は骨粗しょう症や脆弱性骨折の発症リスクを高めるか	藤田 裕規	医学部教育センター	400,000	(補委)	日本学術振興会
IL-33を標的とした改善候補薬による恒常性維持効果の基礎的検討	ハティポール オメル・ファルク	医学部薬理学教室	900,000	(補委)	日本学術振興会
エピゲノム制御を介した転移性乳がん発生機構の解明と新規乳がん治療法の開発	古室 暁義	医学部生化学教室	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
エピゲノム制御を介した転移性乳がん発生機構の解明と新規乳がん治療法の開発	伊藤 彰彦	医学部病理学教室	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
代謝ストレスにより誘導される新規肝がんモデルの作製と機能解析	岡田 斉	医学部生化学教室	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
医用画像とimmunogenomicsを用いた人工知能による肝癌薬物療法の最適化	西田 直生志	医学部内科学教室(消化器内科部門)	700,000	(補委)	日本学術振興会
KRAS阻害剤の耐性機序の解明及びその克服治療についての研究	米阪 仁雄	医学部内科学教室(腫瘍内科部門)	400,000	(補委)	日本学術振興会
慢性胃粘膜感染したピロリ菌が分泌する外膜小胞による神経炎症の制御機構	朴 雅美	医学部教育センター	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
新規PI内用療法の導入に向けた線量評価に基づく標準的な実施指針の開発	細野 眞	医学部放射線医学教室(放射線腫瘍学部門)	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
食道癌術前化学療法の治療効果予測—低酸素イメージングと癌シグナル伝達因子との相関	甲斐田 勇人	近畿大学高度先端総合医療センターPET分子イメージング部	800,000	(補委)	日本学術振興会
ディーブラーニングを用いたマンモグラム時系列解析による対側乳癌予測システムの開発	山室 美佳	近畿大学病院中央放射線部	400,000	(補委)	日本学術振興会
血中cfDNAを用いた肝細胞癌の化学療法に対する治療抵抗性クローンの同定	工藤 正俊	医学部内科学教室(消化器内科部門)	300,000	(補委)	日本学術振興会
ヒト冠動脈における第三代薬剤溶出ステント留置後の生体反応の検討	中澤 学	医学部内科学教室(循環器内科部門)	400,000	(補委)	日本学術振興会
2型糖尿病における複合遺伝形質の分割とエピスタシス・エピジェネティクス解析	馬場谷 成	医学部内科学教室(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	600,000	(補委)	日本学術振興会
次世代シーケンス技術を駆使した日本人特有の新規1型糖尿病遺伝子の同定と機能解析	能宗 伸輔	医学部内科学教室(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
膵β細胞機能の完全廃絶を規定する遺伝子ならびにバイオマーカーの同定と解析	池上 博司	医学部内科学教室(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	300,000	(補委)	日本学術振興会
血清中エクソソームに注目した悪性胸膜中皮腫における新規診断バイオマーカー開発	津谷 康大	医学部外科学教室(呼吸器外科部門)	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
バイオインフォマティクスの手法による放射線脳壊死関連M2マクロファージの機能解析	藤田 貢	医学部教育センター	600,000	(補委)	日本学術振興会
転写因子TWIST1による分化転換と未分化性誘導を利用した間葉系幹細胞の作製	森 樹史	ライフサイエンス研究所	1,000,000	(補委)	日本学術振興会

ヒトGastruloid(人工擬似胚)を用いたMSCの発生機序解明	竹原 俊幸	近畿大学高度先端総合医療センター再生医療部	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
EGCGによる脳外傷後の高齢者高次脳機能障害発症抑制関連因子発現に関する研究	佐藤 隆夫	近畿大学病院病理診断科	600,000	(補委)	日本学術振興会
横隔膜エコーを活用した効果的な呼吸筋トレーニング法の開発	東本 有司	医学部リハビリテーション医学教室	800,000	(補委)	日本学術振興会
植物ステロールの効能と毒性における小腸コレステロール排泄機構の役割	田中 裕滋	近畿大学病院臨床検査医学部	900,000	(補委)	日本学術振興会
脳内ストップウォッチの神経基盤の解明	生塩 研一	医学部教育センター	900,000	(補委)	日本学術振興会
神経接着分子に着目した新規頭蓋内輸送システムの確立と脳腫瘍創薬への展開	米重 あづさ	医学部病理学教室	1,600,000	(補委)	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象の発症及び重症化のリスク因子解析	谷崎 潤子	医学部内科学教室(腫瘍内科部門)	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
CT画像、病理組織、臨床情報からMSI-H胃癌を同定するAIアルゴリズムの構築	川上 尚人	医学部内科学教室(腫瘍内科部門)	1,700,000	(補委)	日本学術振興会
EGFR変異肺癌に対する第4世代EGFR-TKIの有用性とその獲得耐性機序の解明	須田 健一	医学部外科学教室(呼吸器外科部門)	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
糖尿病患者におけるサルコペニア発症に関する遺伝因子と分子メカニズムの解明	廣峰 義久	医学部内科学教室(内分泌・代謝・糖尿病内科部門)	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
反復配列延長に関連する筋萎縮性側索硬化症の病態解明と治療法開発	平野 牧人	医学部内科学教室(脳神経内科部門)	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
多発性硬化症の発症・病態におけるIgAと腸内細菌の役割	尾村 誠一	医学部微生物学教室	1,200,000	(補委)	日本学術振興会
レビー小体型認知症における血液診断マーカーの開発について	西郷 和真	近畿大学病院遺伝子診療部	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
臨床的グリオーマ実験モデルを用いた放射線脳死関連マクロファージの機能解析	中松 清志	医学部放射線医学教室(放射線腫瘍学部門)	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
間質性肺炎合併放射線肺臓炎モデルの確立と吸入ステロイド薬の放射線防護効果の証明	立野 沙織	近畿大学病院放射線科(放射線腫瘍学部門)	1,200,000	(補委)	日本学術振興会
自己免疫性膵炎・IgG4関連疾患の発症に関わる腸管・膵臓免疫ネットワークの解明	渡邊 智裕	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤投与に伴う急速な腫瘍増大(HPD)の発症機序の解析	萩原 智	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,200,000	(補委)	日本学術振興会
青黛による芳香族炭化水素受容体の活性化を用いた慢性膵疾患の治療法の開発	鎌田 研	医学部内科学教室(消化器内科部門)	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
難治性喘息・COPDなどの閉塞性気道疾患に併存する気管支拡張の早期病態の解明	松本 久子	医学部内科学教室(呼吸器・アレルギー内科部門)	1,600,000	(補委)	日本学術振興会
治癒を目指したCML幹細胞の特性解析	松村 到	医学部内科学教室(血液・膠原病内科部門)	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
薬物介入による血中サブスタンスP濃度制御と食道癌術後の誤嚥治療または予防効果	安田 卓司	医学部外科学教室(上部消化管部門)	500,000	(補委)	日本学術振興会
直腸癌術後縫合不全発症における腸管免疫・腸内細菌を含む微小環境変化の解析	川村 純一郎	医学部外科学教室(下部消化管部門)	1,500,000	(補委)	日本学術振興会
肺がんにおけるKRAS変異標的療法の効果改善と耐性化克服にむけた基礎的研究	宗 淳一	医学部外科学教室(呼吸器外科部門)	800,000	(補委)	日本学術振興会
卵巣高異型度漿液性癌のシングルセルHRDの解析と腫瘍内不均一性の解明	高矢 寿光	医学部産科婦人科学教室	2,700,000	(補委)	日本学術振興会
卵巣高異型度漿液性癌に対する分子標的薬による個別化治療に向けた検討	中井 英勝	医学部産科婦人科学教室	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
遺伝性網膜・視神経ジストロフィの症例収拾および疾患別頻度の検討	國吉 一樹	医学部眼科学教室	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
非糖尿病患者の筋肉・体脂肪分布量と個人内血糖変動等の糖代謝に関する地域疫学研究	今野 弘規	医学部公衆衛生学教室	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
高血圧症における廃用性筋萎縮からの回復遅延機構の解明と早期回復へ向けた治療展望	井上 敬夫	医学部病理学教室	1,400,000	(補委)	日本学術振興会

Prospectiveな情報による把持運動制御のメカニズム	村田 哲	医学部生理学教室	1,200,000	(補委)	日本学術振興会
運動によって活性化する遅筋化促進因子を介した骨格筋特有の好氣的代謝制御機構の解明	本多 賢彦	医学部生化学教室	500,000	(補委)	日本学術振興会
心肥大関連タンパク質TWEAKRの新規相互作用に焦点を置いた心肥大機構の解明	前西 修	近畿大学病院病理診断科	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
アルツハイマー病の分子病態と概日リズム睡眠障害との関連の解明	久保 厚子	医学部解剖学教室	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
黄砂、越境大気汚染が全身性炎症と血液凝固能に与える影響についての検討	佐野 博幸	医学部内科学教室(呼吸器・アレルギー内科部門)	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
電子聴診器による聴診所見の可視化と客観的聴診情報による電子診療録のリノベーション	稲村 昇	医学部小児科学教室	800,000	(補委)	日本学術振興会
近位部3次元構造強度指標を含む骨折リスク評価による骨粗鬆症検診と診療の刷新	伊木 雅之	医学部公衆衛生学教室	2,700,000	(補委)	日本学術振興会
血管攣態の抑制を機序とする新規抗がん薬の開発に向けた基礎的検討	西中 崇	医学部薬理学教室	900,000	(補委)	日本学術振興会
deep learningを利用した新たなbolus tracking法の開発	渡邊 翔太	近畿大学病院中央放射線部	700,000	(補委)	日本学術振興会
CNNシステムによる大腸ポリープAI自動診断	米田 頼晃	医学部内科学教室(消化器内科部門)	100,000	(補委)	日本学術振興会
高血圧実験動物におけるARB投与による変形性関節症進行抑制の試み	墳本 一郎	医学部整形外科学教室	500,000	(補委)	日本学術振興会
腸内細菌を標的とした妊娠高血圧腎症の創薬開発	川崎 薫	医学部産科婦人科学教室	700,000	(補委)	日本学術振興会
アトピー性皮膚炎に対する新規治療の個別化医療のためのバイオマーカー探索	中嶋 千紗	医学部皮膚科学教室	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
1型糖尿病と2型糖尿病に共通する膵β細胞脆弱性の規定因子の解明	武友 保憲	医学部内科学教室(内分泌・代謝糖尿病内科部門)	1,800,000	(補委)	日本学術振興会
早期肺癌へのLiquid biopsyの応用	小原 秀太	医学部外科学教室(呼吸器外科部門)	1,200,000	(補委)	日本学術振興会
肺間葉系幹細胞を介した肺線維化メカニズムの解明:新たな治療アプローチの開発	辻本 宜敏	医学部麻酔科学教室	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
基質小胞を介する新しい骨代謝制御機構の解明	水上 優哉	医学部再生機能医学教室	1,800,000	(補委)	日本学術振興会
先天性心疾患における血流解析と蛋白解析による周術期管理の開発	秋山 浩一	医学部麻酔科学教室	100,000	(補委)	日本学術振興会
PTHrPの手指骨形成における役割とその分子機序の解明	下出 孟史	近畿大学病院歯科口腔外科	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
卵巣明細胞がんの腫瘍免疫機構の解明と新たな免疫療法の探索	村上 幸祐	医学部産科婦人科学教室	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
間質性肺疾患の横隔膜動態と換気応答との関連、呼吸筋トレーニングの確立	白石 匡	近畿大学病院リハビリテーション部	800,000	(補委)	日本学術振興会
新規微細血流イメージングを用いた超音波内視鏡による膵癌早期診断の試み	大本 俊介	医学部内科学教室(消化器内科部門)	600,000	(補委)	日本学術振興会
ビスフォスフォネート製剤関連顎骨壊死の病態機序の解明とPAI-1の関与についての検討	木下 優子	近畿大学病院歯科口腔外科	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
ショウジョウバエを用いた遺伝学的スクリーニングによるSCA36の病態解明	田港 朝也	医学部内科学教室(脳神経内科部門)	800,000	(補委)	日本学術振興会

計 24  
合計133

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hiroki Mizusawa, Hisako Matsumoto, Masashi Shiraishi et al.	リハビリテーション科	Evaluation of patients with chronic obstructive pulmonary disease by maximal inspiratory pressure and diaphragmatic excursion with ultrasound sonography.	Respir Investig 2024 Mar	Original Article
2	Hiroki Mizusawa, Osamu Shiraishi, Masashi Shiraishi et al.	リハビリテーション科	Quantitative emphysema on computed tomography imaging of chest is a risk factor for prognosis of esophagectomy: A retrospective cohort study.	Medicine (Baltimore) 2023 Oct	Original Article
3	Masashi Shiraishi, Yuji Higashimoto, Ryuji Sugiyama et al.	リハビリテーション科	Diaphragm dome height on chest radiography as a predictor of dynamic lung hyperinflation in COPD.	ERJ Open Res 2023 Jun	Original Article
4	Akira Hamada, Kenichi Suda, Masaya Nishino et al.	呼吸器外科	Secondary Mutations of the EGFR Gene That Confer Resistance to Mococertinib in EGFR Exon 20 Insertion	J Thorac Oncol 2024 Jan	Original Article
5	Masaoki Ito, Yoshihiro Miyata, Morihiro Okada	呼吸器外科	Current clinical trials with non-coding RNA-based therapeutics in malignant diseases: A systematic review	BMC Cancer 2023 May	Review
6	Tetsuya Mitsudomi, Hiroyuki Ito, Morihiro Okada et al.	呼吸器外科	Neoadjuvant nivolumab plus chemotherapy in resectable non-small-cell lung cancer in Japanese patients from CheckMate 817	Cancer Sci 2024 Feb	Others
7	Kenichi Suda, Kazuko Sakai, Tatsuo Ohira et al.	呼吸器外科	Performance of Ultra- Rapid Idylla™ EGFR Mutation Test in Non- Small-Cell Lung Cancer and Its Potential at Clinical Molecular Screening	Cancers 2023 May	Original Article

8	Atsushi Yasuda , Yutaka Kimura , Hiroaki Kato et al.	上部消化管外科	Surgical tips and tricks for laparoscopic intragastric surgery for submucosal tumors relative to the esophagogastric junction.	Updates Surg 2024 Aug	Original Article
9	Tomoki Kurihara, Takao Endo , Shumpei Obata et al.	眼科	Surgical treatment of traction retinal detachment associated with compound heterozygous congenital protein C deficiency.	Am J Ophthalmol Case Rep 2023 Apr	Case report
10	Fumika Hotta, Hiroshi Eguchi, Tomomi Kuwahara et al.	眼科	Disturbances in the ocular surface microbiome by perioperative antimicrobial eye drops.	Front Cell Infect Microbiol 2023 Apr	Original Article
11	Yuki Nagae, Kazuki Kuniyoshi, Marika Ishibashi et al.	眼科	Fundus autofluorescence, optical coherence tomography and electroretinography abnormalities in a patient with digoxin retinopathy that resemble those in KCNV2-associated retinopathy.	Doc Ophthalmol 2023 Oct	Case report
12	Ayaka Nakajima, Kazuki Kuniyoshi, Chiharu Iwahashi et al.	眼科	Optical coherence tomography findings of the peripheral retina in patients with congenital X-linked retinoschisis	Front Med (Lausanne) 2023 Nov	Original Article
13	Masaki Fukushima, Atsushi Hayashi, Shunji Kusaka et al.	眼科	Use of a Backflush Needle with a Silicone Tip Cannula to Embed Lamellar Hole-Associated Epiretinal Proliferation.	Retina 2023 Dec	Original Article
14	Keisuke Utamura, Akemi Wakayama, Fumiko Matsumoto et al.	眼科	Factors affecting the total occlusion time in eyes with hyperopic anisometropic amblyopia	BMC Ophthalmol 2023 Nov	Original Article
15	Hiroki Nomoto, Chota Matsumoto, Sachiko Okuyama et al.	眼科	A new static visual field test algorithm: the Ambient Interactive ZEST (AIZE).	Sci Rep 2023 Sep	Original Article

16	Chiharu Iwahashi, Masuo Sakamoto, Nobuyuki Ohguro et al.	眼科	Bruton Tyrosine Kinase Inhibitor in 2 Patients With Vitreoretinal Lymphoma	JAMA Ophthalmol 2023 Nov	Original Article
17	Tomoki Kurihara, Chiharu Iwashashi, Fukutaro Mano et al.	眼科	Sweeping technique for the removal of emulsified silicone oil droplets from the anterior surface of the iris using an ophthalmic absorption sponge	Retin Cases Brief Rep 2023 Dec	Case report
18	Koichi Tomita, Tateki Kubo	形成外科	Recent advances in surgical techniques for breast reconstruction	Int J Clin Oncol 2023 Jul	Review
19	Koichi Tomita, Minae Taminato, Tateki Kubo	形成外科	Total breast reconstruction with a fat-augmented latissimus dorsi flap: A comparative study between muscle and myocutaneous flaps	J Plast Reconstr Aesthet Surg 2023 Aug	Original Article
20	Ryo Yamazaki, Osamu Nishiyama, Kazuya Yoshikawa et al.	呼吸器・アレルギー内科	Prognostic value of the qSOFA in patients with acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis	Respir Investig 2023 May	Original Article
21	Akifumi Enomoto, Yuto Takada, Takeshi Shimoide et al	歯科口腔外科	Association between Toothbrushing and Cancer Risk	J Lifestyle Med 2024 Feb	Original Article
22	Akifumi Enomoto, Yuto Takada, Yuko Kinoshita et al	歯科口腔外科	Dental Treatment and Risk of COVID-19 in Japan	Oral Health Prev Dent 2023 Aug	Original Article
23	Akifumi Enomoto, Atsushi-Doksa Lee, Miho Sukedai et al	歯科口腔外科	Automatic identification of individuals using deep learning method on panoramic radiographs	J Dent Sci 2023 Apr	Original Article
24	Akifumi Enomoto, Atsushi-Doksa Lee, Takeshi Shimoide et al	歯科口腔外科	Is discontinuation of dental treatment related to exacerbation of systemic medical diseases in Japan?	Br Dent J 2023 Apr	Original Article

25	Mutsukazu Kitano, Satoru Koike, Hisatomo Tamaki, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	The Usefulness of Total Laryngectomy in Sarcopenic Patients With Hypopharyngeal and Laryngeal Cancer	Cancer Diagn Progn 2023 May	Original Article
26	Kimio Yonesaka, Hidetoshi Hayashi, Atsushi Nakamura et al.	腫瘍内科	Alternating therapy with osimertinib and afatinib blockades EGFR secondary mutation in EGFR-mutant lung cancer: A single-arm phase 2 trial.	Clin Lung Cancer 2023 Sep	Original Article
27	Seiichiro Mitani, Hisato Kawakami, Osamu Shiraishi et al.	腫瘍内科	Implication of changes in PD-L1 expression during neoadjuvant chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil (DCF) regimen in esophageal squamous cell carcinoma.	Esophagus 2023 Apr	Original Article
28	Seiichiro Mitani, Yosuke Kito, Kaori Hino et al.	腫瘍内科	Real-World Treatment Sequencing in Vulnerable Patients with Metastatic Colorectal Cancer: A Multicenter Retrospective Study.	Target Oncol 2023 Sep	Others
29	Hisato Kawakami, Yu Sunakawa, Eisuke Inoue et al.	腫瘍内科	Soluble programmed cell death ligand 1 predicts prognosis for gastric cancer patients treated with nivolumab: Blood-based biomarker analysis for the DELIVER trial.	Eur J Cancer 2023 May	Original Article
30	Hisato Kawakami, Yu Sunakawa, Eisuke Inoue et al.	腫瘍内科	Lack of Association of Plasma Levels of Soluble Programmed Cell Death Protein 1, Programmed Death-Ligand 1, and CTLA-4 With Survival for Stage II to IIIA NSCLC After Complete Resection and Adjuvant Chemotherapy.	Eur J Cancer 2023 May	Original Article
31	Takashi Kurosaki, Kenji Chamoto, Shinichiro Suzuki et al.	腫瘍内科	The combination of soluble forms of PD-1 and PD-L1 as a predictive marker of PD-1 blockade in patients with advanced cancers: a multicenter retrospective study.	Front Immunol 2023 Dec	Others
32	Chiaki Inagaki, Ryo Matoba, Satoshi Yuki et al.	腫瘍内科	The BEETS (JACCRO CC-18) trial: an observational and translational study of BRAF-mutated metastatic colorectal cancer	Future Oncol 2023 Jun	Original Article
33	Chiaki Inagaki, Hisato Kawakami, Daichi Maeda et al.	腫瘍内科	The potential clinical utility of cell-free DNA for gastric cancer patients treated with nivolumab monotherapy.	Sci Rep 2023 Apr	Original Article

34	Ryobun Yasuoka, Hiroyuki Sakurane, Mana Okune et al.	循環器内科	Changes in estimated glomerular filtration rate before and after the first visit for atrial fibrillation	BMC Nephrology 2024 Jan	Original Article
35	Kazuyoshi Kakehi, Masafumi Ueno, Takayuki Kawamura et al.	循環器内科	Prognostic impact of early aortic volume changes at hospital discharge in patients with acute type B aortic dissection	Journal of Cardiology 2024 Jan	Original Article
36	Kazuki Mizutani, Masafumi Ueno, Genichi Sakaguchi et al.	循環器内科	Transcatheter aortic valve implantation for structural valve deterioration of homograft surgical aortic valve using SAPIEN3 Ultra RESILIA: a case report	Eur Heart J Case Rep 2024 Mar	Case report
37	Naoshi Nishida, Tomoko Aoki, Masahiro Morita et al.	消化器内科	Non-inflamed tumor microenvironment and methylation/downregulation of antigen-presenting machineries in cholangiocarcinoma.	Cancers (Basel) 2023 Apr	Original Article
38	Masahiro Morita, Naoshi Nishida, Tomoko Aoki et al.	消化器内科	Role of $\beta$ -catenin activation in the tumor immune microenvironment and immunotherapy of hepatocellular carcinoma	Cancers (Basel) 2023 Apr	Review
39	Masatoshi Kudo	消化器内科	The Society for Immunotherapy of Cancer clinical practice guideline on immunotherapy for hepatocellular carcinoma.	Hepatobiliary Surg Nutr 2023 Apr	Others
40	Hajime Honjo, Yasuhiro Masuta, Yasuo Otsuka et al.	消化器内科	Analyses of cytokine gene expression and fecal microbiota in a patient with Cronkhite-Canada syndrome successfully treated with prednisolone	DEN Open 2023 May	Case report
41	Ken Kamata, Akane Hara, Kosuke Minaga et al.	消化器内科	Activation of the aryl hydrocarbon receptor inhibits the development of experimental autoimmune pancreatitis through IL-22-mediated signaling pathways	Clin Exp Immunol 2023 May	Original Article

42	Masatoshi Kudo , Kazuomi Ueshima , Issei Saeki et al.	消化器内科	A Phase 2, prospective, multicenter, single-arm trial of transarterial chemoembolization therapy in combination strategy with lenvatinib in patients with unresectable Intermediate-stage hepatocellular carcinoma: TACTICS-L trial.	Liver Cancer 2023 Jun	Others
43	Masatoshi Kudo	消化器内科	Adjuvant atezolizumab- bevacizumab after curative therapy for hepatocellular carcinoma.	Hepatobiliary Surg Nutr 2023 Jun	Others
44	Hiroki Kato, Satoru Hagiwara, Naoshi Nishida et al.	消化器内科	A case of transcatheter arterial embolization for intraoperative hemorrhage due to giant hepatic segmental arterial mediolysis	Clin J Gastroenterol 2023 Jun	Case report
45	Watanabe T, Minaga K, Honjo H et al.	消化器内科	Oral administration of ovalbumin protects mice from concanavalin A- induced hepatitis through suppression of interferon- gamma responses.	Biochem Bioph Res Commun 2023 Sep	Original Article
46	Tomohiro Watanabe, Kosuke Minaga, Hajime Honjo et al.	消化器内科	he "echo-free space" technique: a safe and reliable method for endoscopic ultrasound scope insertion.	Endoscopy 55:E698-E699, 2023. Dec.	Original Article
47	Yasuhiro Masuta, Kosuke Minaga, Yasuo Otsuka et al.	消化器内科	Usefulness of detective flow imaging endoscopic ultrasound for the diagnosis of rectal wall thickening.	Endosc Int Open 2023 Jul	Case report
48	Masashi Kono, Yoriaki Komeda, George Tribonias et al.	消化器内科	Serum leucine-rich alpha- 2 glycoprotein in monitoring disease activity and intestinal mucosal healing for biotherapy-naï ve cases with ulcerative colitis	JGH Open 2023 Aug	Original Article
49	Yasuhiro Masuta, Yasuo Otsuka, Kosuke Minaga et al.	消化器内科	Regulation of type I IFN responses by deubiquitinating enzyme A in inflammatory bowel diseases	J Clin Biochem Nutr 2023 Sep	Original Article

50	Yasuo Otsuka, Kosuke Minaga, Akane Hara et al.	消化器内科	Piercing technique for mucosal hyperplasia at an uncovered part of a partially covered stent after endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy	Endosc Int Open 2023 Sep	Original Article
51	Shunsuke Omoto, Mamoru Takenaka, Tomohiro Fukunaga et al.	消化器内科	Diagnosis of an intraductal papillary neoplasm of the bile duct with fibrovascular stalks using detective flow imaging	Endoscopy 2023 Dec	Original Article
52	Ken Kamata, Hajime Imai, Hisakazu Matsumoto et al.	消化器内科	Low-dose gemcitabine plus nab-paclitaxel versus standard-dose gemcitabine plus nab-paclitaxel in elderly patients with metastatic pancreatic cancer: A randomized Phase II trial	JGH Open 2023 Sep	Original Article
53	Yasunori Minami, Tomoko Aoki, Satoru Hagiwara et al.	消化器内科	Tips for preparing and practicing thermal ablation therapy of hepatocellular carcinoma.	Cancers (Basel) 2023 Sep	Review
54	Masatoshi Kudo	消化器内科	All Stages of Hepatocellular Carcinoma Patients Benefit from Systemic Therapy Combined with Locoregional Therapy	Liver Cancer 2023 Aug	Others
55	Masatoshi Kudo	消化器内科	Drug-Off Criteria in Patients with Hepatocellular Carcinoma Who Achieved Clinical Complete Response after Combination Immunotherapy Combined with Locoregional Therapy	Liver Cancer . 2023 Jul	Others
56	Ken Kamata, Mamoru Takenaka, Naoshi Nishida et al.	消化器内科	Impact of Smad4 and p53 mutations on the prognosis of patients with pancreatic ductal adenocarcinoma undergoing chemotherapy.	Int J Clin Oncol .2023 Nov	Original Article
57	Shunsuke Fujita , Hajime Honjo , Ryutaro Takada et al.	消化器内科	Ulcerative colitis-associated spondyloarthritis successfully treated with infliximab in the absence of enhanced TNF- $\alpha$ responses.	Intern Med 2023 Sep	Case report
58	Mamoru Takenaka , Tae Hoon Lee , Masatoshi Kudo	消化器内科	Glove box method: Simple and effective right-hand free method for interventional endoscopy.	Dig Endosc 2023 Nov	Original Article

59	Shukui Qin , Minshan Chen , Ann-Lii Cheng et al.	消化器内科	Atezolizumab plus bevacizumab versus active surveillance in patients with resected or ablated high-risk hepatocellular carcinoma (IMbrave050): a randomised, open-label, multicentre, phase 3 trial.	Lancet 2023 Nov	Others
60	Masatoshi Kudo	消化器内科	Current therapeutic strategies for hepatocellular carcinoma in Japan.	Liver Cancer 2023 Oct	Others
61	Yasuo Otsuka , Akane Hara , Kosuke Minaga et al.	消化器内科	Leucine-rich repeat kinase 2 promotes the development of experimental severe acute pancreatitis.	Clin Exp Immunol 2023 Dec	Original Article
62	Ghassan K Abou-Alfa , George Lau , Masatoshi Kudo et al.	消化器内科	Plain language summary of results from the HIMALAYA study: tremelimumab and durvalumab for the treatment of participants with unresectable hepatocellular carcinoma (liver cancer).	Future Oncol 2023 Dec	Review
63	Hironobu Sugimori , Sho Masaki , Hajime Honjo et al.	消化器内科	Visualization of gastrointestinal bezoar movement causing and releasing small bowel obstruction on computed tomography in a patient with diabetes mellitus.	Cureus 2023 Nov	Case report
64	Yoriaki Komeda , George Tribonias , Masashi Kono et al.	消化器内科	Real-world data on short-term and long-term treatment results of ustekinumab in patients with steroid-resistant/dependent ulcerative colitis.	Inflamm Intest Dis 2023 Oct	Original Article
65	Naoshi Nishida , Masatoshi Kudo	消化器内科	Genetic/Epigenetic alteration and tumor immune microenvironment in intrahepatic cholangiocarcinoma: Transforming the immune microenvironment with molecular-targeted agents	Liver Cancer 2023 Oct	Review

66	Masatoshi Kudo , Kaoru Tsuchiya , Yu-Yun Shao et al.	消化器内科	Impact of bevacizumab being skipped due to adverse events of special interest for bevacizumab in patients with unresectable hepatocellular carcinoma treated with atezolizumab plus bevacizumab: An exploratory analysis of the Phase III IMbrave150 study.	Liver Cancer 2023 Nov	Others
67	Masatoshi Kudo	消化器内科	Objective response to systemic therapy is a strong predictor of overall survival in patients with unresectable hepatocellular carcinoma	Liver Cancer 2023 Nov	Others
68	Okushin K, Tateishi R, Hirakawa S et al.	消化器内科	The Impact of COVID-19 on the Diagnosis and Treatment of HCC: Analysis of a Nationwide Registry for Advanced Liver Diseases (REAL).	Sci Rep 2024 Feb	Original Article
69	Kazuya Okushin, Ryosuke Tateishi, Shinya Hirakawa et al.	消化器内科	Role of leucine-rich repeat kinase 2 in severe acute pancreatitis.	Front Immunol 2024 Feb	Review
70	Akane Hara , Kosuke Minaga , Yasuo Otsuka et al.	消化器内科	Emergency digital cholangioscopy-assisted electrohydraulic lithotripsy for basket impaction with an entrapped bile duct stone.	Endosc Int Open 2024 Feb	Original Article
71	Satoru Hagiwara, Junko Tanizaki, Hidetoshi Hayashi et al.	消化器内科	Hemophagocytic lymphohistiocytosis induced by nivolumab/ipilimumab combination therapy: A case of lung adenocarcinoma that responded to early steroid pulse therapy.	Cancer Rep (Hoboken) 2024 Feb	Case report
72	Mamoru Takenaka, Tae Hoon Lee, Masatoshi Kudo	消化器内科	Recent advances in metallic stents used in the stent-in-stent method for hilar malignant biliary obstruction.	Dig Endosc 2024 Mar	Others
73	Yasuhiro Masuta, Kosuke Minaga, Yasuo Otsuka et al.	消化器内科	Cytokine and chemokine profiles in ulcerative colitis relapse after coronavirus disease 2019 vaccination	J Clin Biochem Nutr 2024 Mar	Original Article

74	Natsuki Okai, Yasuhiro Masuta, Yasuo Otsuka et al.	消化器内科	Crosstalk between NOD2 and TLR2 suppresses the development of TLR2-mediated experimental colitis.	J Clin Biochem Nutr 2024 Mar	Original Article
75	Hiroshi Miyamoto, Terumasa Ikeda, Shingo Aoyama et al.	整形外科	Dropped head syndrome: a treatment strategy and surgical intervention.	Eur Spine J 2023 Apr	Original Article
76	Kazuhiko Hashimoto, Shunji Nishimura, Yu Shinyashiki, et al.	整形外科	Clinicopathological assessment of PD-1/PD-L1 immune checkpoint expression in desmoid tumors	Eur J Histochem 2023 Apr	Original Article
77	Kensuke Toriumi, Yuta Onodera, Toshiyuki Takehara, et al.	整形外科	LRRC15 expression indicates high level of stemness regulated by TWIST1 in mesenchymal stem cells	iScience 2023 May	Original Article
78	Kazuhiko Hashimoto, Yu Shinyashiki, Kazuhiro Ohtani, et al.	整形外科	How proximal femur fracture patients aged 65 and older fare in survival and cause of death 5+ years after surgery: A long-term follow-up	Medicine (Baltimore) 2023 May	Original Article
79	Daichi Matsumura, Naoyuki Kawao, Katsumi Okumoto et al.	整形外科	Effects of elastase-induced emphysema on muscle and bone in mice.	PLoS One 2023 Jun	Original Article
80	Kazuhiko Hashimoto, Shunji Nishimura, Yu Shinyashiki, et al.	整形外科	Involvement of NY-ESO-1 and MAGE-A4 in the pathogenesis of desmoid tumors	Medicine (Baltimore) 2023 Jun	Original Article
81	Naohiro Oka, Kazuhiko Hashimoto, Yu Shinyashiki, et al.	整形外科	Aggressive intraosseous lipoma of the scapula: A case report	Exp Ther Med 2023 Jul	Case report
82	Hiroshi Miyamoto, Terumasa Ikeda, Masao Akagi	整形外科	Conservative treatment for dropped head syndrome.	Eur Spine J 2023 Oct	Original Article

83	Ryosuke Kakinoki, Kazuhiro Ohtani, Souichi Ohta, et al.	整形外科	Treatment of Complete Brachial Plexus Injuries Using Double Free Muscle Transfer	J Hand Surg Am 2023 Nov	Original Article
84	Yasuhiro Sanada, Kiyoshi Tsuji, Yuumi Hamada et al.	脳神経外科	Rigid but nonmetallic cranioplasty after pterional craniotomy: Technical note.	Surg Neurol Int 2023 Sep	Original Article
85	Tomoya Taminato, Toshihide Takeuchi, Morio Ueyama et al.	脳神経内科	Therapeutic reduction of GGGGCC repeat RNA levels by hnRNP A3 suppresses neurodegeneration in Drosophila models of C9orf72-linked ALS/FTD.	Hum Mol Genet 2023 May	Original Article
86	Yuzo Fujino, Morio Ueyama, Taro Ishiguro et al.	脳神経内科	FUS regulates RAN translation through modulating the G-quadruplex structure of GGGGCC repeat RNA in C9orf72-linked ALS/FTD.	eLife. 2023 Jul 18: 12: RP84338 SaveEmailSend to Display options Full text links full text provider logo Actions	Original Article
87	Kazumasa Saigoh, Takao Takeshima, Masami Nakai et al.	脳神経内科	Fremanezumab for Chronic Migraine Prevention in Japanese Patients: Subgroup Analysis from Two International Trials.	J Pain Res 2023 Apr	Original Article
88	Tetsuhiro Ueda, Toshihide Takeuchi, Nobuhiro Fujikake et al.	脳神経内科	Dysregulation of stress granule dynamics by DCTN1 deficiency exacerbates TDP-43 pathology in Drosophila models of ALS/FTD.	Acta Neuropathol Commun 2024 Feb	Original Article
89	Takaya Inagaki, Hiroshi Doi, Masahiro Inada et al.	放射線腫瘍学	Difference in failure patterns after stereotactic body radiotherapy for lung cancer according to clinical T stage based on 4D computed tomography.	Strahlenther Onkol 2023 May	Original Article
90	Kenji Nakamura, Hajime Monzen, Kazuki Kubo et al.	放射線腫瘍学	The development and characterization of an all-purpose bolus for radiotherapy.	Phys Med Biol 2023 May	Original Article
91	Yuya Yanagi, Hajime Monzen, Kazuki Kubo et al.	放射線腫瘍学	Comparison of the Characteristics of Two Types of Parallel-plate Ionization Chamber Under Small-field Electron Irradiation.	Anticancer Res 2023 May	Original Article

92	Yusuke Sakai Hajime Monzen , Yoshiki Takei et al.	放射線腫瘍学	Evaluation of In-room Volumetric Imaging Doses for Image-guided Radiotherapy: A Multi-institutional Study.	J Med Phys 2023 Apr-Jun	Original Article
93	Yutaro Wada, Hajime Monzen, Naoko Ishida et al.	放射線腫瘍学	Impact of rectal gas on the planning target volume margin for pelvic bone and prostate matching in prostate cancer patients receiving volumetric-modulated arc therapy.	Med Dosim 2023 Apr	Original Article
94	Katsuya Okuhata, Hajime Monzen, Yasunori Nakamura et al.	放射線腫瘍学	Effectiveness of shielding materials against <sup>177</sup> Lu gamma rays and the corresponding distance relationship.	Ann Nucl Med 2023 Nov	Original Article
95	Takaaki Ito , Kazuki Kubo , Hajime Monzen et al.	放射線腫瘍学	Overcoming Problems Caused by Offset Distance of Multiple Targets in Single-isocenter Volumetric Modulated Arc Therapy Planning for Stereotactic Radiosurgery.	J Med Phys 2023 Oct-Dec	Original Article
96	Takuya Uehara , Yasumasa Nishimura , Kazuki Ishikawa et al.	放射線腫瘍学	Cone-beam computed tomography-guided online adaptive radiotherapy for pharyngeal cancer with whole neck irradiation: dose-volume histogram analysis between adapted and scheduled plans.	J Radiat Res 2024 Mar	Original Article
97	Kohei Hanaoka, Shota Watanabe, Daisuke Morimoto- Ishikawa et al.	PET分子イメージング部	Impact of respiratory gating and ECG gating on <sup>18</sup> F-FDG PET/CT for cardiac sarcoidosis	J Nucl Cardiol 2023 Oct	Original Article
98	Shota Watanabe, Yuki Kono, Shigetoshi Kitaguchi et al.	中央放射線部	Noise reduction performance of a deep learning-based reconstruction in brain computed tomography images acquired with organ-based tube current modulation	Phys Eng Sci Med 2023 Sep	Original Article
99	Hayato Kaida, Kazuhiro Kitajima, Tetsuro Sekine et al.	放射線診断学	Prognostic significance of the harmonized maximum standardized uptake value of <sup>18</sup> F-FDG-PET/CT in patients with resectable oral tongue squamous cell carcinoma: a multicenter study	Dentomaxillofac Radiol 2023 Oct	Others
100	Hayato Kaida , Miyuki Wakana, Sawa Yoshida et al.	放射線診断学	Asymmetric diffuse thyroid uptake on <sup>18</sup> F-FDG PET/CT in patient with subacute thyroiditis: Case report and literature review	Hell J Nucl Med 2023 May-Aug	Review

101	Taku Kotera, Masakatsu Tsurusaki, Ryohei Kozuki et al.	放射線診断学	Endovascular Treatment of Postpancreatectomy Hemorrhage from the Retroportal Artery with Compression of the Celiac Trunk by the Median Arcuate Ligament: A Case Report	Interv Radiol (Higashimatsuyama) 2024 Mar	Case report
102	Koichi Akiyama, Isaac Y Wu, Kei Hori et al.	麻酔科	ST segment elevation immediately after cardiopulmonary bypass during modified Blalock-Taussig shunt and pulmonary artery banding.	J Cardiothorac Vasc Anesth 2023 Sep	Original Article
103	Koichi Akiyama, Paolo C Colombo, Eric J Stöhr et al.	麻酔科	Blood flow kinetic energy is a novel marker for right ventricular global systolic function in patients with left ventricular assist device therapy.	Front Cardiovasc Med 2023 May	Original Article
104	Atsuhiko Kitaura, Shota Tsukimoto, Hiroatsu Sakamoto et al.	麻酔科	A retrospective comparative study of anesthesia with remimazolam and remifentanyl versus dexmedetomidine and remifentanyl for transcatheter aortic valve replacement.	Sci Rep 2023 Oct	Others
105	Atsuhiko Kitaura, Issei Fukuda, Haruyuki Yuasa et al.	麻酔科	Difficult ventilation due to an undetected mask crack.	JA Clin Rep 2023 Nov	Original Article
106	Atsuhiko Kitaura, Hiroatsu Sakamoto, Kensuke Toho et al.	麻酔科	Unexpected abnormal positive pressure due to misconnection of excess gas tube.	JA Clin Rep 2023 Dec	Original Article
107	Atsuhiko Kitaura, Hiroatsu Sakamoto, Shinichi Hamasaki et al.	麻酔科	Remimazolam-Based Anesthesia in Patients with Heart Failure Due to Mitral Regurgitation and Low Left Ventricular Function: A Case Series.	Medicina (Kaunas) 2023 Dec	Case report

計107件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象となるのは、筆頭者及び所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のめり子例雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。  
 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
 5 (出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Shiraishi M, Higashimoto Y, Sugiya R et al.	リハビリテーション部	Diaphragm dome height on chest radiography as a predictor of dynamic lung hyperinflation in COPD	ERS Open Research 2023 Jun	Original Article
2	Satoshi Marutani, Takako Nishino, Kosuke Nishi et al.	小児科	A young patient with aortic dissection and a previously unreported missense variant ACTA2 mutation: a rare case	Pediatric and developmental pathology 2023 Jun	Case report
3	Kana Maeda, Satoshi Marutani, Nori Takada et al.	小児科	Two cases of adult-onset Kawasaki disease with difficult diagnosis: A Case Report	Internal Medicine 2023 Nov	Case report
4	Takashi Takeda, Kana Yoshimi, Sayaka Ka et al.	東洋医学研究所	The Japanese Version of the Daily Record of Severity of Problems for Premenstrual Symptoms: Reliability and Validity Among the General Japanese Population.	International journal of women's health 2024 Feb	Original Article
5	Takashi Takeda, Kana Yoshimi, Fumi Inou et al.	東洋医学研究所	Gender Differences in Premenstrual Syndrome and Premenstrual Dysphoric Disorder Diagnosis and Treatment among	The Tohoku journal of experimental medicine 2023 Oct	Original Article
6	Toshikazu Ito, Yoshifumi Komoike	乳腺内分泌外科	A feature to promote better understanding of breast non-mass abnormalities.	J Med Ultrason (2001) 2023 Jul	Others

7	Toshikazu Ito, Ei Ueno, Tokiko Endo et al	乳腺内分泌外科	The Japan Society of Ultrasonics in Medicine guidelines on non-mass abnormalities of the breast	J Med Ultrason (2001) 2023 Jul	Review
---	---	---------	--	-----------------------------------	--------

計7件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ヘルシンキ宣言の倫理的原則に則り、定める指針に基づき、医学部等で行われる人を対象とした生命科学・医学系研究及び医療行為が科学的合理性及び倫理的配慮のもとに行われることを目的として、医学部倫理委員会審査における運営に関する手順を定めるものである。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年10回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 新規に申請された臨床研究における利益相反の審査、利益相反の年次審査	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年7回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容 「大学等における安全保障輸出管理」(eラーニング) 「中央一括審査に関する手続き、共同研究機関として参加する場合」「データマネージメントとは」2024年2月6日 「P値ってなんだ」2024年3月5日	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

近畿大学病院における専門研修プログラムは、内科専門研修プログラムをはじめ、各18診療科（領域）の専門研修及び歯科暫定プログラムを行う体制を構築している。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	123 人
-------------	-------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
岩永 賢司	内科	教授	34 年	
中澤 学	循環器内科	教授	24 年	
前田 法一	内分泌・代謝・糖尿病内科	教授	29 年	
工藤 正俊	消化器内科	教授	46 年	
松村 到	血液・膠原病内科(血)	教授	41 年	
木下 浩二	血液・膠原病内科(膠)	教授	38 年	
有馬 秀二	腎臓内科	教授	34 年	
永井 義隆	脳神経内科	教授	34 年	
林 秀敏	腫瘍内科	教授	21 年	
松本 久子	呼吸器・アレルギー内科	教授	34 年	
橋本 衛	精神神経科	教授	33 年	
杉本 圭相	小児科	教授	22 年	
安田 卓司	外科	教授	38 年	
安田 卓司	上部消化管外科	教授	38 年	
川村 純一郎	下部消化管外科	教授	29 年	
上田 和毅	内視鏡外科	教授	30 年	
松本 逸平	肝胆膵外科	教授	31 年	
津谷 康大	呼吸器外科	教授	24 年	
菰池 佳史	乳腺・内分泌外科	教授	34 年	
安田 卓司	小児外科	教授	38 年	
坂口 元一	心臓血管外科	教授	32 年	
高橋 淳	脳神経外科	教授	33 年	
後藤 公志	整形外科	教授	29 年	
東本 有司	リハビリテーション科	教授	38 年	
富田 興一	形成外科	教授	21 年	
大塚 篤司	皮膚科	教授	21 年	
藤田 和利	泌尿器科	教授	24 年	
日下 俊次	眼科	教授	38 年	
安松 隆治	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	29 年	
松村 謙臣	産婦人科	教授	28 年	
石井 一成	放射線科	教授	38 年	
石井 一成	放射線科(診断学部門)	教授	38 年	
松尾 幸憲	放射線科(腫瘍学部門)	教授	25 年	

中嶋 康文	麻酔科	教授	32 年
篠崎 広一郎	救命救急センター	教授	22 年
上畚 俊法	臨床検査医学	教授	39 年
佐藤 隆夫	病理診断科	教授	43 年
榎本 明史	歯科口腔外科	教授	25 年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

1. 医療機器の安全使用のための研修（外部照射装置）
2. 医療機器の安全使用のための研修（密封小線源）
3. 多職種合同部会（薬剤部・中央放射線部・中央臨床検査部・臨床工学部・リハビリテーション部・栄養部・看護部）において、院内に勤務する多職種の方々に向けて「災害時における各部署の初動対応」をテーマとして研修会を計画し、開催した。各部署より講演をしていただき、最後にアンケート調査を実施した。  
※中央臨床検査部「災害時における各部署の初動対応～中央臨床検査部編～」を講演（動画）した。
4. 糖尿病セミナー2023、若手看護師に向けての糖尿病等に関する多職種研修会（代謝内科主催）※中央臨床検査部：糖尿病検査に関する内容を講演した。
5. TeamSTEPPS（米国 AHRQ と国防総省との合同研究企画の結果生まれたチームの新しい活動の考え方・あり方の概要で、特にストレスの高い状況下で治療や看護を行う医療提供者によるチーム活動の進め方とトレーニング方法）研修を医師・歯科医師以外の医療者を含む全職員対象で実施
6. 新規採用者（4月入職以降）・中途採用者・復職者を対象にした医療安全研修を実施
7. 看護師研修（別紙①参照）

・研修の期間・実施回数

1. 2回/年
2. 2回/年
3. 2023年10月2日～2023年10月31日
4. 2023年10月25日
5. 定期的開催。2020年2月8日までに計64回実施（コロナの影響により延期）2022年5月よりWeb研修と対面で再開し2024年9月までに第84回実施（'06/10/12も予定）
6. 定期的に開催していたが、コロナ禍になり2021年度からは対象者にUSB録画データを貸し出しておきの自習とし、視聴後は知識の習得確認アンケートを提出することで完了とした。今後もe-learning研修と併用していく。
7. 看護師研修（別紙①参照）

・研修の参加人数

1. 8名
2. 8名

3. 279名
4. 約40名
5. 5,105名（2024年9月5日現在）
6. 新規採用者：205名、中途採用者・復職者：38名（2023年度）
7. 看護師研修（別紙①参照）

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

1. 放射線科医師、医学物理士、診療放射線技師、看護師による合同の放射線治療症例検討会の実施
2. 医学物理士、診療放射線技師、看護師による始業前ミーティングの実施
3. 医学物理士、診療放射線技師による高精度放射線治療機器のQA, QCの実施結果の報告、研修の実施
4. 放射線科医師、医学物理士、診療放射線技師、看護師による放射線治療における連絡会議の実施
5. 化学物質取扱研修
6. 接遇研修
7. ISO災害訓練
8. ISO倫理研修
9. BLS（一次救命処置）研修
10. 医療安全対策チーム会（各部門から代表で選出された医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・臨床工学技士・栄養士・放射線技師・事務職員）を通して、TeamSTEPPS や事例分析の講義及び演習を実施。「チーム会の目的 ” 医療安全とは”」「TeamSTEPPS の基礎編」「TeamSTEPPS の実際」「患者・家族も含めた医療チームを考える」「安全パトロール」「病院機能評価受審にあたっての医療安全の取り組み」「事例を基に患者・家族、職員間の良い対応を考える(GW)」「11月事例発表」「RCA(根本分析法)講義」「RCA 実習(GW)」「TeamSTEPPS 活動報告」を実施。他に、RRS（院内急変対応システム）の考え方や取り組み方法、心理的安全性のある組織の醸成等について研修している。
11. 看護師研修（別紙①参照）

・研修の期間・実施回数

1. 1回/週
2. 1回/日
3. 1回/週
4. 1回/2か月
5. 2023年4月6日～
6. 2023年7月18日～
7. 2023年12月10日～
8. 2024年2月5日～
9. 2023年4月18日
10. 11回
11. 看護師研修（別紙①参照）

・研修の参加人数

1. 18名
2. 10名
3. 3～5名
4. 8名
5. 112名
6. 112名
7. 112名
8. 112名
9. 10名
10. 57名
11. 看護師研修(別紙①参照)

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

1. 認定輸血検査技師試験 施設研修
2. 学会認定・臨床輸血看護師 施設研修
3. 南大阪医療安全ネットワーク研修会・・・南大阪地域内での医療安全情報共有を目的とし、2013年に南大阪医療安全ネットワークを設立。会員・非会員を対象に定期的に研修会を開催。当院を含む幹事病院で演者を担当し、2023年度は「医療安全対策：コツの共有」「その確認要りますか？－確認と照合の表裏－」「倫理案件と安全案件の狭間といった内容で研修会を実施。

・研修の期間・実施回数

1. 2日間・1回（2023年6月6日～7日）
2. 1日間・1回（2024年2月6日）
3. Webで3回開催。

・研修の参加人数

1. 3名
2. 3名
3. 設立より約11年経った現在では、コロナ禍でWebでの開催が主になった為か、北は北海道から南は福岡・熊本といった九州地方からも毎回約100人前後が参加。

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 東田 有智
管理担当者氏名	医学部・病院運営本部 藤原 昭彦

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務広報課	
		各科診療日誌	電子カルテ端末	
		処方せん	電子カルテ端末	
		手術記録	電子カルテ端末	
		看護記録	電子カルテ端末	
		検査所見記録	電子カルテ端末	
		エックス線写真	電子カルテ端末	
		紹介状	電子カルテ端末	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項	従業者数を明らかにする帳簿	総務広報課	
		高度の医療の提供の実績	医療安全対策部	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	学術支援課 医療安全対策部	電子媒体、紙媒体
		高度の医療の研修の実績	医療安全対策部	
	規則第一條の十一第	閲覧実績	安全対策課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域連携課	電子カルテ端末 (Human Bridge) で管理
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	調剤数は薬剤部門システム内。入院患者数・外来患者数は医事課。	薬剤部門システム内でデータ管理
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策部	書類・データで管理
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策部			
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策部			
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策部
	第二項	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策部
	第一号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策部
	第三号	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第三号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第三号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第三号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第三号	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器HP(医療機器関連運用規定 医療機器安全管理規定)
	第三号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医師、技術職員：Sayama-Net KindaiMed-Learning(GLEXA) 看護師：ナーシングスキル
第三号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器データベース内でデータ管理	
第三号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全HP(医療安全ニュース・安全情報) コミュニケーションツールSLACKでの通知(狭山_医療機器関連情報チャンネル内への配信)	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全対策部	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策部	ファイルにて管理
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	データ、メール、書類にて管理
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全対策部	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	Sayama-net医療支援課内	カルテの質向上委員会委員長を医療安全対策室長が担当している。
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全対策部	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全対策部	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全対策部	
		監査委員会の設置状況	総務広報課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全対策部	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全対策部	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	安全対策課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全対策部	
		職員研修の実施状況	医療安全対策部	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務広報課	
		管理者が有する権限に関する状況	総務広報課	
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務広報課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務広報課 企画室			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	東田 有智	
閲覧担当者氏名	藤原 昭彦	
閲覧の求めに応じる場所	病院棟2階 患者様相談窓口	
閲覧の手続の概要 患者支援センターもしくは安全対策課にて関係部署と調整し対応している。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総則</li> <li>2. 安全管理委員会</li> <li>3. 安全管理センター</li> <li>4. リスクマネジャー</li> <li>5. 報告等にもとづく医療に係る安全確保を目的とした改善方策</li> <li>6. 安全管理のためのマニュアル整備</li> <li>7. 医療安全管理のための研修</li> <li>8. 事故発生時の対応</li> <li>9. 高難度新規医療技術等</li> <li>10. 患者相談窓口</li> <li>11. その他</li> </ol> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（有・無）</li> <li>・ 開催状況：年41回</li> <li>・ 活動の主な内容：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全管理センターの報告を受け、医療安全管理の検討及び研究に関すること</li> <li>2. 医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに委員会によって立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び見直しに関すること</li> <li>3. 医療安全管理のために行う職員に対する指示に関すること</li> <li>4. 医療安全管理のために行う病院長等に対する提言に関すること</li> <li>5. 医療安全管理のための啓発、教育、広報及び出版に関すること</li> <li>6. 医療訴訟に関すること</li> <li>7. その他医療安全に関すること</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. - ビンラディン と 9・11から学ぶ - Kindai University Hospital での医療安全における多様性を科学する / WEB研修</li> <li>2. 医療の質の経済を考える - 医療の質への投資は無駄なのか？ - / WEB研修</li> <li>3. いま話題の「かかりつけ医機能」の議論 / WEB研修</li> <li>4. 医療安全と臨床倫理を考える！ / WEB研修</li> <li>5. 虐待への気づきとその後の対応 / もう一度確認しよう！医療現場で行うべき個人情報保護</li> <li>6. 医療ガス研修～医療ガス・吸引（吸引ポット）・低圧持続吸引の取扱いについて WEB研修</li> <li>7. 医療従事者が知っておくべきスキンケア / 造影剤・体内金属の注意点について</li> <li>8. 2023年度の医薬品関連インシデントを振り返って / せん妄から抑制まで…医師にも知ってほしい、転倒・転落は医療事故原因の主人公</li> <li>9. CV講習会（5・6月に実施）</li> </ol> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：             <p>リスクマネジャー会議・安全管理研修・医療安全ニュース等を通じて全職員へ周知するとともに、院内LAN、医療安全対策室のホームページに会議議事録を掲載し周知を図り、改善策の徹底を図っている。また、安全管理研修参加</p> </li> </ul>	

状況の個人識別化を実施している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近畿大学病院の院内感染防止対策に関する基本的考え方</li> <li>2. 院内感染防止対策の組織の概要</li> <li>3. 感染防止対策に関する職員研修</li> <li>4. 院内感染症アウトブレイク時の対応</li> <li>5. 感染症情報の院内への提供と広報</li> <li>6. 患者等への情報提供と説明</li> <li>7. 地域連携</li> <li>8. 院外への情報公開</li> <li>9. その他の院内感染防止対策</li> </ol> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染防止対策に関する重要事項の決定を行う</li> <li>2. 院内感染防止対策指針およびマニュアルを検討し承認・周知する</li> <li>3. 院内感染防止対策に関する情報を共有し職員へ周知する</li> <li>4. 院内感染防止に関する職員研修計画を検討し周知する</li> <li>5. 院内感染事例等の原因究明結果を報告し、対策を職員に周知する。</li> </ol> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：               <p>新規採用時、感染対策の基礎、感染症診療の基本について、WEB研修で開催した。                  定期研修は、WEB研修またはUSBの貸し出しを行った。耐性菌と抗菌薬適正使用、血液培養検査や感染対策の基礎知識についてなど全職員が興味を持てる内容とした。研修会講師はICTチームの医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師が担当した。                  研修会後に○×テストを入力して頂き、受講者の理解度を確認した。                  手洗い研修は、各部署で演習を取り入れ実施した。</p> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無)</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <p>定期、および臨時のICTラウンド、ICTニュース、院内感染防止対策委員会、各ICTメンバーの参加している委員会、研修などを通じ、院内感染発症防止、院内感染対策の情報を発信して、啓発を繰り返し行っている。</p> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年9回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>R5. 04月06日 研修医オリエンテーション（医師対象）  R5. 04月～06月 特別な管理を要する薬品の取扱いについて（新人看護職員研修）  R5. 09月27日 経口血糖降下薬とGLP-1/GIP受容体拮抗について（看護師対象）  R5. 09月27日 インスリン注射とシックデイについて（看護師対象）  R5. 10月27日 抗がん剤オーダ後の流れ・病棟でよくオーダされる抗がん剤（看護師対象）  R5. 11月22日, 11月27日 病棟でよく使用される産婦人科領域の薬剤について（看護師対象）  R5. 12月01日, 12月19日 吸入薬の分類、使い方（看護師対象）  R6. 03月22日 抗血小板薬、抗凝固薬（看護師対象）  R6. 03月25日～ 安全管理研修（全職員対象）</p>	
<p>③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p> <p>・ 手順書の作成 (☑・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品の採用・購入、医薬品の管理方法、投薬指示・調剤、患者への与薬や服薬指導、医薬品の安全に係る情報の取り扱い（収集、提供）、各部門における薬剤の取り扱い（手術・麻酔、救急・集中治療室、血液透析関連、画像診断、内視鏡、臨床検査、歯科領域、輸血）、外来化学療法部門、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修未承認等医薬品への対応、医薬品関連の情報システムの利用</p>	
<p>④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>院内で使用される未承認薬については臨床倫理委員会を通した場合のみ、許可されるようにしている。院内で適応外使用する薬剤については、医師から臨床倫理委員会あるいは薬剤情報室へ連絡があり、基本的に臨床倫理委員会で承認を受けることとしている。薬剤部では、臨床倫理委員会で審議される医薬品に関しては、認定・専門薬剤師を中心に案件担当者を設定し、情報収集や審査承認後の運用について関わる体制を取っている。それ以外の薬剤の適応外使用に関しては、調剤時等に薬剤師が可能な範囲で把握を行い、薬学的知見に基づき、必要に応じて、処方医に対して処方の必要性やリスク検討の有無、処方の妥当性等を確認し、必要に応じて、医薬品管理責任者または医療安全対策部薬剤師と情報共有している。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トリアムシノロンアセトニド（ケナコルト）を用いた糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症、非感染性ぶどう膜炎の治療、硝子体手術</li> <li>・ 蛋白漏出胃腸症（腸管リンパ管拡張症に伴う）にオクトレオチドの適応外使用について</li> <li>・ 気管支断端瘻に対する硝酸銀の使用 など</li> </ul> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>高濃度カリウム、プロポフォール処方実績を毎月集計し、使用状況を確認している。処方内容に問題がある場合はカルテにて実施状況を確認する。処方内容に問題がある場合、電子カルテのメール機能を使い、処方医に対し注意喚起を行っている。このメール機能は、メールを開封しない限り画面上にメール通知が表示され続ける。臨床倫理委員会で承認された疾患に対する適応外使用医薬品についても同様に、後方視的に使用状況を確認している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年61回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： 補助循環装置、血液浄化装置、人工呼吸器、除細動器、保育器、電気メス、血液検査装置、不整脈解析装置、手術支援システム等</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 ( ☑・無 )</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 点検項目はメーカーの推奨点検項目を順守する運用となっている。 点検項目は大項目として外観点検、作動点検、精度管理、定期点検などである。</li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ☑・無 )</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 医療機器ではないアクリルボールを義眼台として臨床使用した件（臨床倫理委員会及び医療機器安全管理責任者の判断で承認</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： PMDAやメーカーから公開された安全使用のための情報を入手し、院内LANにて閲覧可能な、Sayamanet内 医療安全ホームページに情報を公開している。 重要情報は、2ヵ月毎に開催されているリスクマネージャー会議で報告することにより、全部署に通知することができる。</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者には安全管理センター長（副病院長）を配置。 安全管理委員会においては、委員長を安全管理センター長とし、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を委員として任命している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(6名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医療安全に関連する委員会および会議への参加</p> <p>安全管理委員会、安全管理センター会議、リスクマネージャー会議、薬剤部安全小委員会などに参加し、院内医薬品関連インシデントの発生状況の共有および対策をしている。必要に応じて、院内研修に取り入れている</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品検索システム MDview（株式会社ユヤマ）を使用している。また、薬事委員会資料・添付文書情報・勉強会案内など薬剤情報室が入手した全情報は、電子媒体資料にして薬剤部内ネットワークに存在する共有フォルダに保管管理している。薬事委員には、薬事委員会資料・添付文書情報・削除薬品の在庫状況・新規採用薬品のオーダー開始日など随時メールで配信している。また、医薬品の採用・削除に関しては、電子カルテのお知らせ機能を利用して配信している。</p> <p>緊急安全性情報・安全性情報に関しては、富士通電子カルテポータル「掲示板／お知らせ」と、MDview に掲示している。薬剤部員にはメール配信し、看護部・病棟・外来など関係全部署には紙面の配布を行っている。各部署の薬事委員にはメールを配信し、「緊急安全性情報（安全性速報）の周知徹底について（お願い）」とともに各科薬事委員に紙面の配布を行い、薬事委員は速やかに医局内へ情報を周知徹底し、伝達方法を記入し署名後、薬剤情報室に返却するように徹底している。提出期限は、配布日から2週間以内である。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認および適応外医薬品の使用時は事前に診療科から臨床倫理委員会に審査申請をし、臨床倫理委員会で審査される。承認を得た未承認および適応外医薬品については病院として使用可能としている。説明文書には、適応外使用である旨および医薬品副作用被害救済制度が適用されない可能性がある旨が記載されている。臨床倫理委員会で承認された医薬品の適応外使用については、申請部署から臨床倫理委員会事務局へ定期的に報告している。また、承認内容に応じて、医薬品安全管理責任者は、医療安全対策部薬剤師が月に一度後方視的に確認した院内使用状況について報告を受けている。</p> <p>臨床研究における未承認および適応外使用の場合には、院内の倫理委員会に責任医師から申請し、承認を得て頂く運用としている。</p> <p>処方を受ける薬剤部においては、承認された内容を、部内全員配信メールで周知している。薬剤部（調剤室、薬品管理室、病棟担当および薬剤情報室）が未承認および適応外医薬品の使用に関する情報を把握した際は、疑義照会をした上で、適宜、医薬品安全管理責任者や医療安全対策部薬剤師と情報共有し、臨床倫理委員会で承認を受けるよう処方医に提案している。</p> <p>疾患禁忌について、登録された病名に禁忌となる薬剤を医師が処方しようとすると、富士通電子カルテに警告が表示される。ただし、エラーではなく、ワーニングのため、処方を確定</p>	

することは可能である。システムとしては、電子カルテに MDbank（株式会社ユヤマ）を連携させて処方チェック機能が作動するように設定されている。また、薬剤禁忌については、電子カルテで医師が薬剤を処方しようとする、電子カルテに警告が表示される。ただし、これもエラーではなく、ワーニングのため、処方を確定することは可能である。システムとしては、電子カルテに MDbank を連携させて処方チェック機能が作動するように設定されている。その後、処方された薬剤は薬剤部でチェックをかけ、必要に応じ薬剤師が疑義照会している。これらの状況について、薬事委員会で報告している。

・ 担当者の指名の有無 (  ) ・ 無

・ 担当者の所属・職種：

(所属：医療安全対策部, 職種 薬剤師) (所属：, 職種 )

(所属：薬剤部, 職種 薬剤師) (所属：, 職種 )

(所属：, 職種) (所属：, 職種)

(所属：, 職種) (所属：, 職種)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

・ 無

・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (  ・ 無 )

・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：  
 インフォームド・コンセントマニュアルに、インフォームドコンセントの定義、説明すべき項目と留意事項などを記載している。説明すべき項目と留意事項に沿った内容で説明文書を作成、監査後に電子カルテに掲載している。  
 説明文書は、患者個々の病態・治療内容に応じて追記を行う。追記した場合は、追記した内容が分かるよう電子カルテ端末にスキャナを用いて取り込み、該当患者のカルテで閲覧できるようにしている。カルテ記載の内容については、カルテの質向上委員会で定期的にチェックリストを用いて監査を実施している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

・ 無

・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：  
 診療録の確認は、カルテの質向上委員会と診療情報管理部が共同で、3段階監査を実施している。  
 カルテの監査方法は、①監査対象科の医師同士がそれぞれの症例を監査②他の診療科の医師が監査対象科を監査③医療支援課が監査を行い、注意点について各診療科にフィードバック、診療情報委員会で結果を実名で報告している。開始時の頃から平均点を比較し、経年的に画期的な上昇を認めている。  
 全体の管理責任者は、安全管理センター 医療安全対策部長が担っている。  
 (診療録管理責任者は、医療支援課長)

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

・ 無

・ 所属職員：専従 ( 5 ) 名、専任 ( ) 名、兼任 ( 4 ) 名  
 うち医師：専従 ( 1 ) 名、専任 ( ) 名、兼任 ( 4 ) 名  
 うち薬剤師：専従 ( 1 ) 名、専任 ( ) 名、兼任 ( ) 名  
 うち看護師：専従 ( 3 ) 名、専任 ( ) 名、兼任 ( ) 名

(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. 定期的に医療安全対策室会議を開催し、必要事項を管理委員会に勧告する
2. 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査
3. 定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検
4. マニュアルの作成及び点検並びに見直しの提言等
5. アクシデント・インシデントレポートの収集、保管、分析、分析結果などの現場へのフィードバックと集計結果の管理、具体的な改善策の提案・推進とその評価
6. 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
7. 医療安全に関する職員への啓発、広報
8. 医療安全に関する職員研修の企画、立案、運営

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（24件）、及び許可件数（23件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

・活動の主な内容：

臨床倫理委員会規程をもとに、臨床倫理委員会を設置。

臨床倫理委員会規程より

本規程は、近畿大学病院における医療行為等（医療行為に準じ又は附随する行為を含み、以下、本規程において同じ）に関し、臨床上的倫理的問題を含む事案について、わが国の法令やその他の規範を遵守しつつ十分な審議検討を行うことで、当院の方針とともに、その安全性維持の施策について明示するとともに、その安全性を継続して担保することを目的とする。

高難度新規医療技術とは、医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）に則り、当院で実施経験のない医療技術（軽微な術式の変更等を除く）であってその実施により患者の死亡またはその他の重大な影響が想定されるものを指す。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（20件）、及び許可件数（16件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

・活動の主な内容：

臨床倫理委員会規程をもとに、臨床倫理委員会を設置。

臨床倫理委員会規程より

本規程は、近畿大学病院における医療行為等（医療行為に準じ又は附随する行為を含み、以下、本規程において同じ）に関し、臨床上的倫理的問題を含む事案について、わが国の法令やその他の規範を遵守しつつ十分な審議検討を行うことで、当院の方針とともに、その安全性維持の施策について明示するとともに、その安全性を継続して担保することを目的とする。

未承認新規医薬品等とは、当院で使用経験のない未承認医薬品・医薬品の適応外使用・禁忌薬の使用・未承認医療機器・医療機器の適応外使用が該当する。未承認医薬品・未承認医療機器とは、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和 35 年法律第 145 号）に規定する承認又は認証を受けていない医薬品又は高度管理医療機器を指す。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

#### ⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 692 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 270 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

安全管理委員会は、医療行為における事故を未然に防止し、安全管理に関する諸問題を具体的に検討し、適切な対策を講じ医療の安全性の向上を図ることを目的とする。

原則として月 1 回開催し、以下の事項について審議する。

1. 安全管理センターの報告を受け、医療安全管理の検討及び研究に関すること
  2. 医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに委員会によって立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び見直しに関すること
  3. 医療安全管理のために行う職員に対する指示に関すること
  4. 医療安全管理のために行う病院長等に対する提言に関すること
  5. 医療安全管理のための啓発、教育、広報及び出版に関すること
  6. 医療訴訟に関すること
  7. その他医療安全に関すること
- そのほか、必要に応じて委員長が召集する。

#### ⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り（（病院名：関西医科大学附属病院）・無）
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：関西医科大学附属病院）・無）
- ・ 技術的助言の実施状況  
「薬剤師の病棟服薬管理指導業務はさらなる拡充が望まれる」という助言を受け、現状は、薬剤師の病棟服薬管理指導業務は病棟薬剤業務および薬剤管理指導業として主にハイリスク薬を中心に実施している。限られた労力の中で最大限の対応を取るよう実践している。

#### ⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者支援センターに患者様相談窓口を設置し、安全対策課職員・患者支援センター職員・ソーシャルワーカーが対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

全職員を対象とし、新規採用職員医療安全・感染対策研修、TeamSTEPPS研修を実施している。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者が日本医療機能評価機構主催の2022年度特定機能病院管理者研修に出席

【管理者】

2023年度特定機能病院管理者研修(継続研修) : 2024年1月15日受講

【医薬品安全管理責任者】

2023年度特定機能病院管理者研修(継続研修) : 2024年1月26日受講

【医療機器安全管理責任者】

2023年度特定機能病院管理者研修(継続研修) : 2024年2月6日受講

【医療安全管理責任者】

2023年度特定機能病院管理者研修(継続研修) : 2024年2月26日受講

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構 一般病院3を令和5年5月12日認定

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院正面玄関に認定証を掲示し、また、公式ホームページに評価の状況とともに掲載

・評価を踏まえ講じた措置

- ・説明と同意に関して、指摘事項を踏まえて改善策を見直し確実に実行している。
- ・指摘事項に対して改善策を継続的に実践している。
- ・指摘事項に対して手順を見直し確実に実行している。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 臨床研修等を修了し、高度な医療機関において臨床実績のある者</li> <li>(2) 高度な医療安全に関する資質・能力を有し、高度な医療機関において医療安全関係の業務を経験した者</li> <li>(3) 組織管理に関する資質・能力を有し、高度な医療機関の要職を通じて病院経営管理を経験しており、リーダーシップを有する者</li> <li>(4) 高等教育機関等において教育実績を有する者</li> <li>(5) 高度な研究機関等において研究実績を有する者</li> <li>(6) 近畿大学病院の理念・基本方針を理解し実行する者</li> <li>(7) 収益性の高い病院経営の実績を有する者、もしくは実践する能力を有する者。</li> <li>(8) 心身ともに健康であり、多職種からなる病院の組織管理においてガバナンス能力を発揮し得る者</li> <li>(9) 病院経営に関して創造性豊かな企画力を発揮できる者</li> <li>(10) 新病院移転を滞りなく、最適な形で進捗させる能力を有する者</li> </ol> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 公表の方法 病院ホームページにて公表</li> </ul>
---

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
工藤 正俊	学校法人近畿大学 理事		近畿大学病院長候補者選考会議 規程 第3条第1項第1号に基づき、 理事長が指名する理事	<input checked="" type="radio"/> 有・無

松村 到	近畿大学 医学部 学部長		近畿大学病院長候補者選考会議 規程 第3条第1項第2号に基づき、 近畿大学医学部 医学部長	有・無
赤尾 幸恵	近畿大学病院 副病院長		近畿大学病院長候補者選考会議 規程 第3条第1項第3号に基づき、 理事長が指名する副病院長	有・無
前田 裕弘	医療法人敬任会南 河内おか病院 副院長		近畿大学病院長候補者選考会議 規程 第3条第1項第4号に基づき、 理事長が委嘱する学外の有識者	有・無
松田 公志	関西医科大学 附属病院 病院長		近畿大学病院長候補者選考会議 規程 第3条第1項第4号に基づき、 理事長が委嘱する学外の有識者	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	☑・無		
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>(1) 診療実績に関する事項</p> <p>(2) 各種委員会等からの報告及び懸案事項</p> <p>(3) 中長期目標・中長期計画及び年度計画に関する事項</p> <p>(4) 規程の制定又は改廃に関する事項</p> <p>(5) 予算及び執行並びに決算に関する事項</p> <p>(6) 自ら行う点検及び評価に関する事項</p> <p>(7) その他病院管理運営に関する重要事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 関連会議において議事録を配布、各部署で共有している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・☑）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・☑）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
近畿大学病院管理者会議		別紙②参照	

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (  ・ 無 )
- ・ 公表の方法  
病院ホームページに掲載 ( 病院長選考の公表にも投機、病院HPに公表している )
- ・ 規程の主な内容  
近畿大学病院長に関する規程より  
第2条 病院長は、病院管理者として部門の長等の任命、組織の設置・改廃、人員配置、予算策定を執り行うなど、病院の業務を統括する。
  - 2 病院長は、病院で行われる診療、教育及び研究について、その実施を許可し、実施状況について報告をもとめ、必要に応じて是正又は停止を命ずることができる。
  - 3 病院長は、実務者会議、診療部長会議、管理者会議など、病院の管理・運営に関する重要事項を審議するための会議を開催する。
- ・ 管理者をサポートする体制 ( 副院長、院長補佐、企画スタッフ等 ) 及び当該職員の役割
  - ・ 病院長代理 ( 空席 )
  - ・ 病院長補佐
  - ・ 理事
  - ・ 副病院長
  - ・ 看護部長
  - ・ 医学部・病院運営本部長
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
  1. 研修名  
日本領機能評価機構 特定機能病院管理者研修
  2. 受講者  
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況		有・無			
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>    監査委員会規程をもとに監査委員会を設置。</p> <p>    監査委員会規程より</p> <p>    この規定は、近畿大学病院（以下「本院」という。）が、特定機能病院として高度な医療安全管理体制を構築し、安心・安全な医療を提供するため、医療の質にかかる医療統治、医療安全管理の取り組み等の状況に関する監査機関として、近畿大学病院 監査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>    病院ホームページにて公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
水本 一弘	和歌山県立医科大学医療安全推進部病院教授・麻酔科准教授	○	同医科大学において医療安全部門に就いており、医療安全に精通していることから適任と判断したもの	有・無	1
山口 育子	NPO 法人ささえあい医療人権センター COML 理事長		医療事故調査支援センターの運営委員等の職にも就かれ医療安全に精通していることから適任と判断したもの	有・無	2
小島 崇宏	大阪 A&M 法律事務所 医師・弁		医師として医療機関での職歴もあり、法律学	有・無	1

	護士		に関する専門知識を有することから適任と判断したもの		
川村 純一郎	近畿大学病院 外科主任教授		当院の医療機器安全管理委員会委員長の経験もあり、医療安全に関する情報共有も行っていることから、適任と判断したもの	<input checked="" type="radio"/> ・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

監査室が実施する業務監査時に改正省令等に定める事項につき監査を実施した。

・ 専門部署の設置の有無 (  ・ 無 )

・ 内部規程の整備の有無 (  ・ 無 )

・ 内部規程の公表の有無 ( 有 ・  )

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況  <div style="margin-left: 20px;"> <p>理事長に対し、月次報告として、診療実績報告等の報告が行われ、また、年2~3回開催されている医学部・病院管理者会議（理事長出席）において、病院運営に関する事項が協議されており、その内容等に関し、理事会にて報告されている。</p> </div> </li>   <li>・ 会議体の実施状況（ 年6回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・<input checked="" type="radio"/> ）（ 年 回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="radio"/> ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年0件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 各部署でのポスター掲示、院内ホームページでの公開</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>① 他の医療機関向けに</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機関訪問</li><li>・ ホームページ掲載</li><li>・ 「診療のご案内」（特集疾患、診療内容、トピックス、専門医などの紹介）の発送</li><li>・ 「KINDAI CARELINK」（各診療科の活動内容、トピックスなど）を1回/2か月発行</li><li>・ 連携医向けLINE公式アカウントによる情報発信（診療医一覧、広報誌閲覧、講演会・セミナー案内）</li></ul> <p>② 地域の住民患者向けに</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「きずな（2回/年）」発行、ホームページ掲載、公開講座の開催</li><li>・ 「近大メディカルラジオ」（日々の健康づくりに役立つ情報や医学部・病院スタッフからの情報発信）</li></ul>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 該当科へ対診依頼</li><li>・ 緩和ケアチーム等が主科と連携して診療</li><li>・ 救急災害センターにてER医が初期対応を行った後に専門診療科等へ後送</li></ul>	

令和5年度院内研修会

看護実践能力到達段階別研修

I			
研修テーマ	研修日時	研修内容	講師・担当者
防災設備 137名	令和5年4月11日(火)～ 6月9日(金) 各20分～ 45分	【目的】 防災設備・避難経路を学ぶ 【目標】 自部署の防災設備・避難経路を知ることができる	ケントク担当者
薬剤管理 129名	令和5年4月12日(水)～ 5月27日(土) 各30分～ 1時間20分	【目的】 毒薬・劇薬・麻薬を適切に取り扱うことができる 【目標】 1 毒薬・劇薬の管理方法がわかる 2 向精神薬・カリウム製剤の管理方法がわかる 3 薬剤部で取り扱う血液製剤の種類、請求・返却方法がわかる 4 医療用麻薬の管理方法がわかる 5 医療用麻薬に関する事故発生時の対応がわかる	各病棟担当薬剤師  継続教育室
酸素吸入療法 128名	令和5年4月12日(水)～ 5月17日(水) 各10分～ 1時間10分	【目的】 酸素吸入療法の知識・技術を習得する 【目標】 1 酸素吸入療法の定義・目的・適応がわかる 2 酸素吸入療法の合併症とリスクがわかる 3 酸素ポンベの取り扱いがわかる 4 酸素ポンベの残量の確認方法がわかる	各部署にて開催 各部署教育担当者  継続教育室
ミキシング 128名	令和5年4月12日(水)～ 5月17日(水) 各8分～ 1時間45分	【目的】 輸液管理の基本を理解し、安全な管理が実施できる 【目標】 1 輸液目的に応じたルートの種類がわかる 2 手順通りにミキシングができる	各部署にて開催 各部署教育担当者  継続教育室
心電図モニタの 安全使用 120名	令和5年4月13日(木)～ 9月9日(土) 各30分～ 1時間15分	【目的】 心電図モニタを安全に使用することができる 【目標】 1 心電図モニタを装着する必要性がわかる 2 心電図を装着する部位と理由がわかる 3 アラームの基本設定と対応方法がわかる	各部署にて開催 各部署教育担当者 慢性心不全看護認定看護師 加藤 恵子 継続教育室
基本的スキンケア 医療用テープの 使用方法・ オムツの装着に ついて 126名	令和5年4月20日(木)～ 8月31日(木) 各30分～ 2時間	【目的】 1 スキンケアの基本を理解し、実践で活用できる 2 医療用テープの使用方法を理解し、実践で活用できる 3 オムツの装着方法を理解し、実践で活用できる 【目標】 1 スキンケアの基本が理解できる 2 洗浄のポイント・正しい泡洗浄の方法がわかる 3 保湿・保護のポイントがわかる 4 医療用テープの特徴がわかり、目的に合わせてテープを選択できる 5 テープの貼り方・剥がし方のポイントがわかる 6 オムツの装着方法とポイントが理解できる	各部署にて開催 各部署教育担当者 皮膚排泄ケア認定看護師 津田 美沙緒 紺屋 洋子 新人研修責任者  継続教育室
静脈注射・ 酸素吸入療法 128名	令和5年4月25日(火) 9:00 ～ 12:10 令和5年4月25日(火) 13:30 ～ 16:40 令和5年4月27日(木) 9:00 ～ 12:10 令和5年4月27日(木) 13:30 ～ 16:40 令和5年4月28日(金) 13:30 ～ 16:40	【目的】 静脈注射:輸液管理の基本を理解し、安全な管理が実施できる 酸素吸入療法:酸素吸入療法の知識・技術を習得する 【目標】 静脈注射 1 輸液管理に関わる合併症がわかる 2 輸液管理に関わる静脈注射の種類と構造・使用用途がわかる(CV、CVP、PICC) 3 輸液管理に関わる検査がわかる(血中濃度) 酸素吸入療法 1 酸素吸入療法の定義・目的・適応がわかる 2 酸素吸入療法の合併症とリスクがわかる 3 酸素ポンベの取り扱いがわかる 4 酸素ポンベの残量の確認方法がわかる	各部署教育担当者 IVナース委員会 新人研修責任者  継続教育室



看取りケア・ 看護倫理1	令和5年9月13日(水) 令和5年9月13日(水) 令和5年9月19日(火) 令和5年9月19日(火)	8:50 ~ 12:30 13:50 ~ 17:30 8:50 ~ 12:30 13:50 ~ 17:30	【目的】 看取りケア:終末期の患者・家族にとって大切なことは何かを 考え、関わる事ができる 看護倫理1:看護職の倫理綱領に基づいて行動できる 【目標】 看取りケア 1 終末期の患者の身体的・精神的変化について理解できる 2 看護師として終末期の患者・家族に対してどのように関わる か考えることができる 3 エンゼルケアの目的を理解し、適切な方法で実施するた めの知識を身につけ実践できる 看護倫理1 1 看護職の倫理綱領、倫理原則について理解できる 2 部署で経験した事例をもとに、看護師として倫理に基づいた 行動について考えることができる 3 自己と他者の価値観の違いを認め、自己の価値観を整理 することができる	緩和ケア認定看護師 春木 沙織 家族支援専門看護師 藤野 崇 新人研修責任者
121名				継続教育室
リフレッシュ②	令和5年10月13日(金) 令和5年10月13日(金) 令和5年10月31日(火) 令和5年10月31日(火)	8:50 12:30 13:50 ~ 17:30 8:50 ~ 12:30 13:50 ~ 17:30	【目的】 1 レジリエンスを高め、困難な状況に立ち向かう強さや、 物事を柔軟に受け止める考え方を身に付ける 2 煩雑な業務場面であっても、指導のもと、看護師として 責任のある判断、行動ができるようになる 【目標】 1 レジリエンスの意味、レジリエンスを高める必要性がわかる 2 レジリエンスを高めるための方法を知り、自分の生活や 仕事で取り入れるイメージができる 3 自己の実践を振り返り、看護師としてどのように考え、行動 するべきか考えることができる 4 キャリアとは何かを知り、自己のキャリアについてイメージ する機会を持つことができる	安全衛生管理センター 公認心理士 川上 卓朗 新人研修責任者
121名				継続教育室
フィジカル アセスメント1	令和5年11月7日(火) 令和5年11月7日(火) 令和5年11月14日(火) 令和5年11月14日(火) 令和5年11月30日(木) 令和5年11月30日(木)	8:50 ~ 12:30 13:50 ~ 17:30 8:50 ~ 12:30 13:50 ~ 17:30 8:50 ~ 12:30 13:50 ~ 17:30	【目的】 患者の身体的な情報を意図的に収集し、患者の身体で何が 起きているのか判断し、必要な看護援助を考えることが できる 【目標】 1 患者の身体的な情報を意図的に収集する方法(問診・ フィジカルイグザミネーション)がわかる 2 バイタルサインから患者の身体状態をアセスメントすることが できる	救急看護認定看護師 西 有未 新人研修責任者
117名				継続教育室
フィジカル アセスメント2	令和5年12月8日(金) 令和5年12月8日(金) 令和5年12月11日(月) 令和5年12月11日(月) 令和5年12月12日(火) 令和5年12月12日(火)	8:50 ~ 12:30 13:50 ~ 17:30 8:50 ~ 12:30 13:50 ~ 17:30 8:50 ~ 12:30 13:50 ~ 17:30	【目的】 患者の身体的な情報を意図的に収集し、患者の身体で何が 起きているのか判断し、必要な看護援助を考えることが できる 【目標】 1 患者の身体的な情報を意図的に収集し、患者の状態を アセスメントすることができる 2 アセスメントしたことを報告し、記録することができる 3 アセスメントしたことから、必要な看護援助を考えることが できる	集中ケア認定看護師 阿部 健太 新人研修責任者
116名				継続教育室
リフレクション	令和6年1月10日(水) 令和6年1月10日(水) 令和6年1月23日(火) 令和6年1月23日(火)	8:50 ~ 11:30 13:50 ~ 16:30 8:50 ~ 11:30 13:50 ~ 16:30	【目的】 リフレクションの基本を学び、支援を受けながら自己の看護 実践を振り返ることができるようになる 【目標】 1 リフレクションの基本的な知識が理解できる 2 事例をもとにリフレクションを行い、自分の思考や感情、看護 する上で自分が大切にしていることに気づくことができる 3 リフレクションを通じて、自分の強みや弱みを知り、今後の 実践につなげるための具体的な行動について考えることが できる 4 グループメンバーのリフレクションを傾聴することができる	新人研修責任者
117名				継続教育室
1年フォローアップ	令和6年2月6日(火) 令和6年2月6日(火) 令和6年2月14日(水) 令和6年2月14日(水)	8:50 ~ 12:00 13:50 ~ 17:00 8:50 ~ 12:00 13:50 ~ 17:00	【目的】 1年間の自己の看護実践を振り返り、2年目につなげることが できる 【目標】 1 1年間を振り返り、看護師としての自己の成長と今後の 課題を明確にできる 2 将来の自分のありたい姿について考えることができる 3 将来の自分のありたい姿に向けて、今できること、今やる べきことについて考えることができる	新人研修責任者
115名				継続教育室



<p>見る力2回目</p> <p>79名</p>	<p>令和5年8月22日(火) 13:50 ~ 17:30</p> <p>令和5年8月29日(火) 8:50 ~ 12:30</p> <p>令和5年8月29日(火) 13:50 ~ 17:30</p>	<p>基本的知識・技術を統合し、根拠に基づいた看護ケアを 実践することができる</p> <p>【目標】</p> <p>1 患者・家族、その他の情報源を活用し、意図的な情報収集の方法がわかる</p> <p>2 高齢者の特徴を理解し、身体的・精神的・社会的な側面からアセスメントする方法がわかる</p> <p>3 患者の安全・安楽に配慮し、根拠に基づいた看護実践を 考えることができる</p> <p>4 事例を活用し、個別性のある看護過程の展開について 学習する</p>	<p>宇城 恵 皮膚排泄ケア認定看護師</p> <p>津田 美沙緒 老人看護専門看護師</p> <p>北井 園子</p> <p>継続教育室</p>
<p>マネジメント研修 (リーダーシップ)</p> <p>42名</p>	<p>令和5年8月30日(水) 13:30 ~ 17:00</p>	<p>【目的】</p> <p>リーダーシップの理論を学び、実際のリーダーとしての 実践・行動に活用することができる</p> <p>【目標】</p> <p>1 リーダーシップに必要な基礎的知識について理解できる</p> <p>2 リーダーの果たす役割・機能について理解できる</p> <p>3 後輩を育てるためのリーダーとしての役割について考える ことができる</p> <p>4 リーダーシップを発揮する上での自己の課題を明確にし、 解決方法を考えることができる</p>	<p>愛媛大学医学部附属病院 内藤 知佐子先生</p> <p>継続教育室</p>
<p>安全管理2</p> <p>28名</p>	<p>・e-ラーニング期間 令和5年9月1日(金)~9月20日(水)</p> <p>・集合研修 令和5年10月27日(金) 13:50 ~ 16:30</p>	<p>【目的】</p> <p>安全対策を適切に実践するための基礎力を獲得することが できる</p> <p>【目標】</p> <p>1 医療安全管理指針や医療安全マニュアル、看護部の基準・ 手順など院内の安全管理上必要な取り決めを確認する ことができる</p> <p>2 安全対策を適切に実践するために医療安全マニュアルなど 基準となるものを活用して、自己の実践を振り返ることが できる</p> <p>3 医療安全上のリスクを予測するために、把握すべき情報が わかり、予測されたリスク(多重課題)を解決する方法を 考えることができる</p>	<p>医療安全対策室 副看護長 美野 美香</p> <p>継続教育室</p>
<p>メンバーを ゴールに導く ファシリテーション</p> <p>20名</p>	<p>令和5年9月4日(月) 13:20 ~ 17:00</p>	<p>【目的】</p> <p>目標へ至る道筋を意識化し、到達を促すことができる</p> <p>【目標】</p> <p>1 ファシリテーションに必要な基本的知識を理解できる</p> <p>2 ファシリテーションの知識を用いて、チームや集団の 目標の実現を促す方法を考えることができる</p>	<p>同志社女子大学 荻洲 貞明先生</p> <p>継続教育室</p>
<p>Ⅱ段階初年度研修 見る力3回目</p> <p>79名</p>	<p>令和5年10月3日(火) 8:50 ~ 12:00</p> <p>令和5年10月3日(火) 13:50 ~ 17:00</p> <p>令和5年10月10日(火) 8:50 ~ 12:00</p> <p>令和5年10月10日(火) 13:50 ~ 17:00</p>	<p>【目的】</p> <p>1 患者・家族の思いや考え、希望を確認し、ケアに関連づける ことができる</p> <p>2 自己の看護実践を、事例検討としてまとめることができる</p> <p>【目標】</p> <p>1 自分自身の看護を振り返ることができる</p> <p>2 患者・家族の思いや考え、希望、理解度を確認できる</p> <p>3 患者の個性や優先順位を考え看護過程が展開できる</p>	<p>脳卒中リハビリテーション 看護認定看護師 林 真由美</p> <p>継続教育室</p>
<p>Ⅱ段階初年度研修 教える力1</p> <p>75名</p>	<p>・e-ラーニング期間 令和5年10月2日(月)~10月23日(月)</p> <p>・集合研修 令和5年11月8日(水) 8:50 ~ 11:30</p> <p>令和5年11月8日(水) 13:50 ~ 16:30</p> <p>令和5年11月29日(水) 8:50 ~ 11:30</p> <p>令和5年11月29日(水) 13:50 ~ 16:30</p>	<p>【目的】</p> <p>成人学習者である他者の学びを促進する関わり方ができる</p> <p>【目標】</p> <p>1 看護師としての学習、成人学習理論を理解できる</p> <p>2 指導の基本、指導者の役割を理解し、指導について自己の 考えを述べることができる</p> <p>3 学習意欲を高める技法を理解し、指導に取り入れられる ように考えることができる</p>	<p>副看護部長 松林 輝代子</p> <p>継続教育室</p>
<p>教える力1</p> <p>92名</p>	<p>・e-ラーニング期間 令和5年10月2日(月)~10月23日(月)</p> <p>・集合研修 令和5年11月10日(金) 8:50 ~ 11:30</p> <p>令和5年11月22日(水) 8:50 ~ 11:30</p> <p>令和5年11月24日(金) 8:50 ~ 11:30</p> <p>令和5年11月24日(金) 13:50 ~ 16:30</p>	<p>【目的】</p> <p>成人学習者である他者の学びを促進する関わり方ができる</p> <p>【目標】</p> <p>1 看護師としての学習、成人学習理論を理解できる</p> <p>2 指導の基本、指導者の役割を理解し、指導について自己の 考えを述べることができる</p> <p>3 学習意欲を高める技法を理解し、指導に取り入れられる ように考えることができる</p>	<p>副看護部長 松林 輝代子</p> <p>継続教育室</p>
<p>教える力2</p> <p>29名</p>	<p>・e-ラーニング期間 令和5年11月1日(水)~11月20日(月)</p> <p>・集合研修 令和5年12月7日(木) 13:50 ~ 16:00</p>	<p>【目的】</p> <p>成人学習者である他者の学びを促進する関わり方ができる</p> <p>【目標】</p> <p>1 看護師としての学習、成人学習理論を理解できる</p> <p>2 後輩指導での困りごとを解決する方法を学ぶことができる</p>	<p>家族支援専門看護師 藤野 崇</p> <p>継続教育室</p>

トータルペインの アセスメントとケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>•e-ラーニング期間 令和5年12月1日(金)～12月22日(金)</li> <li>•集合研修 令和6年1月6日(土) 8:50～11:30</li> </ul>	<b>【目的】</b> 身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面の問題を緩和する実践力を獲得する <b>【目標】</b> 1 身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面の障害について情報収集する方法がわかる 2 得られた情報をもとに、全人的苦痛(totalpain)をとらえることができる 3 個別性を考慮しつつ全人的苦痛(totalpain)を緩和する看護ケアを検討できる	がん性疼痛看護認定看護師 竹久 志穂  継続教育室
輸液ポンプ 実地指導者 シミュレーション	令和6年2月8日(木) 13:30～17:00	<b>【目的】</b> 正しい輸液ポンプの操作を理解し、指導に活かすことができる <b>【目標】</b> 1 輸液ポンプ使用中の観察ができる 2 輸液ポンプのトラブルに伴う薬剤の影響を予測できる 3 輸液ポンプのトラブルの解除方法の指導ができる	静脈注射認定看護師 IVナース委員会
<b>III</b>			
研修テーマ	研修日時	研修内容	講師・担当者
麻薬持続 皮下注射	<ul style="list-style-type: none"> <li>•e-ラーニング期間 令和5年8月1日(火)～8月31日(木)</li> <li>•確認テスト 令和5年9月19日(火) 16:00～17:00 令和5年9月20日(水) 16:00～17:00 令和5年9月21日(木) 16:00～17:00 令和5年9月28日(木) 16:00～17:00 令和5年9月29日(金) 16:00～17:00</li> </ul>	<b>【目的】</b> 麻薬の基本的な知識を習得し、麻薬持続皮下注射実施基準に基づいた実施ができる <b>【目標】</b> 1 麻薬の基本的な知識がある 2 麻薬持続皮下注射実施基準に基づいて実施できる	静脈注射認定看護師 IVナース委員会
臨床実習指導者	令和5年5月29日(月) 14:00～17:00 令和5年10月30日(月) 13:50～17:00	<b>【目的】</b> 効果的な臨床実習指導の実践につなげる方法を学ぶ <b>【目標】</b> 1 臨床実習指導の効果的な指導のあり方を理解できる 2 臨床実習指導者として看護学生の学習目標達成に向けての関わり方を学ぶ	近畿大学附属看護学校 田上教務部長 森教務主任 統括看護長 北本 智美 継続教育室
看護研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>•e-ラーニング期間 令和5年7月1日(土)～7月31日(月)</li> <li>•個別対応 令和5年8月</li> </ul>	<b>【目的】</b> 看護研究計画の遂行に必要な思考のプロセスに沿って自分の考えを整理し、研究計画をまとめることができる <b>【目標】</b> 1 看護研究ワークシートに従って、研究についての自分の考えを整理できる 2 自分の考えを研究計画書としてまとめることができる	家族支援専門看護師 藤野 崇  継続教育室
感染対策3	<ul style="list-style-type: none"> <li>•e-ラーニング期間 令和5年7月1日(土)～7月18日(火)</li> <li>•集合研修 令和5年8月23日(水) 13:50～16:00</li> </ul>	<b>【目的】</b> 1 所属部署で、患者の感染兆候から危険を予測し、感染対策を考え、適切に実践することができる 2 感染対策について、所属部署の問題点を抽出し、問題解決に向けリーダーシップを発揮した行動がとれる。 <b>【目標】</b> 1 患者の感染兆候から、必要な感染経路別予防策を考えることができる 2 感染を予防するために必要な看護実践について検討することができる 3 同僚や他職種と協力して対策を実践するために、リーダーとしてどのように行動すべきかを考えることができる 4 所属部署での実践を振り返り、感染対策に関する部署の問題点を抽出し、問題解決に向けて対策を検討することができる	感染管理認定看護師 廣瀬 茂雄  継続教育室
看護に活かす 臨床推論	<ul style="list-style-type: none"> <li>•e-ラーニング期間 令和5年7月11日(火)～8月10日(木)</li> <li>•集合研修 令和5年10月17日(火) 13:50～17:00</li> </ul>	<b>【目的】</b> 重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につける <b>【目標】</b> 1 臨床推論とはなにか理解できる 2 疾患の成り立ちと症状の関係、診断・診療に至る思考プロセスが理解できる 3 臨床推論を活かし、看護実践と関連つけて考えることができる	皮膚排泄ケア認定看護師 津田 美沙緒  継続教育室

看護倫理3  21名	<ul style="list-style-type: none"> <li>e-ラーニング期間 令和5年8月1日(火)～8月31日(木)</li> <li>集合研修 令和5年9月26日(火) 13:50～16:30</li> </ul>	<p><b>【目的】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 所属部署の倫理的問題について、検討することができる基礎力を養う</li> <li>2 倫理的問題場面で、リーダーとして倫理的行動をとる際の障壁に対応ができる</li> <li>3 メンバースタッフが倫理的行動をとる際の障壁への対応ができる</li> </ol> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 倫理的問題に対して適切な手順に則り、検討する方法が分かる</li> <li>2 リーダーとして役割を果たす上で、倫理的行動の障壁となることを自覚できる</li> <li>3 メンバースタッフが倫理的行動の障壁となることを考えられる</li> <li>4 リーダーとして関わるスタッフ達の倫理的行動の妨げとなる障壁を分析し、対策を考えられる</li> </ol>	<p>家族支援専門看護師 藤野 崇</p> <p>継続教育室</p>
安全管理3  14名	<ul style="list-style-type: none"> <li>e-ラーニング期間 令和5年8月1日(火)～8月17日(木)</li> <li>集合研修 令和5年9月29日(金) 13:50～17:00</li> </ul>	<p><b>【目的】</b></p> <p>リーダーとして自部署で安全なケアを実践するための力を習得する</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療安全上のリスクを予測するのに必要な視点を理解できる</li> <li>2 医療安全上のリスクを低減するための対応策を理解できる</li> <li>3 リーダーとして役割を果たす上で出会う可能性のある事例を理解できる</li> <li>4 リーダーとして医療安全上のリスクの分析や対策を考える方法が理解できる</li> </ol>	<p>医療安全対策室 副看護長 美野 美香</p> <p>継続教育室</p>
静脈注射院内 認定看護師育成  6名	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義 令和5年8月15日(火) 13:30～17:30</li> <li>筆記テスト 令和5年8月29日(火) 15:00～16:00</li> <li>集合研修 令和5年9月22日(金) 13:30～17:00</li> </ul>	<p><b>【目的】</b></p> <p>安全な静脈注射が実施できる看護師を育成するために必要な知識が習得できる</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 静脈注射に関連した解剖生理を正しく理解する</li> <li>2 静脈経路からの薬理作用や配合変化について正しく理解する</li> <li>3 抗がん剤を適切に取り扱える</li> <li>4 静脈注射に関連した安全対策を理解する</li> <li>5 静脈注射に関連した合併症と対応策を理解する</li> <li>6 静脈注射に関する教育・指導について考えることができる</li> </ol>	<p>整形外科 大谷 和裕教授 薬剤師 川口 明範 がん化学療法看護認定看護師 中森 良子</p> <p>IVナース委員会</p>
教える力3  28名	<ul style="list-style-type: none"> <li>e-ラーニング期間 令和5年11月1日(水)～11月22日(水)</li> <li>集合研修 令和5年12月15日(金) 8:50～11:00</li> </ul>	<p><b>【目的】</b></p> <p>リフレクションを活用し、日常業務の中で経験から学び、他者の成長を支える関わりができる</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 仕事の場を通した学び、深く学ぶための考え方を理解できる</li> <li>2 リフレクションの基礎知識と実践方法を獲得できる</li> <li>3 業務の中で、どのようにリフレクションを活用するのかイメージできる</li> </ol>	<p>家族支援専門看護師 藤野 崇</p> <p>継続教育室</p>
マネジメント研修 (先輩に学ぶ 問題解決のコツ)  7名	<ul style="list-style-type: none"> <li>e-ラーニング期間 令和5年11月1日(水)～11月30日(木)</li> <li>集合研修 令和5年12月22日(金) 13:50～17:00</li> </ul>	<p><b>【目的】</b></p> <p>リーダー役割を果たす上での問題を発見し、問題解決に取り組むことができる</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 問題とは、問題解決とは何かを理解できる</li> <li>2 問題解決の考え方(方法)を理解することができる</li> <li>3 PDCAサイクルを理解できる</li> <li>4 問題解決のコツを先輩看護師から学ぶことができる</li> </ol>	<p>家族支援専門看護師 藤野 崇</p> <p>継続教育室</p>
マネジメント研修 (交渉術)  7名	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年11月2日(木) 13:20～17:15</li> </ul>	<p><b>【目的】</b></p> <p>看護師として、リーダー業務の実施、リーダーシップを発揮することが求められる場面で必要な交渉力を身につけることができる</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護師として、リーダー業務の実施、リーダーシップ発揮を必要の場面で必要な交渉術を理解することができる</li> <li>2 場面に応じた交渉術を活用する方法を考えることができる</li> <li>3 「看護実践をする上で、交渉力を必要とすると感じた場面」で交渉術を活用した問題解決策を考えることができる</li> </ol>	<p>医療法人協和会 理事長補佐 青木 菜穂子</p> <p>継続教育室</p>
教える力4  10名	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年12月14日(木) 8:50～11:00</li> </ul>	<p><b>【目的】</b></p> <p>学習者の実践での学びを支援することができる</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 部署を取り巻く学びのネットワークを理解する</li> <li>2 成人学習の特徴を理解し、学びを促す方法がわかる</li> <li>3 OJTでの効果的な指導について考えることができる</li> </ol>	<p>家族支援専門看護師 藤野 崇</p> <p>継続教育室</p>

IV			
研修テーマ	研修日時	研修内容	講師・担当者
災害看護  9名	令和5年6月21日(水) 13:50 ~ 17:00 令和5年12月26日(火) 13:50 ~ 17:00	【目的】 災害看護の基礎知識を持ち、自部署での初期対応を考えた行動ができる 【目標】 1 災害看護の基礎知識がわかる 2 自部署の災害への備えの現状・課題の確認ができる 3 災害発生時の初期対応がシミュレーションできる	日本DMAT・災害支援ナース 倉又 佳代  継続教育室
看護倫理4  19名	・e-ラーニング期間 令和5年7月1日(土)～7月31日(月)	【目的】 所属部署の倫理的問題についての現状分析、解決に向けた行動を促進する基礎力を養う 【目標】 1 倫理カンファレンスの検討を促す方法が分かる ファシリテーターとして、効果的な倫理カンファレンスになるようにどのような立ち位置に立ち、何を管理するのかを以下の項目のファシリテーションのポイントを学ぶ 2 模擬カンファレンスにおいて、押さえるべきポイントを踏まえたファシリテーションに取り組む事ができる 3 部署の倫理的問題を解決する上で障壁となることを分析できる 4 部署の倫理的問題を解決する上で障壁となることの問題解決を図ることができる	家族支援専門看護師 藤野 崇  継続教育室
クリニカルコーチ 育成  15名	令和5年7月7日(金) 12:50 ~ 17:00 令和5年10月6日(金) 12:50 ~ 17:00	【目的】 クリニカルコーチとして、スタッフに対する教育的支援や効果的な研修運営が行える 【目標】 1 学生・後輩に対する自分自身の指導方法を振り返り、より効果的な指導について考えることができる 2 スタッフが学生・後輩に対して効果的に指導できるように、助言及び指導する方法を考えることができる 3 看護単位別研修計画に沿って、効果的な研修の企画・実施・評価について考えることができる 4 ファシリテーターとして必要なスキルがわかり、演習で実施できる	副看護部長 松林 輝代子  継続教育室
感染管理  13名	・e-ラーニング期間 令和5年9月1日(金)～9月20日(水) ・集合研修 令和5年10月18日(水) 13:50 ~ 16:00	【目的】 感染管理に必要な知識・技術を習得し、日々のケアを通して根拠に基づいた感染防止対策を実践・指導できる 【目標】 1 感染管理に必要な知識を習得する 2 事例を通して、速やかに情報収集でき、ベッドコントロールやスタッフ・患者指導なども含めた、感染対策について考えることができる 3 感染管理の基礎知識を得て、部署教育するための能力を養うことができる	感染管理認定看護師 三五 裕子  継続教育室
教える力5  15名	・e-ラーニング期間 令和5年11月1日(水)～11月30日(木) ・集合研修 令和5年12月13日(水) 13:50 ~ 16:30	【目的】 部署の研修を効果的に運営し、学習者の実践での学びを支援できる 【目標】 1 部署を取り巻く学びのネットワークを理解する 2 部署の研修の運営(企画・実施・評価)の方法を理解する 3 自部署の研修の現状を分析し、より効果的な運営方法を検討できる	看護長 中野 美紀  継続教育室
クリニカルコーチ フォローアップ  16名	令和5年12月1日(金) 13:50 ~ 16:00	【目的】 クリニカルコーチとして、スタッフに対する教育的支援や効果的な研修運営が行える 【目標】 1 クリニカルコーチとしての役割を再認識できる 2 教育的支援や効果的な研修運営について自身の行動を振り返り、課題を明確にすることができる	副看護部長 松林 輝代子  継続教育室

全体看護職員対象			
研修テーマ	研修日時	研修内容	講師・担当者
BLS ・e-ラーニング 120名 ・演習 52名	・e-ラーニング期間 令和6年1月22日(月)～2月29日(木) ・演習(各30分) 令和6年2月22日(木) 16:00～18:00 令和6年2月27日(火) 16:30～18:00 令和6年2月28日(水) 15:30～17:30 令和6年2月29日(木) 16:30～18:00 令和6年3月12日(火) 16:30～18:00 令和6年3月13日(水) 16:30～18:00 令和6年3月14日(木) 16:00～17:30	<b>【目標】</b> 心肺停止患者に対して行うBLSの知識・技術を習得する <b>【目標】</b> 1 BLSアルゴリズムに沿って患者への対応を考えることができる 2 応援要請の方法ができる 3 胸骨圧迫、呼吸サポートができる 4 AEDの安全な使用ができる	継続教育室
管理者研修			
研修テーマ	研修日時	研修内容	講師・担当者
モチベーションを高める目標管理面接 56名	令和5年7月8日(土) 9:30～12:30 13:30～16:30	<b>【目的】</b> モチベーションを高める目標管理面接 <b>【目標】</b> 目標管理とモチベーション理論を理解し、面接対話の質向上ができる	株式会社フェアアンドイノベーション 永瀬 隆之先生 看護部管理室
主任に求められるコミュニケーション力 41名	令和5年12月16日(土) 9:30～12:45	<b>【目的】</b> 主任の役割に必要なコミュニケーション力を身につける <b>【目標】</b> 1 上司と良好な関係を保ち、スタッフが安心できるコミュニケーション力を身につける 2 主任としてのモチベーションを保つことができる	愛媛大学医学部附属病院 内藤 知佐子先生 看護部管理室
その他の研修			
研修テーマ	研修日時	研修内容	講師・担当者
自殺予防対策 84名	令和5年9月14日(木) 12:50～17:00 令和5年10月5日(木) 12:50～17:00 令和5年10月20日(金) 12:50～17:00	<b>【目標】</b> 1 自殺がなぜ起こるのかを理解する 2 患者の自殺のサインを見極められるようになる 3 自殺念慮を聴取できるようになる 4 多職種・チームで自殺予防に取り組める	院内自殺予防対策委員会 看護部管理室
自殺予防対策 35名	令和6年2月8日(木) 12:50～17:00 令和6年2月29日(木) 12:50～17:00	<b>【目標】</b> 1 患者の自殺のサインを見極められるようになる 2 自殺念慮を聴取できるようになる 3 多職種・チームで自殺予防に取り組める	院内自殺予防対策委員会 看護部管理室
看護補助者			
研修テーマ	研修日時	研修内容	講師・担当者
チームの一員 126名	令和5年6月16日(金) 14:00～15:00 令和5年6月19日(月) 14:00～15:00 令和5年6月20日(火) 14:00～15:00 令和5年6月23日(金) 14:00～15:00 令和5年6月28日(水) 14:00～15:00	<b>【目的】</b> 近畿大学病院看護部職員の一人として役割意識を高める <b>【目標】</b> 1 看護部長の方針を理解する 2 看護補助者として働く環境と、チームの一員としての役割を理解する 3 医療情勢における看護補助者の役割と業務拡大を理解する	看護部長 青木 真理 看護補助者研修担当
日常生活援助技術「洗髪」 40名	令和5年7月1日(土)～10月31日(火) 1時間	<b>【目的】</b> 患者の安全を考慮し、身体の清潔に関する業務を遂行するための技術を習得できる <b>【目標】</b> 1 洗髪の方法が理解できる 2 洗髪の留意点が理解できる 3 安全に配慮し、洗髪が実施できる	所属部署の主任看護師 看護補助者研修担当
日常生活援助技術「清拭」 36名	令和5年7月1日(土)～10月31日(火) 1時間	<b>【目的】</b> 患者の安全を考慮し、身体の清潔に関する業務を遂行するための技術を習得できる <b>【目標】</b> 1 清拭の方法が理解できる 2 清拭の留意点が理解できる 3 安全に配慮し、清拭が実施できる	所属部署の主任看護師 看護補助者研修担当
日常生活援助技術「口腔ケア」 27名	令和5年7月19日(水) 14:00～15:00	<b>【目的】</b> 患者の安全を考慮し、日常生活援助に関する業務を遂行するための技術を習得できる <b>【目標】</b> 1 口腔ケアの方法が理解できる 2 口腔ケアの留意点が理解できる 3 安全に配慮した口腔ケアの習得ができる	看護補助者研修担当

日常生活 援助技術 「配下膳・ 食事介助」  29名	令和5年9月22日(金) 14:00 ~ 15:00	【目的】 患者の安全を考慮し、日常生活援助に関する業務を遂行するための技術を習得できる 【目標】 1 配下膳・食事介助の目的・援助の方法が理解できる 2 配下膳・食事介助の留意点が理解できる 3 安全に配慮した配下膳・食事介助の習得ができる	看護補助者研修担当
安全な療養環境  61名	令和5年10月13日(金) 14:00 ~ 15:00 令和5年10月17日(火) 14:00 ~ 15:00	【目的】 看護補助業務を遂行するための安全な療養環境について学ぶ 【目標】 1 患者の安全を守るための基礎知識を学ぶ 2 医療事故を防止する対応策を考え実践できる	看護補助者研修担当
一次救命処置  31名	令和5年10月27日(金) 14:00 ~ 15:00 令和5年10月31日(火) 14:00 ~ 15:00 令和5年11月1日(水) 14:00 ~ 15:00	【目標】 一次救命処置の知識・技術を学ぶ 【目標】 1 心肺蘇生法を習得する 2 AEDを使用することができる	看護補助者研修担当
感染予防の基本  64名	令和5年11月7日(火) 14:00 ~ 15:00 令和5年11月15日(水) 14:00 ~ 15:00	【目的】 看護補助業務を遂行するための感染対策が実施できる 【目標】 1 感染防止の基礎知識を学ぶ 2 患者および自身の感染対策を理解し実践できる	感染管理認定看護師 三五 裕子 感染症看護専門看護師 久光 由香 看護補助者研修担当